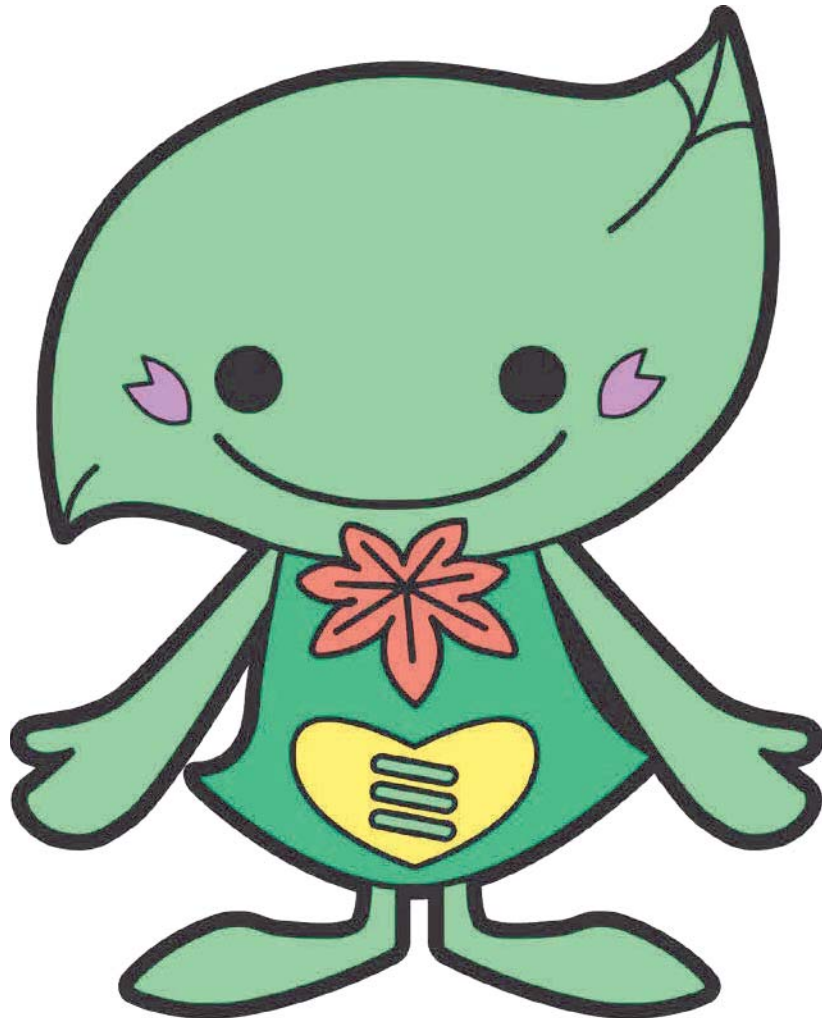


第3期 緑区地域福祉推進計画

みどりのわ
ささえ愛
プラン

平成30年度 推進状況報告書



平成31年3月

横浜市緑区役所 横浜市緑区社会福祉協議会
緑区地域ケアプラザ・地域包括支援センター

第3期緑区地域福祉保健計画 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 推進状況報告書

活用の仕方



第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、各地区の特徴を踏まえた「地区別計画」、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し取り組む「区域計画」、さらに、それらを総括する基本的指針である「全体計画」で構成されています。

地域の課題解決に向け、区民・事業者・行政が協働して計画を推進していますが、その概要を年度毎に「推進状況報告書」としてまとめ、冊子を発行しています。

1 計画の概要を知りたい!

- 「第1章 計画の概要」をご参照ください
緑区の地域福祉保健計画の経過や計画の内容、特徴や、年度に取り組んだ事業などを紹介しています。



2 自分の住んでいる地域の取組を知りたい!



「地区別計画推進状況」の一覧 (P.12) から、気になる取組を発見!

取組の内容や推進状況を細かくチェック!

- 「第2章 地区別計画」をご参照ください
区内11地区それぞれの概況や人口データ、地区別計画推進委員会通信などをまとめています。特徴的な取組や推進状況が掲載されている通信は、自治会で班回覧などもしています。
- 他の地区の取組も参考になります
「第2章 地区別計画」では、地区別計画推進委員会の開催状況を一覧でまとめています。「地区別委員会での検討概要」を参考に、気になる取組をチェック! してみてください。

3 緑区全体の取組や推進状況について知りたい!

- 「第3章 区域計画」をご参照ください
「地区別計画」の取組支援を目的とした「地区支援目標」と、区域での必要な取組として選定した「6つの重点テーマと目標」で構成される「区域計画」の主な取組などを紹介しています。



各地域ケアプラザ・地域包括支援センターの取組について詳しく紹介しています。

社会福祉大会の様子なども紹介しています。

- お問合せ先電話番号
- 緑区福祉保健課 事業企画担当
電話 045-930-2304
FAX 045-930-2355
 - 緑区社会福祉協議会
電話 045-931-2478
FAX 045-934-4355

4 他にどんな情報が載っていますか?

- 「参考」ページに地域ケアプラザ・地域包括支援センターの一覧をのせています。
福祉や保健に関することや、地域活動に関する情報提供などを行っている身近な施設としてご活用ください。

平成30年度 推進状況報告書

目次



第1章 計画の概要

1	地域福祉保健計画とは	1
2	緑区地域福祉保健計画	1
3	第3期計画の内容と特徴	4
4	第3期計画の推進に向けた取組について	8

第2章 地区別計画

1	「地区別計画」の推進について	11
2	東本郷地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	13
3	鴨居地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	19
4	竹山地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	25
5	白山地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	31
6	新治中部地区 地域と主な取組 通信 (No.5)	37
7	三保地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	43
8	山下地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	49
9	新治西部地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	55
10	十日市場団地地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	61
11	霧が丘地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	67
12	長津田地区 地域と主な取組 通信 (No.5・No.6)	73

第3章 区域計画

1	「区域計画」の推進について	79
2	コラム	84
3	社会福祉大会	85
4	地域ケアプラザ・地域包括支援センターとの連携	87
5	東本郷地域ケアプラザ	88
6	鴨居地域ケアプラザ	89
7	中山地域ケアプラザ	90
8	地域包括支援センターふじ寿か園	91
9	十日市場地域ケアプラザ	92
10	霧が丘地域ケアプラザ	93
11	長津田地域ケアプラザ	94
12	緑区社会福祉協議会の主な取組	95
13	緑区役所の主な取組	97
●	<参考>地域ケアプラザ・地域包括支援センター	99

(表紙中面) 推進状況報告書 活用の仕方

(裏表紙中面) 編集・発行者

第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。

横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画（以下「市計画」という。）と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画（以下「区計画」という。）があります。

また、地域福祉の推進を目指し、地域住民・福祉保健等の関係団体や事業者等が地域で主体的に進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画があります。

それぞれの計画は相互に補完・連携し、役割分担をしていくものであることから、横浜市では、地域にわかりやすい計画となるよう策定のプロセスを共有し、整合性のとれた1つの計画として一体的に策定しています。これにより、行政や市民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所などの地域にかかわる方々にとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となることを目指しています。

2 緑区の地域福祉保健計画

(1) 第1期計画（平成18～22年度）

緑区では、平成16年度策定の「市計画」を受け、「みどりのわ・ささえ愛プラン」第1期計画を平成18年1月に策定しました。

策定にあたっては、区内11連合自治会単位で地区別意見交換会を3回ずつ開催しました。また、分野別団体別インタビュー、区民アンケートを実施し、そこで出されたさまざまな意見を、「つながり」「人材・担い手」「機会・場」「情報」「安心・安全・健康」の5つのキーワードに分類し、各団体の代表者や公募委員、学識経験者で構成する策定委員会で検討を進めました。

そして、計画の基本理念と、上記のキーワードを核とした5つの基本目標などを設定しました。



●第1期計画の基本理念と基本目標

基本理念 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして

～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～

基本目標1 地域での「つながり」を大切にするまちづくり（キーワード：つながり）

基本目標2 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）

基本目標3 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）

基本目標4 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）

基本目標5 「安心・安全・健康」のまちづくり（キーワード：安心・安全・健康）

(2) 第2期計画（平成23～27年度）

第1期計画の振り返り等を踏まえ、区内11地区の実状や地域の特色を活かし、区民と協働で策定する「地区別計画」と、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し、緑区全体で取り組む「区計画」の2つで構成することとしました。

この第2期計画は、日常生活に関連した課題などに対する地域の取組計画をまとめた「地区別計画」と、地域を越える課題や、近隣では対応しにくく区全体を対象とした課題、地域の取組を支援する計画などをまとめた「区計画」とが互いに連動することで、より有効な計画となっています。

① 地区別計画策定の経過

■地区別計画策定委員会の立ち上げ・委員会の開催

「地区別計画」を区内 11 連合自治会・地区社会福祉協議会を単位として策定することとし、地区別計画の策定等を中心となって進める「推進母体」としての役割をもつ「地区別計画策定委員会」を、各連合自治会を中心に順次立ち上げました。委員会は、連合自治会、地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という。）、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者などの方々が構成され、区内 11 地区で延べ 32 回の委員会を開催し、延べ 450 人の方々が参加して、検討を重ねました。

また、地区別計画策定に向けた委員会の開催主旨や、今後のスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換などを行うことを目的に「地区別計画策定連絡会」を4回開催しました。



■地区支援チームの設置

地区別計画策定に向けて、区役所、区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）、地域ケアプラザ等で構成される「地区支援チーム」を地区ごとに設置しました。

地区支援チームは、「地区別計画策定委員会」の計画策定を支援するとともに、情報交換や課題の共有など計画推進の土台を構築しました。

■みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会からの提言等

「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」では、「地区別計画策定委員会」の検討状況の報告を受け、地区別計画の策定に向けた提言や進捗管理を行いました。

② 区計画策定の経過

第2期となる区計画の策定にあたっては学識経験者や自治会、地区社協などの方々が構成される「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」を開催し、検討を行いました。その結果、第1期計画の基本的な考え方を継承し、基本理念と基本目標を再定義したうえで、「目指す姿」を追加することとしました。

●第2期計画の基本理念と基本目標

- 基本理念** 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして
～一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり～
- 基本目標1** 地域での「つながり」のあるまちづくり（キーワード：つながり）
- 基本目標2** 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）
- 基本目標3** みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）
- 基本目標4** 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）
- 基本目標5** 「安全・安心・健康」のまちづくり（キーワード：安全・安心・健康）

③ 第2期計画の振り返り

※下線部分について第1期計画より変更しました。

■地区別計画の振り返り

各地区別計画推進委員会において、年度ごとに地区別計画の振り返りを行いました。平成 26 年度に第2期計画の中間振り返りを、平成 27 年度には第2期計画5か年を振り返りました。

■区計画の振り返り

「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」にて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が実施した取組等について、定期的に振り返りを行いました。振り返りを行うなかで、今後取り組んでいくべき方向性について提言がありました。

■「みどりのわ・ささえ愛プラン推進状況報告書」の発行

地区別計画・区計画について「推進状況報告書」を毎年度発行し、推進状況を確認しました。

④ 第3期計画策定の経過

■地区別計画策定

平成26年度から、第3期計画に向けた「地区別計画推進策定委員会」が各地区で開催され、第2期地区別計画の推進に加え、第3期地区別計画に向けた課題や取組について意見交換が行われました。

■区計画（全体計画・区域計画）策定

「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が地区別計画を含めた第2期計画での取組状況を把握して振り返りつつ、平成26年度からは、第3期計画の策定に向けた検討も行ってきました。

■第3期計画策定に向けた取組

第3期計画策定に向け、区全域の福祉保健にかかる現状や課題、ニーズ等を把握するため、平成26年度に「区民アンケート」及び「分野別・団体別グループインタビュー」を実施しました。

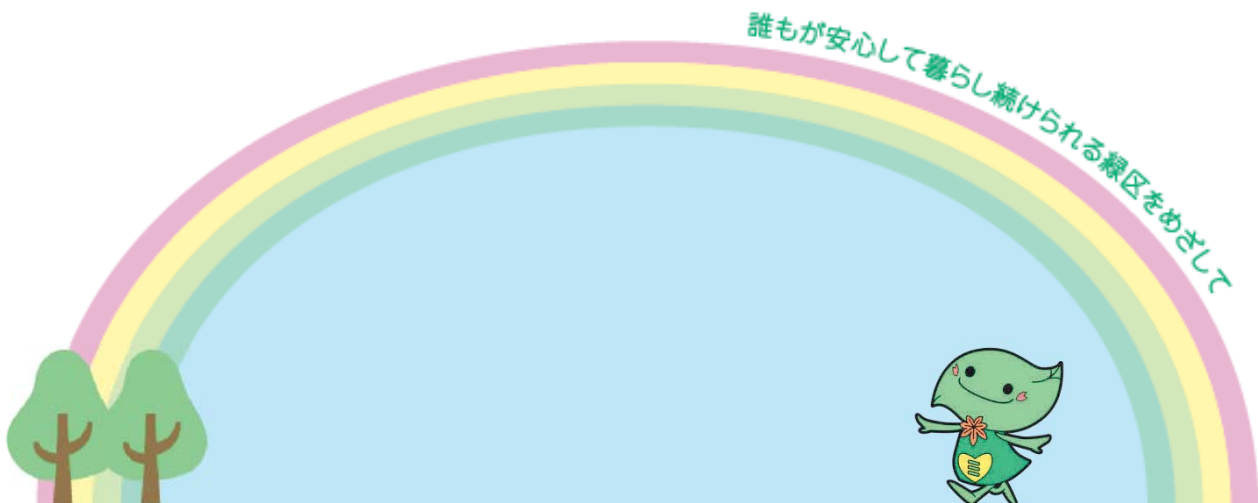
「地区別計画推進策定委員会」や「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」において、その結果を踏まえながら、第3期計画策定に向けた話し合いを行いました。

■みどりのわカフェの開催

第3期計画素案公表期間内には、第2期計画のこれまでの取組と、第3期計画素案を周知するとともに素案への意見募集のために、PRイベント「みどりのわ・Café」を「緑区市民活動支援センターみどりーむ」で開催しました。



<「みどりのわ・Café」の様子>



3 第3期計画の内容と特徴

(1) 基本理念・基本目標の継承

第1期計画から「基本目標」として掲げている「つながり」「人材・担い手」「機会・場」「情報」「安全・安心・健康」の5つのテーマについては、福祉保健施策に必要な要素であることから、第3期計画においても、「基本理念」とともに計画全体の総合的な指針として継承することとしました。

(2) 計画構成の見直しと「区域計画」の設定

■区計画・地区別計画の関係性

地域での日常生活の課題や取組をまとめた「地区別計画」と、その中で抽出された、区全体を対象とした課題や地域での活動を支援する取組などをまとめた「区計画」が、互いに連動することでより有効な計画となっています。

■第2期計画の区計画の課題

第2期計画を推進していくなかで、次のような点が課題として挙げられるようになりました。

- 第2期計画の「区計画」で提示した「具体的な取組」は、個々の事業や取組の内容が抽象的になり、計画の推進状況などを確認することが難しい。
- 取組主体となる、地域・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ（地域包括支援センター）などが、それぞれ個別に取り組む内容となっていたため、連携・協働した取組が見えづらい。
- 地区に共通する課題への取組や「地区別計画」を支援するための仕組みづくりなど、「区計画」に期待される役割も大きくなっている。

■区計画から「区域計画」へ

第2期計画から「地区別計画」が加わり、「基本目標」は、「区計画」と「地区別計画」の両方にかかる目標として設定されましたが、第1期計画の「基本目標」＝「区計画」（計画全般）の色合いが強く残っていました。そこで、第3期計画においては、計画全般を「全体計画」、区計画を「区域計画」とし、「地区別計画」も含め、構成の見直しを行いました。

(3) 区域計画の地区支援目標及び重点テーマの設定

■地区支援目標について

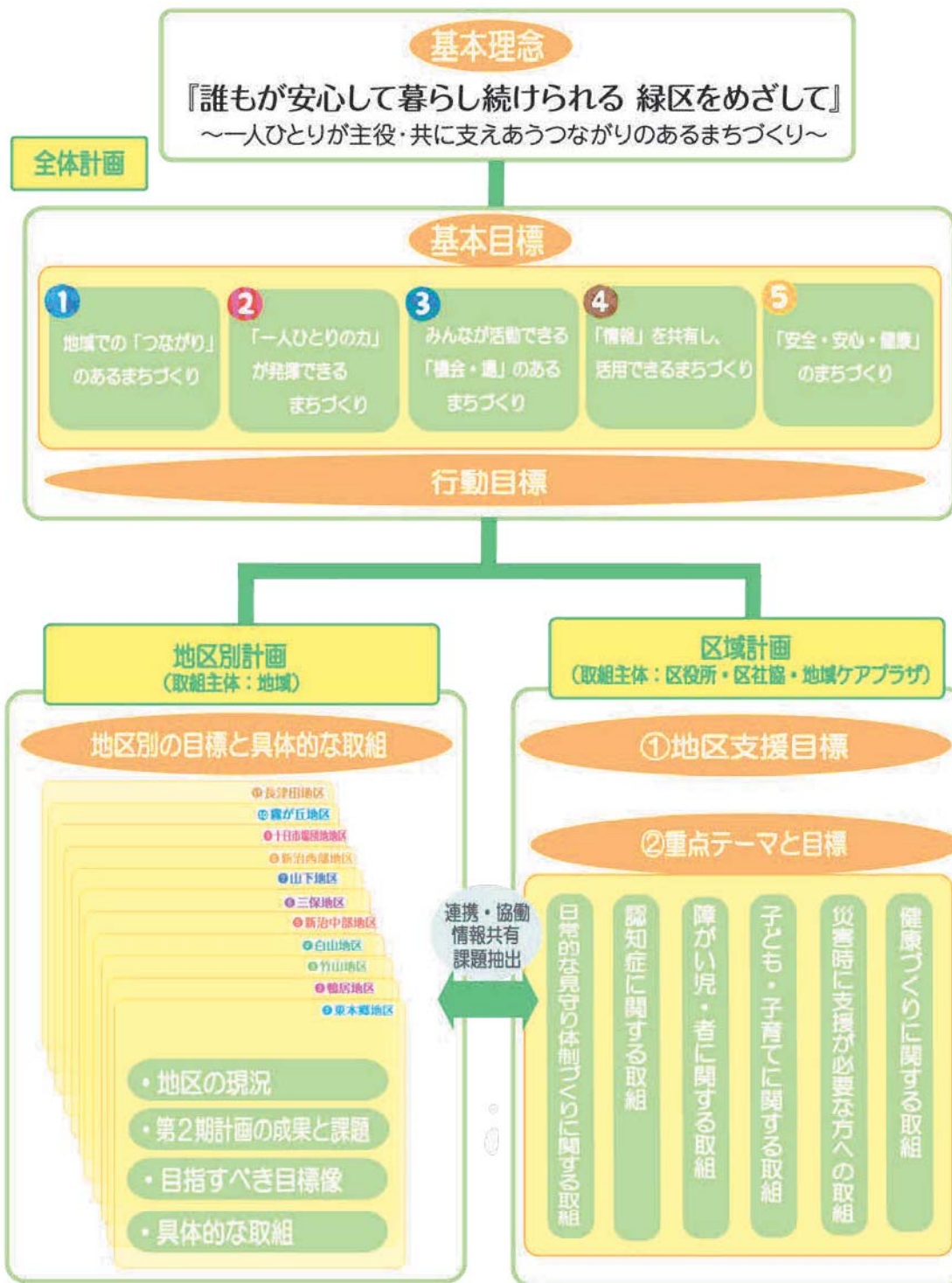
第2期計画を推進していくなかで、「基本目標」に応じた各種取組と並行して、各地区で着実に推進されている「地区別計画」の充実や広がりが期待されるようになりました。

そこで、「地区別計画」の取組への支援を強化するとともに、他地区に広がるきっかけづくりや情報共有を進めることを目指し、「区域計画」に「地区支援目標」を設定しました。

■区域計画の重点テーマについて

第3期計画をより実践的な計画とすることを目指し、「区民アンケート」や「分野別・団体別グループインタビュー」を踏まえて、重点的な課題を抽出し、そのテーマに沿った目標と具体的な取組を設けました。この「重点テーマと目標」を「区域計画」に設定することで、計画の方向性や推進状況の把握・進行管理をより明確にすることができます。

＜第3期みどりのわ・ささえ愛プラン 概要＞



「地区別計画」の特徴

区内の11 聯合自治会・地区社協単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」（以下、地区別委員会という。）が中心となって、各地区の特徴を活かした「地区別計画」を策定しています。第3期「地区別計画」は、平成28年度からの5か年間に行う、それぞれの地区の特徴をふまえた各種の目標と、地域課題の解決のための具体的な取組をまとめています。

「区域計画」の特徴

「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」で構成されています。実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザ等が、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

●地区別計画

＜11 地区の地区別計画 目標＞

① 東本郷地区

- 地域の人達がつながり、支え合い、一緒につどい楽しみを共有できるまち
- 色々な世代の人が地域活動やボランティアに参加しているまち
- 地域情報が行き渡り、地域全体で支援が必要な人を見守るまち
- 身近な所で健康づくりができ、いつまでも健康に過ごすことができるまち
- 地域全体で防犯・防災に向け取り組み、安全・安心に暮らせるまち

② 鴨居地区

- 『「安全・安心・健康」のまちづくり』のために
- 地域での『つながり』を大切にし、地域における後継者を育成するために

③ 竹山地区

- ボランティアの取組を充実します
- 知りたい情報を分かりやすく伝えていきます
- 世代間・活動団体間の交流を進めます

④ 白山地区

- 地域の防犯力を高めよう
- 自助・共助・近助の力を育もう
- 孤立化を防ごう
- 子育てしやすい地域づくりをめざそう
- 地域の環境課題に取り組もう

⑤ 新治中部地区

- 防犯・防災に強い、安心できるまちにしたい
- 次世代につながるまちにしたい

⑥ 三保地区

- 地域でのつながりを大切にし、活動を活発にしたい
- 落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい
- 地域が団結して、防災力を高めたい

⑦ 山下地区

- 地域での「つながり」を大切に、健康で元気に暮らし続けられるまちづくり
- 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり
- 「防災・防犯」で安心・安全なまちづくり

⑧ 新治西部地区

- 地域の中での孤立化をなくし みんなの顔が見える環境を目指します
- 自治会加入を促進し、地域情報をより多くの人に届けます

⑨ 十日市場団地地区

- 地域が団結して、「つながり」を作り、あらゆる世代の交流を広げよう
- 連携して、「見守り」を進め、いつまでも支えあえる地域を目指そう
- 健康や交流を意識した取組を進め、地域をもっと元気にしよう

⑩ 霧が丘地区

- 「地域でのつながり」を大切にするまちづくり
- みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり
- 「安心・安全・健康」のまちづくり

⑪ 長津田地区

- 地域情報の発信と共有をすすめます
- 若い人も高齢者も活躍できる地域づくりをすすめます
- 日頃の見守りから「いざ」という時の支えあいにつなげます
- 認知症の人も障がいのある人も、その家族も暮らしやすい地域づくりをすすめます

第1章 計画の概要

●区域計画

＜地区支援目標＞

目標1	地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！＜つながり＞
目標2	多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！＜人材・担い手＞
目標3	より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！＜機会・場＞
目標4	地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！＜情報＞
目標5	地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！＜安全・安心・健康＞

＜重点テーマと目標＞

テーマ①

日常的な見守り体制づくりに関する取組

目標

- (1) 見守りが必要な人への地域でのゆるやかな見守り体制づくりを支援します
- (2) 関係機関・団体・事業者等の連携を深め、組織を超えて情報共有ができる体制づくりをすすめます

テーマ②

認知症に関する取組

目標

- (1) 認知症の人とその家族が地域で安心して暮らせるよう、認知症に関する普及啓発の取組をすすめます
- (2) 身近な地域を一步出ても、気づきの目があるネットワークづくりをすすめます

テーマ③

障がい児・者に関する取組

目標

- (1) 障がい児・者が必要な支援を受けることができ、より積極的に身近な地域活動へ参加できることを目指します
- (2) 障がいに関する理解を広めるとともに共に支える人を増やし、組織的に活動できる体制づくりをします

テーマ④

子ども・子育てに関する取組

目標

- (1) 生まれる前から学齢期まで、切れ目のない子ども・子育て支援をすすめます
- (2) 児童虐待防止に向けた取組をすすめます

テーマ⑤

災害時に支援が必要な方への取組

目標

- (1) 災害時の支援が円滑にできるような仕組みづくりをすすめます
- (2) 災害時に支援が必要な人と周囲の住民の顔の見える関係づくりを支援します

テーマ⑥

健康づくりに関する取組

目標

- (1) ライフステージに応じた健康づくりに関する取組をすすめます
- (2) 健康で充実した生活を送れるよう、活躍できる機会・場づくりを支援します

4 第3期計画の推進に向けた取組について

(1) 第3期計画（平成28～32年度）の推進

第3期計画では、「みどりのわ・ささえ愛プラン」の基本理念である「共に支えあう つながりのあるまちづくり」の実現に向けて、第2期計画での取組を充実・発展することを目指して取り組みます。

①「地区別計画」の推進について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指し、「地区別計画推進委員会」が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進にかかる各種の情報の共有や意見交換や振り返りを行います。

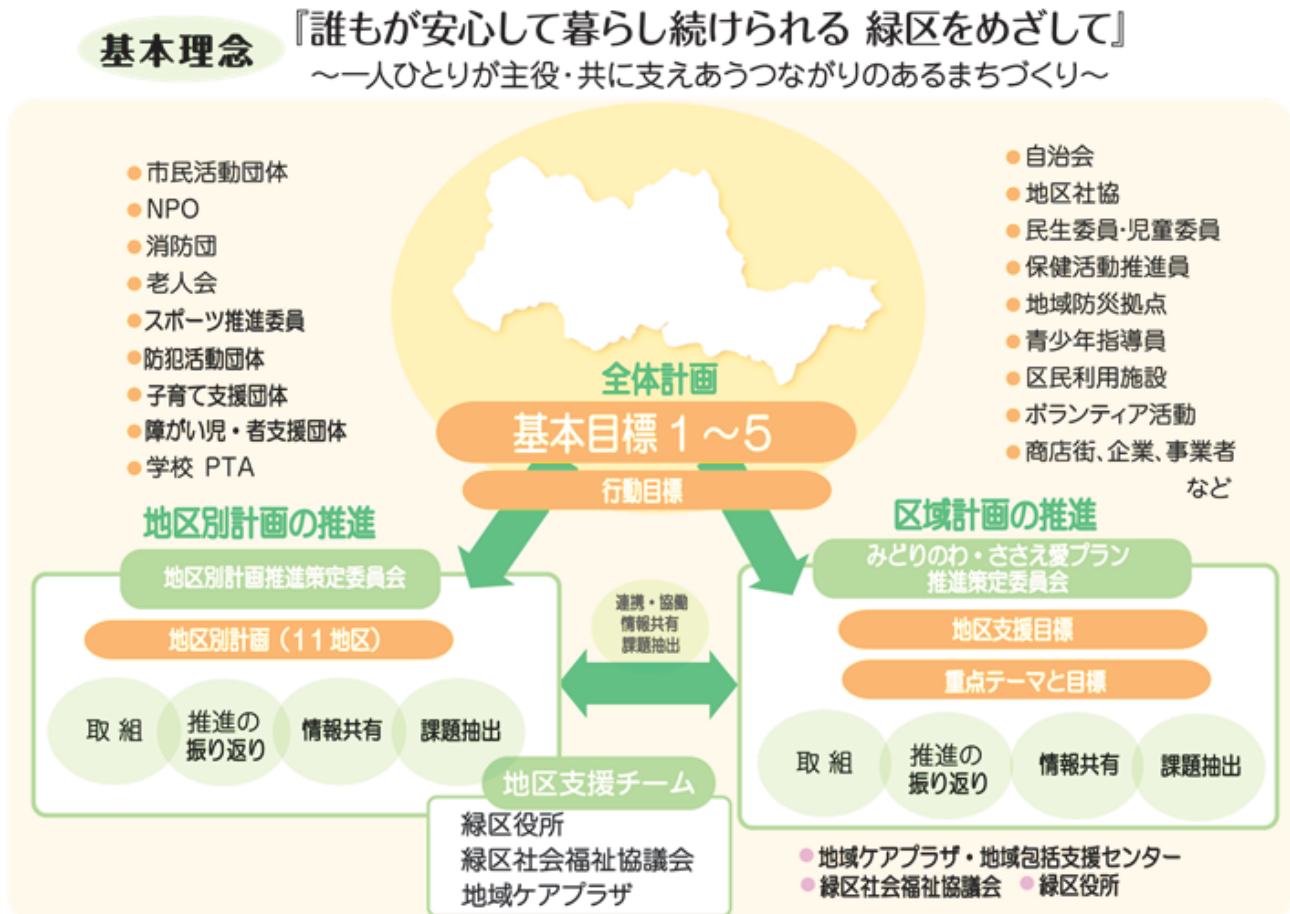
また、推進にあたっては、地域住民が主体となって推進していただけるよう、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等の職員で構成する「地区支援チーム」が引き続き支援します。

②「区域計画」の推進について

第1期・第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」が、第3期計画で掲げた「地区支援目標」及び「重点テーマと目標」を中心に取組状況の把握や振り返りを行います。

また、「地区別計画」の推進に向けた助言等を行うとともに、各地区が共通で抱える課題や地区の先進的な取組の拡充を目指し、「区域計画」との連動に向けた提案等を行います。

<第3期 推進体制イメージ>



第1章 計画の概要

(2) 平成30年度の推進スケジュール

平成30年度は第3期の推進3年目であり、計画推進と周知PRを中心に次のとおり進めました。

みどりのわ・ささえ愛プラン 平成30年度 推進スケジュール													
	29年度		30年度										
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月
第1期計画(18~22年度)			第1期計画		第2期計画		第3期計画						
第2期計画(23~27年度)			策定		策定		策定		策定				
第3期計画(28~32年度)									策定				
全体スケジュール	社会福祉大会 テーマ別 パネルディスカッション 報告書の発行		第3期計画の推進に取り組みます。 地区別計画 区域計画 } 推進 地域等での「みどりのわCafe」の開催 報告書の発行										
区域計画	開催② 3/26		各取組主体による区域計画の推進 開催① H31実施関係団体にアテンド・区民アンケートの準備・調査 開催② 区域中間まとめ										
地区別計画			各地区別計画推進委員会を中心とした地区別計画の推進 地区別開催①・第3期計画推進に向けた取組など 通信①発行 地区別開催② 年度振り返り 中間振り返り 通信②発行 地区別中間まとめ										
地区別計画推進委員会(11地区別開催)			連絡会① 5/14 連絡会② 「みどりの福祉のまちづくりフォーラム(仮称)」の開催 (H31年度前半予定)に向けた検討・準備										
地区別計画推進委員会連絡会(11地区で構成)	拡大地区支援チーム会議		地区支援チーム会議/毎月開催										
地区支援チーム	チームリーダー会議① (4/17) チームメンバー新任研修 (4/25)		必要に応じてチームメンバー研修・拡大地区支援チーム会議等を開催 地区概況シート (課題や情報の共)										
地区支援チーム会議	・顔合わせ ・年間予定 確認		委員会 の振り返り・ 通信作成 パネ作成 中間まとめ 1年間の振り返り										

(3) 「地区別計画推進費」の活用

平成24年度から、地域が主体的に行う課題解決に向けた活動等を支援するための「地区別計画推進費」を各地区で活用しています。地区別計画推進委員会において具体的な活用策と取組内容を検討しており、地区別計画の推進の一助となっています。

(4) 平成30年度の広報等の取組について

平成30年度は、第3期計画推進半ばを迎え、第4期計画策定を見据えて、区民の方々に計画概要や各地区の取組を知ってもらうために広報を行いました。「出張！みどりのわ・Cafe」の開催、地区別計画推進委員会通信の発行・班回覧等、PRパネルの作成などによるPR活動に加え、周知のため区役所イベントスペースでの動画の常時放映などに取り組みました。

●「地区別計画推進委員会通信」の発行

地区別計画推進委員会が出されたさまざまな意見や、課題、地区での取組状況を地域の方々に周知するために作成しました。通信には、第3期地区別計画推進に向けた検討の様子なども掲載し、より多くの方に読んでいただけるよう、地域での回覧や全戸配布などを行いました。



<地区別計画推進委員会通信>

●「出張！みどりのわ・Café」の開催

第3期計画の周知を目的にしたカフェ形式のイベントを2回開催し、プランのPRと来場者の居住地区の取組について紹介しました。

- ① 平成30年10月28日 山下ふれあいまつり（グループホームあかり） 約110名来場
- ② 平成30年11月11日 竹山福祉まつり（ふれあいさろん竹多久） 約110名来場



<山下ふれあいまつりでの「出張！みどりのわ・Café」>



<竹山福祉まつりでの「出張！みどりのわ・Café」>



<区役所1階での動画常時放映>

●動画の常時放映

第3期計画の周知を図るため、初年度に作成したPR動画を各地区別計画推進委員会で視聴しました。また、多くの方に視聴いただけるよう、区役所1階のイベントスペースで常時放映を行っています。

あわせて、地区別リーフレットについても配架し地区別計画の周知に努めました。

●地区別計画推進状況PRパネルの作成

各地区の地区別計画の取組の様子を地域の方々に知っていただくために、PRパネルを作成しました。

また、各地区のパネルは、地域ケアプラザなどで展示しています。より多くの方に、地域福祉保健計画や地域の取組に理解を深めていただくのに役立っています。



<地区別計画推進状況PRパネルの一部>

●地区支援チーム向け研修・拡大地区支援チーム会議の開催

今年度、第3期計画の中間振り返りと第4期計画の策定に向け、チームメンバー同士で意見交換・共有を兼ねた研修及び拡大地区支援チーム会議を開催しました。

<開催日>平成31年3月5日（火）15時30分～17時

<参加者数>34名

- <内容>（1）第4期地域福祉保健計画策定・推進 素案の説明
- （2）【意見交換】カフェ・ミーティング
- テーマ「みどりのわ・ささえ愛プラン中間振り返り」



<研修の様子>

第2章 地区別計画

●「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画推進委員会について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指しつつ、第3期計画推進にむけた意見交換を活発に行う「**地区別計画推進委員会**」（以下、「地区別委員会」という。）が開催されています。委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者など、地区の実状に合わせて組織されています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、これまでの地域活動を継続し、団体間の連携体制をより強化することなどが求められています。地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進に係る各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行います。地区別委員会は、各地区の実状に応じて年間2～10回開催され、平成30年度は計画推進とともに、地域の課題や具体的取組について活発な意見交換を行いました。また、地区別委員会で話し合われた内容をより多くの地域の方々に周知するため、「**地区別計画推進委員会通信**」を各地区2回発行し、連合自治会等の協力の下、地区内での班回覧等を行いました。

(2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職・保健師や社会福祉職、区社協責任職・職員、地域ケアプラザの所長・地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーター・地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「**地区支援チーム**」が地区ごとに編成されています。そして、「**地区支援チーム会議**」を毎月開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。こうして、住民主体の地区別計画の推進に向けた地域の取組支援、地区別委員会や地域住民の活動支援をしています。

(3) 地区別計画推進委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「**地区別計画推進委員会連絡会**」を5月と10月に開催しました。地区別委員会の開催状況やスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行いました。

(4) 地区別計画推進活動報告

地区別委員会では、地区別計画の目標に向けた地域の本年度の取組状況を振り返るとともに、各地区の推進状況をまとめた「**パネル**」を制作しました。

(5) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向けて、区役所・区社協等による事業費補助制度を活用しています。平成24年度から継続している「**地区別計画推進費（→P.9参照）**」とあわせ、さまざまな補助金等の制度を活用し、地域住民の主体的な取組による地区別計画がさらに推進していくことを目指しています。

●平成30年度 地区別計画推進状況

＜平成30年度 地区別計画推進委員会 開催状況＞

地区名	委員数	回数	開催日	地区別委員会での主な意見交換テーマ・概要
東本郷	39人	3	6/11 9/13 1/21	第1回 高齢者、認知症、子ども子育ての健康づくり委員会それぞれの課題の共有と今後の取組について検討をすすめている旨の報告。 第2回 ひがほん郷まつりの報告と4専門委員会の進捗状況の共有。 第3回 4専門委員会の活動報告、地区別計画と現状の共有。
鴨居	32人	2	8/29 12/8	第1回 「チョイボラ」のこれから ◆具体的な活動方法の説明と意見交換。 第2回 「チョイボラ」の進捗状況 ◆サポーター登録状況や研修・活動報告、広報など今後に向けて意見交換。
竹山	27人	2	9/12 3/4	第1回 子ども・子育て世代との交流や支援について ◆子ども・子育ての取組みを振り返り、今後に向けた意見交換、カフェぶらり報告 第2回 第3期「みどりのわ・ささえ愛プラン」竹山地区別計画 中間振り返り ◆竹山地区別計画の3年間を振り返って意見交換、カフェぶらり報告
白山	31人	10	原則 毎月 第4 土曜日	第2回 白山地区の保健福祉の取組みについて ◆地区の保健福祉課題の説明と、新たに始まった活動の報告 第6回(みんなで地域を考える会と合同) 地域の防犯力の向上のために ◆グループにわかれて意見交換。防犯を推進するための委員会の立上げに向けて
新治 中部	29人	2	7/12 2/20	第1回(みんなで地域を考える会と合同) 次世代につながるまちづくりを目指して① ◆現活動とこれから必要な取組みを意見交換、防犯・防災キャッチフレーズの取組み 第2回 次世代につながるまちづくりを目指して② ◆地域のこどもの現状について情報共有、交流を目指した意見交換
三保	35人	2	8/25 1/26	第1回・2回共通 「見守り・居場所づくり検討委員会」報告、居場所づくりに関する今後の展開について 第1回◆さんさんルーム・新たな活動の紹介と取組みたい活動等の意見交換。 第2回◆第二物件の開設に向けて、活用方法や必要な準備等の意見交換。
山下	25人	2	8/9 1/18	第1回 災害時要援護者支援／山下地区ネットワークサロンについて ◆各自治会での取組状況を共有。山下地区ネットワークサロンに取組報告 第2回 災害時要援護者支援／山下ネットワークサロンについて ◆防災ささえあいカード更新状況、要援護者名簿提供について報告。山下地区ネットワークサロンの次年度の展開について報告。
新治 西部	36人	2	8/25 2/7	第1回・2回共通 「こどもの居場所づくり」について ◆「こどもの居場所づくり」について検討。「こども村」の取組、地域の活動の報告。
十日市場 団地	43人	2	8/4 12/6	第1回(みんなで地域を考える会と合同) UR、環境未来都市住民との連携をどうすすめるか／「こどもの居場所づくり」について 第2回 「こどもの居場所づくり」について ◆「こどもの居場所づくり」について検討。「こども村」の取組、お茶飲み会、地区ボランティアセンターについて報告
霧が丘	33人	2	6/30 11/24	第1回 ◆見守りネットワークの取組みについて意見交換、老い支度ガイドブック作成報告。 第2回 ◆元気づくりステーションの活動報告、見守りやすいまちづくりについて意見交換。
長津田	31人	2	9/22 2/2	第1回 「向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会」の取組について ◆長津田地区のデータから現状と今後について確認。今後の運営委員会の取組みテーマについて意見交換。 第2回 障害理解について ◆当事者の話を聞いて、感じたことや自分たちにできることを意見交換。
合計	361人	31		

東本郷地区

東本郷地区別計画推進委員会

地域

東本郷1～6丁目、東本郷町

緑区の東端に位置し、地区の東側は港北区、南側は神奈川区、北側は都筑区に隣接しています。北側は平野が広がり一部は農地となっていますが、南側は台地となっており、昭和40年代からの計画的な宅地開発により、戸建てや集合住宅の集まる住宅地となっています。

坂道が多く、最寄りの鴨居駅まで距離がある地域もありますが、平成19年3月に住民の要望によりミニバスが開通し、多くの住民に利用されています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

震災時避難場所（地域防災拠点）：東本郷小学校、東鴨居中学校（鴨居地区と共有）

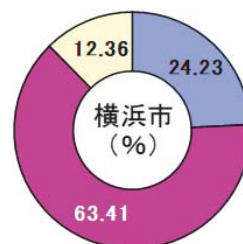
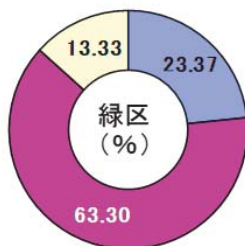
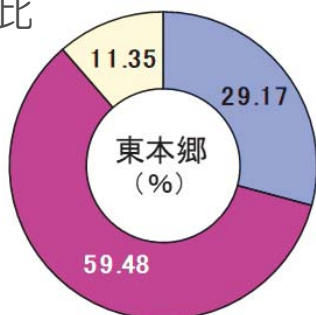
地域ケアプラザ等：横浜市東本郷地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) □年少人口比率(0～14歳)



75歳～	1,966人
65～74歳	1,717人
15～64歳	7,509人
6～14歳	924人
0～5歳	509人
合計	12,625人

75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年6月11日
18:30～20:30

東本郷地域ケアプラザ

- ・第3期計画について
- ・4つの専門委員会活動報告
- ・ひがほん郷まつりについて

第2回

平成30年9月13日
17:30～19:30

東本郷地域ケアプラザ

- ・4つの専門委員会の進捗状況報告
- ・ひがほん郷まつりについて

第3回

平成31年1月21日
17:30～19:30

東本郷地域ケアプラザ

- ・ひがほん郷まつり報告
- ・専門委員会の進捗状況
- ・第3期計画の現状

通信No.15 発行

通信No.16 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



東本郷地区



**「この街に住んでよかった!」と
みんなが思える東本郷を目指して!**

東本郷地区では、5本の柱と具体的なアクションプランを策定し、急速な少子高齢化に伴う問題や地域課題等に対し、“4つの専門委員会”を組織し、より具体的な議論や取組を推進しています。(今年度の主な取組をご紹介します)

高齢者支援ネットワークづくり委員会

緊急連絡先「黄色いカード」や見守り普及啓発用の回覧シートの活用推進



認知症に関する委員会

「認知症すごろく」の取組推進(緑区版を作成)



子ども・子育て支援委員会

常設型のこどもの居場所の立ち上げを目指して、勉強会等を開きながら検討中。(ヨコハマ市民まち普請事業にもチャレンジ)
(写真:プレゼン資料→)



東本郷健康づくりに関する委員会

健康講座「健康寿命の延伸～人生100年時代を迎えて～」開催

(講師:医療法人社団三喜会副理事長 桐田孝史先生)



今年も、まちがひとつに。 ～子どもたちに“ふるさと”を次世代につないでいくために～

この計画を推進する中で誕生し、「0歳から100歳までの人のつながり」をキャッチフレーズに、地域と学校が連携して開催している「ひがほん 郷まつり」も第8回を迎えました。

6年生の時にはフィナーレでソーラン節を踊り、中学生になったら今度はボランティアで運営を手伝ってくれています。子どもたちの思い出とともに、次世代に「受け継がれるもの」が確かに形になってきています。



今年度は、あいにくの雨模様でフィナーレのソーラン節も体育館に会場変更。それでも、子どもたちの大きな掛け声と熱気は体育館に反響し、迫力満点の演技が披露されました。(写真:「第8回 ひがほん 郷まつり ソーラン節」の様子)

引き続き、5つの目標の実現に向けて、各団体が連携しながら取組を進め、「この街に住んで良かった!」とみんなが思える 東本郷 を目指します!

東本郷地区別計画推進委員会



平成30年9月発行 第3期 No.5 (通算No.15)
 <連絡先>東本郷地区別計画推進委員会事務局(緑区総務課) TEL:930-2204

東本郷地区別計画推進委員会通信



平成30年6月11日(月)、東本郷地域ケアプラザにおいて、今年度第1回「みどりのわ・ささえ愛プラン 東本郷地区別計画推進委員会」を開催しました。その内容をご紹介します。

東本郷地区別計画を推進していく中で誕生し、多くの皆様の尽力で東本郷地区最大級のイベントに育った「ひがほん 郷(ふるさと)まつり」。今年、第8回目の開催が決定しました!

このお祭りが始まった時の小学低学年生が、いまはもう中学生。6年生の時にはフィナーレで「ソーラン節」を踊り、中学生になったら今度はボランティアで運営を手伝ってくれています。8回の歴史を重ねる中で、子どもたちの思い出とともに、「受け継がれるもの」が確かな形になってきています。

「あらゆる年代の人たちがつながり合って支え合おう!」という目標に向かって、今年度も推進委員会メンバーを中心とした「実行委員会」が、具体的な内容を検討していきます。

**第8回
開催決定!**

昨年度は、約4,000人
もの方が参加してくださ
いました! 0歳~100
歳まで、世代を超えての
交流を目指します!



山口委員長



東本郷地区では、地区別計画に、つながりづくりや健康づくり、見守りなどの5つの目標を掲げ様々な取組を進めています。そのために、昨年度からは4つの専門委員会を組織し、より具体的な議論・取組の推進を図っています。裏面もぜひご覧ください。

<委員メンバー>東本郷地区別計画推進委員会は下記の各団体等の代表者で構成しています。

- 連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●民生委員・児童委員 ●保健活動推進員 ●老人クラブ連合会
- 環境事業推進委員 ●まちづくり協議会 ●友愛活動員 ●スポーツ推進委員 ●青少年指導員 ●地域防災拠点運営委員会
- 家庭防災員 ●子育てサロン ●ささえ愛の会 ●東本郷公園愛護会 ●みどり養護学校 ●東本郷小学校
- 東本郷小学校PTA ●東本郷小学校コミュニティハウス ●東鴨居中学校 ●城郷中学校 ※順不同

4つの専門委員会の活動状況を報告



王尾さん

高齢者支援ネットワークづくり委員会

昨年度作成した、「緊急連絡先黄色いカード」の配布状況について確認。実際にカードが活用され、救急搬送時に役立つ事例も紹介されました。その他にも「ご近所ささえ合いマップ」という新しい見守りの手法にも取り組んでいます。ご近所の見守りが効果的であることを実感しています。今後も見守りを気になる地域で進めていきたいと考えています。

認知症に関する委員会

認知症に関する困りごとを、地域のお店に聞きました。いまのところは大きな問題は生じていないようですが、高齢者が多くなるこれからのことは心配です。また、水戸市の「認知症すごろく」という取組を参考に、地域のみなさんと楽しみながら認知症の理解を深めていく取組を進めています。さらに、「認知症キャラバン・メイト(※)」の活動も力を入れていきたい。小学校での認知症サポーター養成講座の開催など、いろいろな形で認知症に対する理解や対応の仕方を広めていけたらと考えています。



氣田さん

※「認知症キャラバン・メイト」とは…
認知症の普及啓発のため「認知症サポーター養成講座」を開催する時の講師です。

認知症すごろく→



大坂さん

健康づくりに関する委員会

委員会の周知のため「健康だより」を発行。地域全体で健康づくりに関する課題を検討しています。まず、高齢者の健康づくりに焦点を当てて取り組んでいきますが、5月20日に健康に対する意識調査(アンケート)を実施しました。結果を健康講座等に反映させていきます。

子ども・子育て支援委員会

地域の中での「子どもの居場所」について検討してきました。東本郷地域ケアプラザ内に居場所づくりを検討・試行しています。また、ケアプラザだけではなく、地域の中で集まりやすい場所にも常設型の「子どもの居場所」ができたという夢を描いてみたいと考え、横浜市の補助事業「ヨコハマ市民まち普請事業」に手をあげました。今後、いろいろな皆様のご意見もいただきながら、実現の必要性や可能性を考えていきたいと思ひます。



高林さん

※「ヨコハマ市民まち普請事業」とは…
市民のみなさんが地域の特性を生かした身近な生活環境の整備を自ら考え、つくりあげるための横浜市独自の助成事業です。助成を受けるためには、2回のコンテストを通過する必要があります。

地域福祉保健計画とは…
「誰もが安心して暮らし続けられる緑区を目指して地域の福祉保健を推進するために区民の皆さま、事業者、行政が協働で取り組む計画」です。



→プランの情報は動画でも紹介中。
「みどりのわ 動画」で検索。

子どもの居場所づくりは、議論が始まったばかり。皆さんの声を聞きながら、いろいろな方法を考えていきたいですね。





平成31年2月発行 第3期 No.6 (通算No.16)

<連絡先>東本郷地区別計画推進委員会事務局(緑区総務課)TEL:930-2204

東本郷地区別計画推進委員会通信



平成31年1月21日(月)、東本郷地域ケアプラザにおいて、今年度第2回「みどりのわ・ささえ愛プラン 東本郷地区別計画推進委員会」を開催しました。その内容をご紹介します。

今年度で第8回目の開催となった「ひがほん郷(ふるさと)まつり」の開催報告や4つの専門委員会の取組報告、第3期東本郷地区別計画の全体進捗状況等を確認しました。



今年度は、あいにくの雨模様にも関わらず約3,200人の方が参加してくださいました！ありがとうございました。
恒例のフィナーレのソーラン節も体育館になりましたが、例年以上に力強く熱い演技を披露してくれました。**子どもたちに故郷を。そして、0~100歳まで世代を超えての交流**を目指してスタートしたこの取組も8年目。この間だけでも、東本郷小学校の児童数は約200人も減りました。資金面での工夫も重ねながら、第9回、10回と続けていけるように、東本郷の知恵と力を結集して取り組んでいけたらと考えています。来年度もぜひ楽しみにしてください！



明田副委員長
(東本郷地区社会福祉協議会長)

<委員メンバー>東本郷地区別計画推進委員会は下記の各団体等の代表者で構成しています。

- 連合自治会 ● 各自治会 ● 地区社会福祉協議会 ● 民生委員・児童委員 ● 保健活動推進員 ● 老人クラブ連合会
- 環境事業推進委員 ● まちづくり協議会 ● 友愛活動員 ● スポーツ推進委員 ● 青少年指導員 ● 地域防災拠点運営委員会
- 家庭防災員 ● 子育てサロン ● ささえ愛の会 ● 東本郷公園愛護会 ● みどり養護学校 ● 東本郷小学校
- 東本郷小学校PTA ● 東本郷小学校コミュニティハウス ● 東鴨居中学校 ● 城郷中学校 ※順不同

4つの専門委員会の主な今年度の活動状況を報告（課題検討内容等含む）

高齢者支援ネットワーク
づくり委員会

- ・緊急時の連絡先等を記入し、冷蔵庫等に張り付けておく「黄色いカード」の普及啓発（継続）
- ・高齢化に伴い、独居や者夫婦世帯が増加している閉じこもりがち人へのアプローチも含め、買い物支援等についても考えているが、まずは視点を変えて「簡単に作れる料理の普及講座」などから検討中

東本郷
健康づくり委員会

- ・「健康だより」を2回発行
- ・ふるさと郷まつり等で健康意識アンケート実施
- ・「1日ラジオ体操」を実施（10月）
- ・健康講座「健康寿命の延伸～人生100歳時代を迎えて」（講師／医療法人社団三喜会 副理事長 桐田先生）開催（11月）



黄色いカード



見守り普及啓発リーフレット



健康講座当日の様子



健康講座チラシ



健康意識アンケート調査

子ども・子育て
支援委員会

- ・常設型の新たな子どもの居場所づくりを目指して、ヨコハマ市民まち普請事業（※）に提案（一次コンテスト通過・二次辞退（設置場所候補再検討のため））
- ・子どもや親だけでなく、多世代の居場所にしたい。「この場所に来れば誰かに会える、人と情報があつまる」そんな場所になれたらいい
- ・居場所の必要性和現実的なプランニングのために議論や勉強会等を継続して検討中

認知症に関する委員会

- ・認知症すごろくは、ひがほん郷まつりや地区社協分科会でも体験
- ・「認知症」という言葉は知っているが実情は知らないという人は多いと思う。子どもや若い人にも、もっとして欲しい。機会をどうつくっていくかが課題



ヨコハマ市民まち普請事業一次コンテストの様子



認知症すごろくと郷まつりでの様子

※「ヨコハマ市民まち普請事業」とは…
市民のみなさんが地域の特性を生かした身近な生活環境の整備を自ら考え、つくりあげるための横浜市独自の助成事業です。助成を受けるためには、2回のコンテストを通過する必要があります。

地域福祉保健計画とは…
「誰もが安心して暮らし続けられる緑区を目指して地域の福祉保健を推進するために区民の皆さま、事業者、行政が協働で取り組む計画」です。



→プランの情報は動画でも紹介中です。

その他にも、計画の目標にもあった「東本郷連合だより」が初めて発行されたことや、地区の消費生活相談委員さんたちと、ケアプラザが連携して取り組んでいる「振り込み詐欺防止」の啓発活動の取組み報告されました。



鴨居地区

鴨居地区別計画推進委員会

地域 鴨居1～7丁目、鴨居町

緑区の東側に位置し、地区の北側に鶴見川を挟んで都筑区、南側は神奈川区、保土ヶ谷区に隣接する南北に長い地区です。地区北部には鴨居駅があり、駅を中心に商店街、医療機関が密集しており、南側には丘陵状に住宅地が広がっています。駅周辺は平地ですが、他は起伏に富む地形となっています。

地域ケアプラザをはじめ、障がい者の地域作業所、通所施設など福祉施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

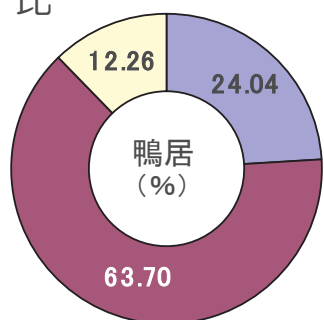
震災時避難場所（地域防災拠点）：鴨居小学校、緑小学校、東鴨居中学校（東本郷地区と共有）

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

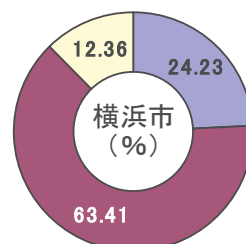
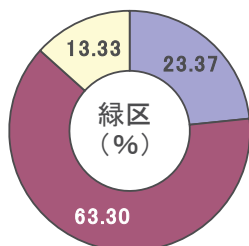
<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比



■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) □年少人口比率(0～14歳)

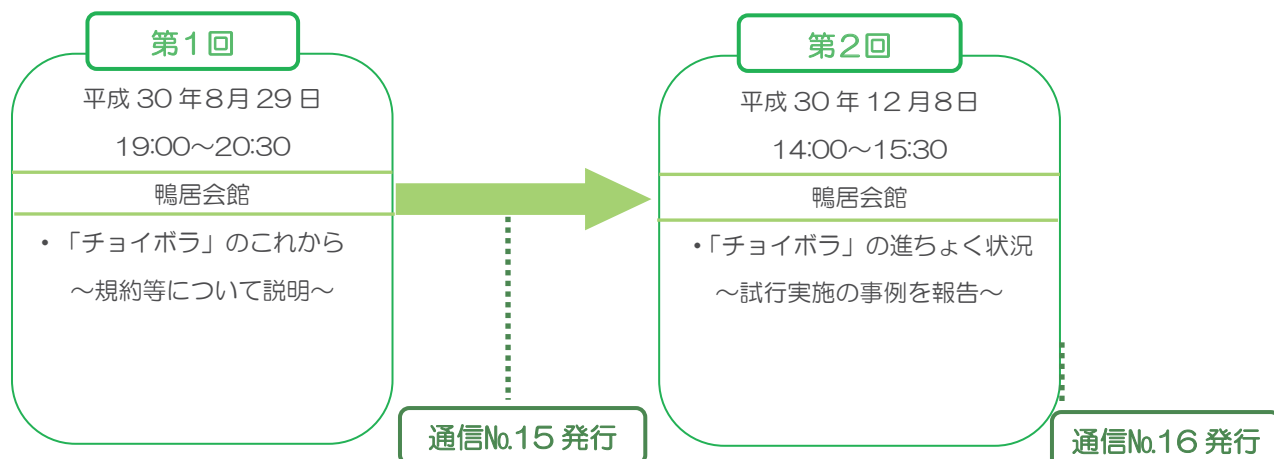


75歳～	1,792人
65～74歳	1,953人
15～64歳	9,924人
6～14歳	1,155人
0～5歳	755人
合計	15,579人

75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況





鴨居地区



チョット手助けボランティア

「鴨居チョイボラ」平成31年4月本格実施！



「チョイボラ」とは「業者に頼むほどではないし、かといって無償では頼みにくい」、そんな方々を住民相互で助けあう仕組みです。地区別計画推進委員会ほか様々な場で検討し、試行実施することになりました。

検討内容

「チョイボラ」の本格実施に向けて、サービス内容や利用方法など、具体的な仕組みについて検討しました。



(写真：活動の様子)

サービス内容

- ・庭木の枝切り
- ・庭の草むしり
- ・電球の交換



(写真：ピブス、写真入りの名札も完成)

利用について

- ・利用料：サポーター1人1時間 500円
- ・受付時間：平日の午前9時から午後5時まで（鴨居会館に電話連絡）
- ・活動日時：コーディネーターと調整（土・日・祝日も可）

(周知用のマグネットも完成 ▶)



鴨居地区別計画推進委員会



鴨居地区別計画推進委員会
平成30年10月発行 第3期 No.5 (通算No.15)



鴨居地区別計画推進委員会通信

「鴨居チョイボラ」平成30年10月試行実施！

平成30年8月29日（水）午後7時から、「平成30年度第1回みどりのわ・ささえ愛プラン鴨居地区別計画推進委員会」を鴨居会館で開催しました。委員会では、「チョット手助けボランティア『鴨居チョイボラ』のこれから」等について、具体的な活動方法の説明と意見交換が行われました。

「みどりのわ・ささえ愛プラン」とは

誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む緑区の『地域福祉保健計画』です。鴨居地区は、鴨居地区の地区別計画にそって活動しています。平成30年度は第3期計画の折り返しとなる3年目を迎えています。

※「鴨居チョイボラ」とは、高齢化社会が進行する昨今、「業者に頼むほどではないし、かといって無償では頼みにくい」、そんな方々を住民相互で助けあう仕組みです。地域のつながりを大切に、住みやすい鴨居にしていきます。

★サービス内容 今年度中は3項目に絞ります

1. 草むしり 2. 庭木の枝切り 3. 電球の交換

★料金 依頼者がサポーターに払う料金

基本単価：サポーター1人1時間あたり500円

★依頼方法

依頼者が鴨居会館に電話連絡

サポーターは専用のビブスと写真付きの名札をつけて活動します。



活動の様子（イメージ）

サポーターの登録者は約60名（H30年8月現在）。できる範囲で長続きする活動を目指しています。

※裏面もあります。

鴨居地区別計画推進委員会での意見

- ・実施にあたって広報等はどうするのか？
→他の地区で作成している物を参考に、問合せ先を記載したマグネットステッカー等の作成を検討していきたい。
- ・「草むしり、庭木の枝切り、電球の交換」以外の依頼が来た場合は？
→旗上げとしてはこの3つに限定するが、それ以外の依頼があった場合は、下見をした上で検討していきたい。
- ・下見に行く際は、駐車スペースがあるのかも確認した方がよい。道具を持って行く時は車で行く場合もあるだろう。
- ・お金の高い、安いよりも、人に頼んでやってもらうことで、その人の生活の質が上がるのが大事。



▲推進委員会の様子

- ・「鴨居チョイボラ」は、高齢者を対象に相互協力の活動として、みんなで熱を入れてやっていきたい。
- ・国の「高齢者生きがい活動促進事業」の補助金をもらうことも決まった。
- ・試行実施の上で、オーダーがあれば作業範囲の拡大も順次検討する。
- ・長く続くものを、徐々に育てていきたい。



▲木村委員長

<鴨居地区別計画推進委員メンバー>

委員会は下記各団体等の代表者・役員で構成しています。 (委員32名)

- ◎委員長 鴨居連合自治会長 木村 昶
 ●連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●会館運営委員
 ●民生委員・主任児童委員 ●青少年指導員 ●スポーツ推進員
 ●緑消防団 ●鴨居おやじの会 ●家庭防災員 (順不同・敬称略)

鴨居地区別計画の目標 (第3期：平成28年4月～平成32年3月)

目標1 「『安全・安心・健康』のまちづくり」のために

目標2 地域での『つながり』を大切にし、
地域における後継者を育成するために



<連絡先> 鴨居地区別計画推進委員会事務局 緑区戸籍課長 TEL：930-2246



鴨居地区別計画推進委員会
平成31年3月発行 第3期 No.6 (通算No.16)



鴨居地区別計画推進委員会通信

地域のチョット手助けボランティア

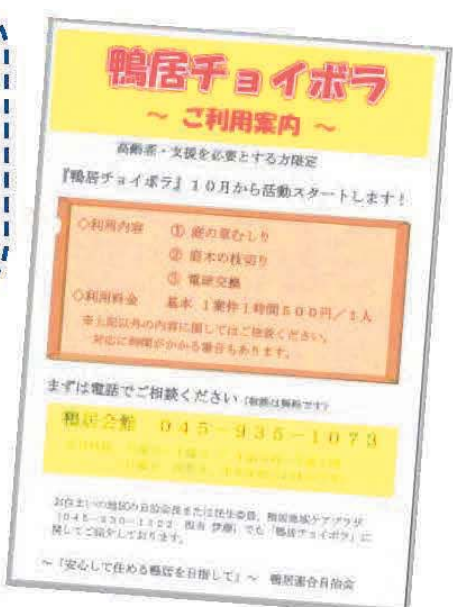


鴨居チョイボラ

約1年の試行期間を経て、平成31年4月から、いよいよ**本格実施!**

平成30年12月8日(土)14時から、「平成30年度第2回みどりのわ・ささえ愛プラン鴨居地区別計画推進委員会」を開催しました。
委員会では、『**鴨居チョイボラ**』の**本格実施**に向けて進捗状況を共有するとともに、広報活動等の説明と意見交換が行われました。

鴨居チョイボラとは//
高齢化社会が進行する昨今、「業者に頼むほどではないし、かといって無償では頼みにくい」、そんな方々を住民相互で助けあう仕組みです。地域のつながりを大切に、住みやすい鴨居にしていきます。



- サービス内容** 試行実施中は3項目に絞る
1. 庭の草むしり
 2. 庭木の枝切り
 3. 電球交換
- 【対象】
高齢者・支援を必要とする方

料金 依頼者がサポーターに払う料金
基本単価：サポーター1人1時間あたり500円

依頼方法
依頼者が鴨居会館に電話連絡



サポーターは専用のピブスと写真付きの名札をつけて活動します。
まずはお気軽にご相談ください。

※裏面もあります

委員会の内容の一部をご紹介します。



- ・9月にサポーターへの研修会を開催し、チョイボラの進め方について皆で共有した。現在、**67名のサポーター登録**がある(H30年12月現在)。
- ・これまでの試行的な取組みについて共有。依頼が入った際に対応しやすい体制を整えていきたい。
- ・本格実施にあたって、効果的な広報を考えたい。すでに町内でチラシを回覧している。その他に、他地区で作成している物を参考に、**マグネットステッカー等**を作成し、地域の方にわかりやすいPRができるとよい。



▲マグネットステッカーデザイン案

- ・「鴨居チョイボラ」は、高齢者を対象に相互協力の活動として、みんなで熱を入れてやっていきたい。
- ・国の「高齢者生きがい活動促進事業」の補助金をもらうことも決まった。
- ・**地域に根付く活動**を、徐々に育てていきたい。



▲木村委員長

「みどりのわ・ささえ愛プラン」とは

誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取組む緑区の『地域福祉保健計画』です。鴨居地区は、鴨居地区の地区別計画にそって活動しています。平成30年度は第3期計画の折り返しとなる3年目を迎えています。詳しくHPや下記PR動画等からご覧ください。

鴨居地区別計画の目標 (第3期：平成28年4月～平成32年3月)

- 目標1 『安全・安心・健康』のまちづくりのために
- 目標2 地域での『つながり』を大切にし、地域における後継者を育成するために



<鴨居地区別計画推進委員メンバー> 委員会は下記各団体等の代表者・役員で構成しています。

- ◎委員長 鴨居連合自治会長 木村 赳
- 連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●会館運営委員
- 民生委員・主任児童委員 ●青少年指導員 ●スポーツ推進委員
- 緑消防団 ●鴨居おやじの会 ●家庭防災員 (順不同・敬称略) (委員32名)

<連絡先> 鴨居地区別計画推進委員会事務局 緑区戸籍課長 TEL: 930-2246

竹山地区

竹山地区別計画推進委員会

地域 竹山1～4丁目

緑区の南側に位置し、地区の南側は保土ヶ谷区に隣接しています。

昭和40年代に開発された竹山団地が中心にある丘陵地の住宅街です。この地区は、竹山中公園、竹山二丁目公園、竹山南公園等をはじめ、緑豊かな街並みが続きます。

緑区の中では最も高齢化が進んでおり、年少人口比率も最も低い地区となっています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

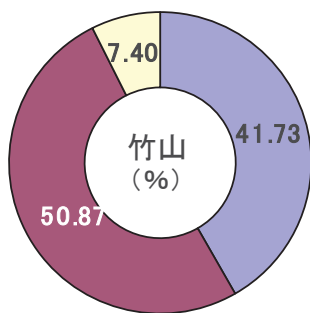
震災時避難場所（地域防災拠点）：竹山小学校

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

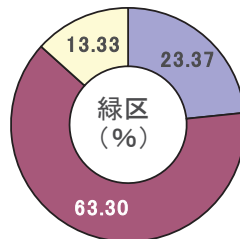
平成30年(2018年)9月末

人口比

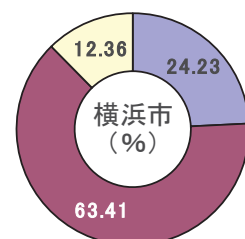


75歳～	1,393人
65～74歳	1,472人
15～64歳	3,492人
6～14歳	347人
0～5歳	161人
合計	6,865人

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) □年少人口比率(0～14歳)



75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人



75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年9月12日

19:00～21:00

竹山ホール

- ・第3期計画について
- ・情報共有、意見交換
- ボランティアセンターの体制と活動実績
- 広報の充実
- 認知症カフェ「ぶらり」のその後

通信No.15 発行

第2回

平成31年3月4日

19:00～21:00

竹山ホール

- ・認知症カフェ「ぶらり」活動報告
- ・地区別目標についてグループワーク

通信No.16 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



竹山地区



子ども・子育てと向き合う

竹山小学校の児童数は、現在約240人（H30.5月時点）この15年で半減しています。

昔から変わらず、地域の皆さんに愛されている竹山の子どもたち。でも、人数がどんどん少なくなっている今だからこそ、これまで以上に「竹山で生まれ育って良かった」と思ってもらえるように、地域全体で子ども・子育てを見守れるまちにしていくためにできること、必要なことはどんなことでしょうか。

議論と
取組の検討が
始まりました！



種やかに、ゆるやかに、続いています。「カフェぶらり」

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくりのひとつとして、一昨年度から動き出した認知症カフェ「ぶらり」の取組。

OPENから2年目を迎え、レコード機器も新たに備え付けられ、懐かしい曲に耳を傾けながら、思い出話に花を咲かせたり、美味しいコーヒーを楽しんだり、素敵な時間が流れています。

竹山地区社会福祉協議会が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方ならどなたでも集まって情報交換等ができる場として「ふれあいさろん竹多久」で、2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、竹山地区社協HP等まで。



ぜひ、
お立ち寄り
くださいね♪

※「認知症サポーターキャラバン」の
マスコットキャラクター



（写真：「カフェ ぶらり」の様子）

竹山地区別計画推進委員会は下記の各団体等の代表者などで構成しています。 ※順不同

- 連合自治会
- 各自治会
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員・児童委員
- 保健活動推進員

竹山地区別計画推進委員会



竹山地区別計画推進委員会
平成30年10月発行 第3期-No.5 (通算 No.15)
＜連絡先＞事務局 緑区保険年金課内 TEL: 930-2336

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」 竹山地区別計画推進委員会通信

今年度1回目の委員会を開催～今回のメインテーマは



竹山の子ども・子育てと向き合う part①

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の竹山地区別計画を推進していくために、推進3年目・今年度第1回推進委員会が9月12日竹山ホールで開催されました。

今回は、主に目標3「世代間・活動団体間の交流を進めます」にそって、「**竹山の子ども・子育て世代との交流や支援**」をどう深めていくことができるか、竹山池での活動、竹山地区の現状や小学校・保育園の先生のお話などから状況を共有しました。その様子をご紹介します。



委員長 大谷竹山連合自治会長

竹山地区は、高齢化率が40%にのぼる一方、人口減少、特に少子化も深刻。竹山小学校の児童数も15年前と比較して約半分、250人程になった。竹山でも親子で参加してくれる行事はたくさんあるが、他にも何か地域でできることはあるか。「竹山の今後」を考えていくためにも、皆さんの立場から様々なご意見をいただきたい。



ご存じですか！？竹山の子ども「いま」

👉 15歳未満の子どもは約 **530人**

👉 人口の **7.6%** (区平均 13.6%)

(H29.9末時点・横浜市統計ポータルより)
高齢者5人に子どもが1人の割合です。ここ10年程をみても毎年20~40人程減少し続けています。このままいくと十数年後には百数十人ほどになる予測もあります。

(緑区地区別暮らしのデータ集より)
小学校も単級の学年が増えてきていて、「1~6年生までクラス替えがない学年」も出てくる可能性があります。

昔からかわらず、地域の皆さんに愛されている竹山の子どもたち。

でも、人数がどんどん少なくなっているいまだからこそ、これまで以上に「竹山で生まれ育って良かった」と思ってもらえるように、地域全体で子ども・子育てを見守れるまちにしていくためにできること、必要なことはどんなことでしょうか。議論がスタートしました。



(裏面に続く)

竹山地区の現状と取組について～意見交換の一部をご紹介します～

「竹山商店街にかつての活気を取り戻そう」ということで、手始めに池をきれいにしようと“かいぼり”を実施。小学生に声掛けし、池の魚釣り、環境調査のような活動を平成27年に開始した。

家族同伴の釣り大会や4年生とは環境学習も行っている。子どもが参加すると保護者も参加してくれるので世代間交流も生まれている。昨年オープンした「池活クラブ」(★)には、学習塾に通っていないような、自由な時間が多い子どもたちも集まってくれている。

今後も、イベント形式で**子どもたちが気楽に集まれる機会を提供してあげたい。難しく考えず、気楽に考え企画することが大切**では。



吉川連合自治会専任副会長



三上竹山小学校長

(★) コミュニティスペース(竹山商店街内)
みんなの池活クラブ

- 毎週月～土 / 8～17時
- 飲み物代 / 80～250円



竹山の子どもたちは地域の皆様に本当に愛されていると感じている。ただ、児童が減少している中、「クラス替え＝環境の変化」が少ないため、様々な人と関わり合う機会を大切につくっていきたいと考えている。地域の皆さんの見守りや関わりの中で豊かに育てていきたい。

保育園でも育児の相談を受けたりしている。第二子が生まれたりすると、環境が変わって育児に悩んだり苦労をされる親御さんもいる。そんな時に、ご近所の方のちょっとした見守り、子守りの協力で救われた人もいた。子育てを取り巻く環境も変化してきている。これまで以上に地域の皆で見守り、支えあえる地域にしていけたら。



大倉竹山保育園長

最後に、大谷委員長からは、子どものつながりを持ちつつ、親世代もどうしたら地域の活動に参加してもらえるか。親世代がもっと集まれる、語らえる場、気軽に相談や交流できる場があってもいいのではないかと。それで、親がつながれば子どももつながる。また例えば、いわゆる「子ども食堂」のような場をイメージしても、ただ大人が子どもに提供するのではなく、子どもや親と共に創る、子どもの創造性を育めるような場づくりが大事ではないかと。

本日の議論を踏まえて、今後も検討していきたい。とまとめがありました。

竹山地区でのその他の取組状況について ～一部をご紹介します～

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり
穏やかに、続いています。 **カフェ ぶらり**



竹山地区社協が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方ならどなたでも集まって情報交換等ができる場として「**ぶれあいさろん竹多久**」で、2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、竹山地区社協HP等でもご案内しています。

日頃から、そして災害時の助け合いのために**更新**します。

防災ささえ愛カード



今回で4年振り・3回目の更新となります。自治会を通じて配布・回収します。御理解・御協力をお願いします。

くみどりのわ・ささえ愛プラン - 竹山地区別計画推進委員会構成団体等>

連合自治会、単自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、小学校、保育園 等 計27名

竹山地区別計画推進委員会
平成31年3月発行 第3期-No.6 (通算 No.16)
<連絡先>事務局 緑区保険年金課内 TEL:930-2336

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」 竹山地区別計画推進委員会通信

今年度2回目の委員会を開催～今回のテーマは

第3期計画3年目・中間振り返り ～これからの竹山～



第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の竹山地区別計画を推進していくために、推進3年目・今年度第2回推進委員会が3月4日竹山ホールで開催されました。

今回は、第3期計画（H28～32）の3年目・中間年を迎えたことから、来年度からの次期4期計画策定に向けて、竹山地区別計画の各目標と取組の推進状況について全体の振り返りを行いました。その様子をご紹介します。



委員長 大谷竹山連合自治会長

「竹山のこれから」のまちづくりは、一部の役員だけではできない。一人ひとりの「ささえあい」が何より大切。大きな課題のひとつ「防災」については特にそう。隣近所、数人のささえあいが、少しずつつながって、竹山に暮らし続けたいと思っただけのような、大きな力になっていく。少子高齢化も著しいが、元気な高齢者もたくさんいる。若い人はもちろん、何歳になっても役割があって、活躍できるような機会・場づくりを今後も一緒に進めていきたい。

第3期（H28～32）竹山地区別計画の目標と取組

□ 目標1「ボランティアの取組を充実します」

- ⇒ 竹山ボランティアセンターの活動充実・PR強化
- ⇒ ボランティアの参加者を増やす工夫、仕組みづくり など

□ 目標2「知りたい情報をわかりやすく伝えていきます」

- ⇒ ホームページや広報紙での活動紹介、竹山の魅力PR強化
- ⇒ 「防災ささえ愛カード」の取組を通じた、平時・緊急時の見守り・連絡体制検討 など

□ 目標3「世代間・活動団体間の交流を進めます」

- ⇒ 美化活動、竹山池などの魅力を活かした、多世代で参加できるイベント開催
- ⇒ 課外授業などを通じた小学校との連携強化

「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、誰もが身近な地域で安心して暮らし続けられる緑区を目指していくために、区民、事業所、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む計画です。緑区では11連合自治会ごとに「地区別計画」を策定・推進し、身近な地域の課題解決に向けて取り組んでいます。詳しくHPや右記PR動画等からご覧ください。



(裏面に続く)

3つの目標にあわせたグループごとに分かれて、できた・できなかった・現状維持
・見直しが必要の4つの評価軸から確認していききました。～意見交換の一部をご紹介します～



青木 竹山三丁目自治会長

1グループ 目標1
「ボランティアの取組を充実します」

「竹山ボランティアセンター」、みなさんは行ったことありますか？大変な思いで管理運営して、地域のささえあいの機能を担っている。PR・支援する人を増やせないかが、引き続き課題。もっと『得意なこと』で人材を集めることできたらいいのではないかな。よろず便利屋のような存在になれば。のぼりや領収書の裏に活動紹介を掲載するなど、PRも単独より、各自治会との連携を模索していきたい。

高齢化で、これまで支えてくださっていた人たちも思っていた以上に抜けざるを得ない状態になっている。現在、自治会活動の中心は70歳以上。若い人を入れることも必要だが、いくつになっても元気で活躍できる人が、少しでも長く続けられる仕組みを考えていく方が効率がいいのではないかな。みんなのボラセンを目指して、社協だけではなく、自治会としてもがんばっていききたい。

情報の発信は定例のもの、タイムリーなものどちらも大事。地区社協HP活用、年間スケジュール共有、紙媒体の継続、連合だよりの写真や文字の大きさの工夫等を重ねてきている。

4年振りに更新中の『防災ささえ愛カード』。回収率は約70%。引継ぎや個人情報の管理も問題だが、同意してくれた人には連合自治会と民生委員で共有して見守りもしている。

自治会役員の負担軽減は最大の悩み。役員をやりたくなくて自治会を脱げてしまう人も。効率的・持続的な活動にしていけるための見直しの時期にきているように感じる。



太田 竹山連合自治会事務局長

2グループ 目標2
「知りたい情報をわかりやすく伝えていきます」



小野寺 竹山地区社協事務局長

3グループ 目標3
「世代間・活動団体間の交流を進めます」

美化活動は充実し、幼稚園や小学生と公園愛護会での花植活動等も続いている。小学校のアンケートでも、竹山小の児童は地域行事に参加している率が高い様子。安全、安心してまちの行事に参加できている点は素晴らしい。一方で、各自治会等で行事が細分化して参加者も分散してしまう面もありそう。まとめた企画・運営に転換していくことも要検討。

池活など、池を使った課外授業や環境を学ぶことができているのはうまくいっている。このまま続けていってほしい。「ふれあいさろん竹多久」は、入場料などの料金体系の見直しの工夫や新規の取り込みも必要。桜、池もきれいに見えて季節感を味わうことができる魅力もある一方で、このままでは地域の交わりが少なくなってしまうので、皆で集まっているいろいろなことに取り組みるといい。

今回の中間振り返りをもとに次年度からは、次期計画の策定も進んでいきます。竹山地区の少し先の福祉保健課題を見据えて、いまできること、必要なことを見直し、計画を推進していきます

穏やかに、ゆるやかに。続いています。カフェぶらり。

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり

竹山地区社協が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方ならどなたでも集まって情報交換等ができる場として「ふれあいさろん竹多久」で、2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、階段の掲示板や竹山地区社協HP等でもご案内しています。



〈みどりのわ・ささえ愛プラン・竹山地区別計画推進委員会構成団体等〉

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、小学校、保育園 等 計27名

白山地区

白山地区別計画推進委員会

地域 白山1～4丁目

緑区の東方に位置しており、地区の南側は旭区、北側は都筑区に隣接しています。北側には鶴見川が流れています。JR横浜線沿いの地区西側には白山ハイテクパーク（産業団地）、市営バス車庫、東側には大規模マンションが建っています。道路沿いに企業、商業施設等が並んでいます。

また、南側に向かって丘陵状になっており、計画的に整備された戸建中心の閑静な住宅地が広がっています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

震災時避難場所（地域防災拠点）：鴨居中学校

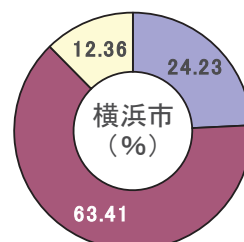
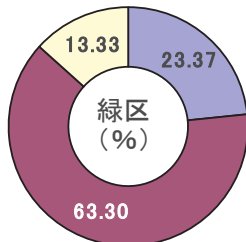
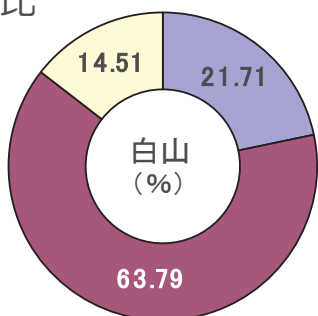
地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) □年少人口比率(0～14歳)



75歳～	1,080人
65～74歳	1,389人
15～64歳	7,256人
6～14歳	1,044人
0～5歳	606人
合計	11,375人

75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年6月23日

18:00～20:00

白山自治会館

- データから見える地区の福祉保健課題の説明
- 地区活動報告

はくさんHAPPYMAMA'S/Salon ジーパ/白山ボランティアの会「猫の手」

通信No.15 発行

原則毎月開催 第2～5回

各団体の活動報告、目標項目別に活動状況を分類し、情報を共有

第6回

平成30年11月24日

18:00～19:45

白山自治会館

- 【みんなで地域を考える会と合同】
- ・白山地区の防犯力の向上に必要なことを考える

通信No.16 発行

原則毎月開催 第7～10回

各団体の活動報告、目標項目別に活動状況を分類し、情報を共有

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



白山地区



全員参加による安全・安心なコミュニティの実現を目指して

白山地区では、『全員参加による安全・安心なコミュニティづくり』の理念のもと
①防犯②防災③福祉④子どもの健全育成⑤環境の5つの目標を掲げ、毎月、委員によ
って目標実現に向けた話し合いを続けています。

白山地区内で、住民参加によるさまざまな活動が行われています！

はくさん HAPPY MAMA' S

子育て世代が多いが集いの場が少ない！との声にこたえるため、地域の方の協力を得て、親子が歩いて集えるサロンを始めました。お弁当持参でランチタイムもあります。

- ★対象：白山にお住まいの子育て中のママ・パパとお子さま
- ★日時：第3火曜日 10時から12時30分
- ★会場：白山緑会館
(白山3丁目23-8)



Salon ジーバ

白山地区を担当している「鴨居地域ケアプラザ」の運営法人の地域貢献の取り組みの一環として、地域住民が気軽に集まれ、楽しく交流できるサロンを昨年オープンしました。

- ★対象：おおむね65歳以上の方
- ★日時：毎週火曜日（年末年始及び祝日を除く）
午前10時から12時／午後13時から15時
- ★会場：鴨居7丁目16-15
- ★費用：100円（コーヒー、紅茶他飲み物代）



白山ボランティアの会「猫の手」

平成28年に白山地区社会福祉協議会が中心となり立ち上げたボランティアの会。庭の草むしり、ゴミ捨て、電球交換、話し相手のボランティア活動をしています。また、活動を知ってもらうため、地区のパトロール活動や草むしりを行っています。

- ★猫の手専用電話 080-3157-1133
- ★受付時間 月～金 10時から16時
- 一緒に活動してくれる仲間を募集しています！！



合同パトロール活動

これまで白山地区内の自治会がそれぞれパトロール活動を行っていましたが、平成30年7月と11月に合同パトロールを試行的に実施しました。

これまでの活動でそれぞれが把握している地区内の防犯ポイントの情報などを共有することを目的に「防犯委員会」が結成されました！



白山地区別計画推進委員会



白山地区別計画推進委員会
平成30年9月発行 第3期 No.5 (通算No.15)



白山地区別計画推進委員会通信

安全・安心なコミュニティへまた一歩前進！！

平成30年6月23日(土)18時～20時に白山自治会館において、平成30年度第1回「みどりのわ・ささえ愛プラン 白山地区別計画推進委員会」を開催し、計画の推進に向けた話し合いを行いました。白山地区では、毎月第4土曜日の18時から委員会を開催し、話し合いを続けています。

「みどりのわ・ささえ愛プラン」とは誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む緑区の『地域福祉保健計画』です。白山地区は、白山地区の地区別計画にそって活動しています。平成30年度は第3期計画の折り返しとなる3年目を迎えています。

白山地区の理念

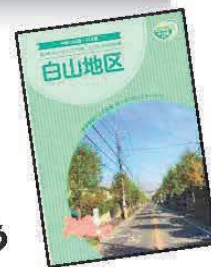
全員参加による
安全・安心なコミュニティづくり

5つの目標

- 1 **防犯** 地域の防犯力を高めよう
- 2 **防災** 自助・共助・近助の力を育もう
- 3 **福祉** 孤立化を防ごう
- 4 **子どもの健全育成** 子育てしやすい地域づくりをめざそう
- 5 **環境** ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう

目標実現に向け、今計画期間の平成32年度までそれぞれの活動を行っていきます。ぜひ、お一人お一人が身近にできることからご参加ください！

第1回委員会の様子



<白山地区別計画推進委員メンバー>

◎委員長 白山連合自治会長 山口 章

委員会は下記各団体等の代表者・役員で構成しています。(委員31名)

- 連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●民生委員・主任児童委員
- コガモひろば ●消費生活推進員 ●スポーツ推進員 ●青少年指導員
- 保健活動推進員 ●わかば会 ●いちえ会 ●白山グリーンクラブ
- 白山シニア会 ●白寿会 ●消防団 ●防犯指導員 ●防災企画委員
- 環境事業推進委員 (順不同)

裏面も
あります



第1回委員会では、統計データから見える白山地区の福祉保健課題について共有したうえで、既に地区内で取り組みが始まっている活動の紹介がありました。



(紹介された白山地区の福祉保健課題の例)

- ・40代、60代が多く、10年後、20年後に高齢者、後期高齢者の割合がかなり増加する。
- ・3丁目を中心に、子育て世帯が増加している一方で、地区内に子育て関連施設や、親子が集える場所が少ない。

★委員会で紹介された白山地区での活動★

はくさん HAPPY MAMA'S

子育て世代が多いが集いの場が少ない！との声にこたえるため、地域の方の協力を得て、親子が歩いて集えるサロンを始めました。お弁当持参でランチタイムもあります。

- ★対象：白山にお住まいの子育て中のママ・パパとお子さま
- ★日時：第3火曜日 10:00～12:30
- ★会場：白山緑会館
(白山3丁目23-8)



Salon ジーバ

白山地区を担当している「鴨居地域ケアプラザ」の運営法人の地域貢献の取り組みの一環として、地域住民が気軽に集まれ、楽しく交流できるサロンをオープンしました。

- ★対象：おおむね65歳以上の方
- ★日時：毎週火曜日（年末年始及び祝日を除く）
午前の部 10:00～12:00
午後の部 13:00～15:00
- ★会場：鴨居7丁目16-15
- ★費用：100円（コーヒー、紅茶他飲み物代）



白山ボランティアの会「猫の手」

平成28年に白山地区社会福祉協議会が中心となり立ち上げたボランティアの会。庭の草むしり、ゴミ捨て、電球交換、話し相手のボランティア活動をしています。また、活動を知ってもらうため、地区のパトロール活動や草むしりを行っています。

- ★猫の手専用電話 080-3157-1133
 - ★受付時間 月～金 10:00～16:00
- 一緒に活動してくれる仲間を募集しています！！



★その他の取り組み★

これまでの話し合いをふまえ、白山地区内の自治会がそれぞれ行っていたパトロール活動を、7月10日と11日に合同で実施しました！！

コミュニティづくりのためのキーワードは、「共生・共感、共鳴、行動」！
「一人ひとりの想い」が活動の出発点です。「楽しく」「できることから」コミュニティづくりを進めましょう！！

<連絡先> 白山地区別計画推進委員会事務局 緑区生活支援課長 TEL：930-2318



白山地区別計画推進委員会
平成31年3月発行No.6 (通算No.16)



白山地区別計画推進委員会通信

安全・安心なコミュニティの実現のために「参加」と「気づき」を!!

平成30年11月24日(土)に平成30年度第6回「みどりのわ・ささえ愛プラン 白山地区別計画推進委員会」を開催しました。

今回は「みんなで地域を考える会」との合同開催となり、「防犯力の向上」をテーマに、ワークショップ方式により、活発な意見交換が行われました。

「みどりのわ・ささえ愛プラン」とは

誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題の解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む緑区の『地域福祉保健計画』です。白山地区の地区別計画に沿って推進しています。

白山地区の理念

全員参加による

安全・安心なコミュニティづくり

5つの目標

- ① 防犯 地域の防犯を高めよう!
- ② 防災 自助・共助・近助の力を育もう!
- ③ 福祉 孤立化を防ごう
- ④ 子どもの健全育成 子育てしやすい地域づくりをめざそう!
- ⑤ 環境 ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう!



◀委員長

山口 白山連合自治会長

白山地区では、毎月第4土曜日の18時から委員会を開催し、目標実現に向けた話し合いを続けています。これまで、地区内でも、自治会での防犯パトロール、防災訓練、ボランティアグループの清掃活動、高齢者や親子のサロンの開設など、「安全・安心なコミュニティ」の実現につながる活動が生まれています。

白山地区別計画推進委員メンバー ◎委員長 白山連合自治会長 山口 章

委員会は下記各団体等の代表者・役員で構成しています。(委員30名)

- 連合自治会 ● 各自治会 ● 地区社会福祉協議会 ● 民生委員・主任児童委員
- コガモひろば ● 消費生活推進員 ● スポーツ推進委員 ● 青少年指導員
- 保健活動推進員 ● わかば会 ● いちえ会 ● 消防団 ● 白山グリーンクラブ
- 白山シニア会 ● 白寿会 ● 防犯指導員 ● 防災企画委員
- 環境事業推進地区代表(順不同)

(平成30年11月24日(土)開催)

地区別計画推進委員会・みんなで地域を考える会でワークショップを行いました！

ワークショップに先立って、現在「さすまたパトロール隊」を行っている白山緑自治会と、白山ボランティアグループ「猫の手」に参加している委員からパトロール活動の状況について報告がありました。



「パトロール活動をすることで、①参加者のコミュニケーションが活発になる
②歩くことで参加者の健康増進につながる
③地域や住民の異変に気付くなど安否確認もできる など利点が多い」
「無理なくやるのが長く続けるコツ。週1、月1でもやれる時にやるのが大事。」
「地域の中で危険な場所の点検ができ、行政に相談するなど、改善のきっかけとなる」

続いて、緑区役所地域力推進担当から、防犯活動の意義について説明がありました。

「日頃から顔の見える関係性がないと、誰が不審者なのかわからない」
「同じ人ばかりがやることにならないよう、気軽に参加できるようなイベントなどと組み合わせる」
「健康寿命を左右するものの一つに地域の治安が考えられる（治安が悪いと外出しなくなる等）」
「防犯活動などの社会活動への参加は元気の秘訣！」
「人と人がつながることが、地域の健康度や地域力、安全・安心の向上の一助となる」

ワークショップは4つのグループに分かれ、地域の情報共有や課題解決に向けた意見交換を行いました。

- ・顔が見える関係づくり、防犯の基本はコミュニティづくり。顔見知りを増やすことが大事。
- ・まちがきれいだと防犯力があがる。美化推進も重要。
- ・「防犯の日」や「防災の日」を挟んで「防災WEEK」を設定する。白山にちなんで8、9、3（は・く・さん）月に合同パトロールをしてはどうか。
- ・地域を歩いて把握した状況について、意見や気づきを集約した方がよい。
- ・連合として「防犯部」などの組織を作る。



▲ワークショップの様子



<現在までの動き>

意見をふまえ、「白山連合防犯実行委員会（仮称）」を立ち上げることとなりました。今後、規約などのルールづくり、各自治会などで実施している防犯活動の現状把握などを進めていきます。

2019年7月、10月に合同パトロールを実施することを予定しています。地域の皆様の積極的な参加をお待ちしています！！（無理なく行うことが大前提です。）

<連絡先> 白山地区別計画推進委員会事務局 緑区生活支援課長 TEL：930-2318

新治中部地区

新治中部地区別計画推進委員会

地域 台村町、森の台、寺山町、中山町、中山1~4丁目、上山1~3丁目

明治41年横浜線開通と同時に中山駅が開業し、駅周辺に市街地が形成されました。現在も中山駅を中心に緑区総合庁舎や警察署などの行政機関、福祉保健施設があり、駅前には商店街などの商業施設があります。また、横浜市営地下鉄グリーンラインが平成20年3月開通しました。

一方、南側には県立四季の森公園や長坂谷公園があり、緑豊かな環境となっています。

<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）

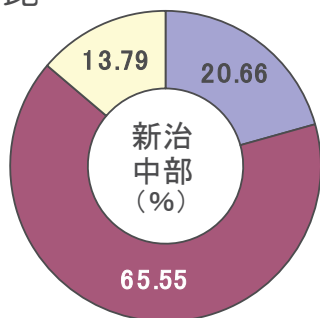
震災時避難場所（地域防災拠点）：上山小学校、中山小学校、中山中学校、森の台小学校

地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ

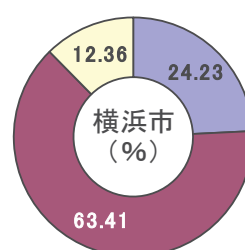
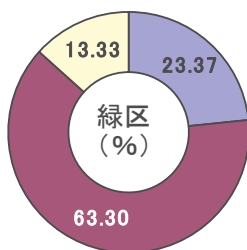
<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比



■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15~64歳) □年少人口比率(0~14歳)



75歳~	3,347人
65~74歳	3,585人
15~64歳	22,000人
6~14歳	2,883人
0~5歳	1,745人
合計	33,560人

75歳~	20,959人
65~74歳	21,270人
15~64歳	114,390人
6~14歳	15,061人
0~5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳~	454,366人
65~74歳	452,709人
15~64歳	2,374,255人
6~14歳	285,140人
0~5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年7月12日
18:30~20:30
中山町自治会館

- 【みんなで地域を考える会と合同】
- ・防犯・防災キャッチフレーズの取組について
 - ・“地域ふれあいフェスティバル”について
 - ・『次世代につながる、まちづくり』について意見交換

第2回

平成31年2月20日
10:00~12:00
中山町自治会館

- ・防犯・防災キャッチフレーズの取組報告
- ・新治中部の子どもたちの現状について意見交換

通信No.17 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



新治中部地区

台村町、森の台、寺山町、中山町、中山1～4丁目、上山で構成



防犯・防災に強い、次世代につながるまちをめざして！

新治中部地区では、第3期計画で大きく2つの目標を掲げて、まちづくりに取り組んでいます。

「第6回 防犯・防災キャッチフレーズ」& 「第20回新治中部ふれあいフェスティバル」

今年も
最優秀作品は
ポスターに！



地域の防犯・防災意識を高めしていくため、平成25年度から地域の小学5年生・中学1年生を対象に“合言葉”となるような標語を募集しています。

6回目となる今年も計553件もの標語が集まり、最優秀4作品を含む45作品が入選しました。

次世代を担う子ども達の「健全育成」や「ふるさとづくり」を目指し、20年に渡り続けてきた「地域ふれあいフェスティバル」。昨年は残念ながら台風で中止となってしまいましたが、今年度は秋晴れのもと盛大に開催され、その中でキャッチフレーズの表彰式も行われました。



各校の表彰者との記念撮影。多くの児童・生徒が参加してくれました。(左から、中山中・中山小・上山小、森の台小)

このまちを次世代につなぐ。子どもたちのために。

今年度は、「子どもたちに新治中部にもっと興味や愛着を持ってほしい。それが将来の新治中部の活力につながる」というテーマで、地域による「見守り活動」や「居場所づくり」の現状や課題、これからについて議論を深めました。

地域全体で子どもたちの健やかな育ちを見守っていくために、子ども自身や親世代など、もっと多くの声を集めていく取組を検討しています。



地区別計画推進委員会の様子

新治中部地区別計画推進委員会

平成30年度 みんなで地域を考える会 【新治中部地区連合自治会】

平成30年7月12日（木）19:00～20:45

場所：中山町自治会館

参加者：75名（うち行政関係者21名）

【テーマ】

次世代につながるまちづくり

※地区別計画推進委員会との合同開催

基調提起 相原連合自治会長

子どもたちと地域との関わりはより活発に行われてよいと思う。そして子どもたちに新治中部にもっと興味や愛着を持ってほしい。それが将来の新治中部の活力につながると思っている。

地域による子どもたちの「見守り活動」は継続して行っているが、「居場所づくり」も進めていくことで、地域や大人が子どもを育てるまち、新治中部の魅力につながるのではないかな。ぜひ色々な意見を出し合って欲しい。



1グループ（上山町）

今までに取り組んだ事

①自治会【各種の行事】、②地域【パトロールでの声かけ・スクールガード】、③学校・行政【子どもと施設との交流】、④個人【地域での声かけ】

これから取り組んでいきたいこと

①危険箇所（犯罪があった、見通し悪いなど）のハザードマップを作って地域で共有する。②今日のような会合に子どもが参加し、挨拶から一歩踏み込んで顔見知りになる。③学校やPTAではポスターや会報などで挨拶活動を広める支援をしてもらう。



2グループ（寺山町）

今までに取り組んだ事

①各種の行事（夏祭り（神輿）、そうめん流し、書初めなど）、②地域の活動（境内の清掃活動、学園隊の見守り、町内パトロールなど）。

これから取り組んでいきたいこと

現在多く住んでいる40代が高齢化した時、サポートするのは今の中高生なので、彼らが地域に参加する取組を。①中高生が参加して防災に強いまちづくりをする、②小中学生のスポーツ活動を活発にする、③中高生への自治会からのPR（祭りへの参加など）を積極的にする、④防犯カメラの設置を増やす、など。



3グループ（中山町①）

今までに取り組んだ事

①連合【花いっぱい運動】、②地域と学校【キッズファーム、郷土資料館の昔遊び、防犯教室】、③地域行事【サマーキャンプ、盆踊りの太鼓】など。

これから取り組んでいきたいこと

①自ら挨拶をする、地域を愛するなど、大人・保護者がまず取り組む。
 ②囲碁や将棋、料理づくりなど、地域のイベントに子どもを参加させ、そこでの交流を地域での挨拶につなげていく。③地域の為に活動する「地域活動クラブ」を学校に作って欲しい。④防災訓練に小中学生が参加するように、保護者は配慮を。⑤わんわんパトロールは学校下校時に実施する。

**4グループ (中山町②)****今までに取り組んだ事**

基本的に3グループと同じ。他には車いす体験、夜間パトロール、「ふれあいの目」での交流、赤ちゃん訪問など。

**これから取り組んでいきたいこと**

①【多世代交流】中山町まつりでの花かごの伝統継承、オレンジカフェの子どもの参加、子どもたちと合同で朝の清掃活動など。②【交流の場づくり】ハイキングの実施など。③【子どもが活動できる場】地区によっては子どもの遊び場が少ないため、充実を。

5グループ (台村・森の台&3集合住宅)**今までに取り組んだ事**

①通学の見守り、②花いっぱい運動、③サロンの実施④夏祭りなど。

これから取り組んでいきたいこと

①挨拶と防犯意識との融合(挨拶はする&見知らぬ人にはついていかない) ②既存の様々な活動の周知。③子どもたちを外に出す仕掛け(イベント) ④イベントの担い手不足を複数自治会の合同開催で解消するなど。

子どもは故郷を選べない。だからこそ子どもにとって楽しい故郷とするのが親世代の務めだと思う。

**アンケートの意見**

- ・参加者皆様の熱い想いを感じました。
- ・グループワークだったので、意見交換しやすかったです。
- ・今日話し合いをいかに実践に結びつけるかが重要と考えます。地域に帰り考え、推進できることから取り組んでいきたいと思えます。
- ・取り組んだ事は共通した内容でもある為、サンプリングして書き出しおき、これから取り組んでいきたい事を話し合う時間を長くできるかと思えます。

当日の会場の様子



発言内容は紙面の都合上、趣旨を踏まえて一部編集を行っています。



新治中部地区別計画推進委員会

平成31年3月発行 第3期 No.5 (通算No.17)

新治中部地区別計画推進委員会通信



次世代につながるまちにしたい

新治中部の子どもたちの現状（いま）を知ろう

にいほるちゅうぶ → ふるさと

2月20日（水）に、「第2回新治中部地区別計画推進委員会」を開催しました。

平成30年度の取組を振り返るとともに、地区別計画に基づき、「次世代につながるまちにしたい～新治中部の子どもたちの現状（いま）を知ろう～」をテーマに、小学校・中学校の校長先生に最近の子どもたちの状況を教えていただきながら、子どもたちに、“ふるさと・新治中部”に愛着をもってもらえるために、進めていくべき方向性について話し合いました。その一部をご紹介します。

新治中部地区（台村町、森の台、寺山町、中山町、中山1～4丁目、上山）には、現在約34,000人が住んでいて、うち15歳未満の子どもは約4,700人。小さな子どもから親世代、高齢者まで、この街に愛着を持って住み続けていただくには、「人材を育てる」街づくりをしていかないとけない。これまで話し合ってきたことを実践につないでいくために何からできるか。今日は、校長先生に子どもや親世代の現状を教えてくださいながら、次世代につながるまちづくりに必要なことを考えていきたい。



▲相原委員長

最近の子どもたちの傾向や気になること、これからの育ちについて
小・中学校の校長先生から→（たくさんお話いただいた一部です）

- 授業も多く帰宅時間が以前と比べて遅くなっている。人間関係のスキルが磨かれる「子どもたちだけの時間」が少なくなってきたことも気がかり。
- 自然の中で遊ぶ・過ごす体験はとても重要。「けがと弁当は自分持ち」という、最低限の大人の見守りの中で、子どもたちの創造性を育む自然を活かした遊び場・居場所がこの地域でももっとつくれたら素敵ではないか。
- 子どもたちへの意識調査によると、自分で決めたことは最後まで頑張っていると認識している子が多い一方で、自分が人の役に立つ、自分が好きといった自尊心が低い傾向も伺える。
- 学校としても、最後まで子どもの話を聞く努力や自己決定している時間を待つてあげること、「失敗」も大事にしていくことを、保護者とも共有していきたい。
- 子どもが失敗や多少間違っても、まるごとそれで良い、次は頑張ろう、といってくれる大人がいる居場所、「心の居場所」、子どもたちの自尊心が育まれるような場所が地域にあったら。
- 小学校になっても、赤ちゃん会のような、親子で一緒に楽しめる（折り紙や将棋など）、誰でも参加できるような場があるといい。

▲中山小学校
永野校長先生▲上山小学校
生中校長先生▲森の台小学校
酒井校長先生

最近の子どもたちの傾向や気になること、これからの育ちについて中学校の校長先生から→



▲中山中学校 二階堂校長先生

中学生になると自尊欲求や自己実現欲求が生まれ、自分に自信が持ちにくくなる世代になってくる。

・中学生が部活動や塾などの習い事に出かけたりして、家族の時間や家族とのかかわり、地域の中でのかかわりも変わってくる。

・外国につながるご家庭も増えてきている。中学校には国際教室があるが、サポートを充実させていきたい。

・部活動の活動時間も短くなる方向に変わってきている。今後、家庭や地域にいる時間が長くなっていく子どもが増えてくると思う。そういった子どもたちの地域でのかかわりの場があると良い。

・自分で考え判断し、他とコミュニケーションをとって行動（実行）する「主体的な力」が身につくような指導に努めている。中学生が主体的に実行していく力をつけていけたら、将来的に地域の力にもつながっていく。

委員のみなさんから→



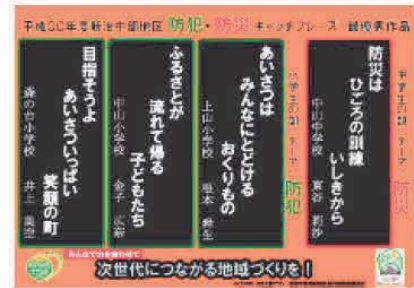
・夏休みや春休みなど、地域のサロンなど、子どもたちにも来てもらえたら嬉しい場もある。学校でも一緒に周知できたらいい。
 ・共働き世帯も増えたり、時代が変わる中で、**地域で子どもを見守り、育てていくためには、支える側だけでなく、当事者の子ども・親世代・保護者の声を集めて、保護者の生活感や子どもの思いを受け止めていくことが必要。**その意見を横の連携で実現していけたらいい。

「できていること」と、「できたらいいな」はたくさんあります。子どもたちが本当に必要としている支援を届けるために→



来年度は、新治中部の子どもたち、親世代の声を集めていきます！

子どもたちやその親世代にも地域の安全・安心に関心をもってもらえる機会をつくれないうちの思いから始まった「防犯・防災キャッチフレーズ」の取組も今年度で6回目。地区内の小学5年生、中学1年生から553件の応募があり、45作品が入賞。昨年10月28日に開催された「第20回新治中部ふれあいフェスティバル」で表彰式が行われました。ご応募・ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



最優秀作品ポスター▲



表彰式記念写真（学校別）▲

「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、誰もが身近な地域で安心して暮らし続けられる緑区を目指していくために、区民、事業所、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む計画です。緑区では11連合自治会ごとに「地区別計画」を策定・推進し、身近な地域の課題解決に向けて取り組んでいます。詳しくHPや右記PR動画等からご覧ください。

～第3期新治中部地区別計画 2つの目標～

- ① 防犯・防災に強い、安心できるまちにしたい
- ② 次世代につながるまちにしたい



＜連絡先＞新治中部地区別計画推進委員会事務局 緑区福祉保健課 TEL：930-2305

三保地区

三保地区別計画推進委員会

地域 三保町

緑区の中央に位置し、地区の南側は旭区に隣接しています。北側約半分には、いくつかの集合住宅と既存の住宅など、住宅地が広がっています。南側には「三保市民の森」など広大な緑地が残されていますが、ここ数年間で開発が進み、住宅が増えています。

また、特別養護老人ホームなどの高齢者施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）

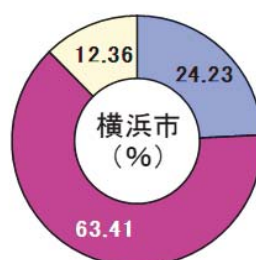
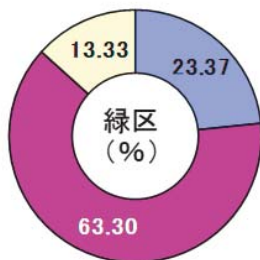
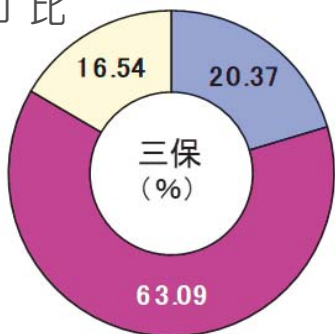
震災時避難場所（地域防災拠点）：三保小学校

地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比



75歳～	1,398人
65～74歳	1,726人
15～64歳	9,675人
6～14歳	1,626人
0～5歳	911人
合計	15,336人

75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年8月25日

14:00～16:00

三保町自治会館

- ・第3期計画について
- ・「見守り・居場所づくり検討委員会」報告
- ・「さんさんルームの利用方法」について意見交換

通信No.15 発行

第2回

平成31年1月26日

14:00～15:30

三保町自治会館

- ・「見守り・居場所づくり検討委員会」報告
- ・「さんさんルーム」での取り組み状況の報告
- ・「第2号案件の運用」について意見交換（現地見学も実施）

通信No.16 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



三保地区



地域の「居場所づくり」を進め、 落ち着いて活動できる街を目指します！

平成30年度は三保地区の居場所づくりの検討を進めました。昨年度協定を結んだ“さんさんルーム”での活動の状況や、さらに2号案件について、今後の利用開始に向け、意見や課題を出し合いました。



「さんさんルーム」の利用を開始しました！

第1回地区別計画推進委員会では、さんさんルームの紹介と利用方法を話し合いました。参加者から様々な意見が出た中で、予約の方法や利用上の注意事項等、誰でも使いやすいルールを検討し、利用を開始しました。三保地区で今年度新たに活動をはじめた団体をご紹介します。



(写真：「第1回地区別計画推進委員会」の様子)



「こどもの居場所『サンサン』」

…主任児童委員が中心となり、こどもの学習支援を始めました。
毎月1回第4水曜日午後2時30分から午後5時まで

※「さんさんルーム」は、三井住建道路(株) 関東支店南関東営業所（三保町 1956-6）の別棟2階会議室で、三保地区のみなさんの新しい居場所です！



2号案件の使用開始に向けて



(写真：2号案件下見の様子)

三保町自治会館のすぐそばにある元学習塾だった部屋を地域で活用できるよう調整を進めました。

第2回地区別計画推進委員会では、現場を視察し、今後の利用に向けて話し合いました。

第3期計画の地区別目標を達成するため、引き続き「居場所づくり」に向けて取組み、落ち着いて活動できる地域「三保」を目指します！

三保地区別計画推進委員会



三保地区別計画推進委員会
平成30年10月発行第3期 No.5 (通算 No.15)



三保地区別計画推進委員会通信

第1回三保地区別計画推進委員会を開催しました！

平成30年8月25日（土）三保町自治会館において、「平成30年度第1回みどりのわ・ささえ愛プラン三保地区別計画推進委員会」を開催し、これまでの取り組みが報告され、新しくできた居場所と、三保地区の活動団体の紹介がありました。その上で、今後、居場所をどのように活用していくか、より具体的な内容に焦点をあてて意見交換を行いました。



委員会の様子

これまでの取り組み

平成29年度は「居場所づくり」をテーマに、三保地区のみなさんが使用できる場所を探していましたが、この度、「三井住建道路㈱」と会議室の使用協定を結びました！

・三井住建道路㈱との協定



使用ルールのパンフレット



居場所の名前は「**さんさんルーム**」に決定！
今年度は居場所づくり検討会で、使い方や申込方法を検討してきたよ！

委員会では、今後「さんさんルーム」で活動を予定している三保地区の「**こどもの居場所サンサン**」（子どもの学習支援）が紹介されました。



さらに！今年から三保町自治会館等で開催している「**みほどんぐりの会**」（未就学の親子の居場所）が紹介されました。
他にも、三保町自治会館の近くに次の居場所の候補を見つけたよ。今は使用にむけて調整中です。様々な活動がより身近な場所で、ますます盛んにできるといいね。

委員会から出た意見

居場所の紹介後に、「どうやって使うか」を焦点にして、意見交換を行いました。

Aグループ

【施設について】

- さんさんルームまでが遠く、平日限定なので使用者が限定される。

【使い方について】

- スケジュールが埋まっているかの確認がわかりやすいと思う。
- 子どもの学習支援など地域活動では、保険加入などの体制整備も大切。



Bグループ

【施設について】

- 資料だけだとイメージしづらいので、実際に見学できたら良かった。
- 会議室が2階なので、足の悪い人には利用が難しいのではないかと。
- 次の居場所について、茶器など必要なものは寄付で集めればよいのではないかと。



Cグループ

【使い方について】

- さんさんルームの申込書と一緒に手順が示されているといい。
- 各自自治会館に申込書等を置き、スケジュールを見て申し込むとスムーズではないか。
- QRコードをつけて地図を見れるようにすれば土地勘がない人でもわかりやすい。
- 学習支援はまずやってみて拡張するといい。



Dグループ

【使い方について】

- 三保町自治会館の予約がたくさん入っているため、さんさんルームはぜひ活用していきたい。
- PTA、おやじ団・おやじの会は活動の主体が土日なので、今の利用日だと難しいが、活動結果をみんなで共有し、今後の部屋利用について拡張していけばよいのではないかと。



●各グループからは、場所までの距離やわかりやすさ、土日祝の利用制約があるものの、三保町自治会館の補完的な役割として良いのではないかとという意見がでました。

●子どもの見守り活動について、開催に向けて整備を進めることが必要で、学習支援の時期や頻度についても活発な意見がでました。活動実績が増えれば、利用方法も新たに考えられると思います。引き続き、利用方法の検討を進めていきます！

委員紹介 委員会は下記各団体等の代表者で構成しています。

- 連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●民生児童委員・主任児童委員 ●保健活動推進員
- 消費生活推進員 ●青少年指導員 ●スポーツ推進委員 ●老人クラブ連合会 ●防犯指導員 ●友愛活動推進員
- 隣友会 ●三保おやじ団 ●三保小学校PTA ●三保小学校 ●子ども会 ●みほどんぐりの会

三保地区別計画（平成28～32年度）

目標1

地域でのつながりを大切にし、活動を活発にしたい

目標2

落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい

目標3

地域が団結して、防災力を高めたい



<連絡先> 三保地区 地区別計画推進委員会事務局
緑区生活衛生課 TEL：930-2364



三保地区別計画推進委員会
平成31年3月発行第3期No.6（通算No16）



三保地区別計画推進委員会通信

第2回三保地区別計画推進委員会を開催しました！

平成31年1月26日（土）三保町自治会館において、「平成30年度第2回みどりのわ・ささえ愛プラン三保地区別計画推進委員会」を開催しました。「さんさんルーム」での活動実績をはじめ、30年度前期の活動を振り返りました。

また、2号案件についても、実際に現場を見ながら、どんな活動に使えるか、ルールをどうまとめるか意見を出し合いました。



【第2回三保地区別計画推進委員会の様子】



平成30年度の取り組み

1 「さんさんルーム」に関する地域での活動状況について

三井住建道路（株）関東支所南関東営業所のご厚意によりお借りしている「さんさんルーム」を活用した、子どもの学習支援「サンサン」の活動が紹介されました。

この活動は、主任児童委員、三保小学校、地区社協が話し合いを続け実施に至り、月1回学習支援を行っています。参加者が増えるような検討も重ねながら地道に進めていきたいところです。



2 2号案件の活用検討

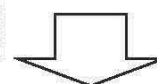
三保町自治会館の向かいにあるマンションの1階、かつて学習塾だった部屋を区役所が借り上げ、第2の居場所として地域で活用できるよう調整を進めています。

第2回地区別計画推進委員会では、実際に現場を見学した上で、どんな活動に使いたいかが話し合いました。



居場所ができれば、どんな活動に使いたいかが、また、どんな課題があるかグループで意見を出し合いました！

裏面をチェック！



居場所の使い方検討結果

Aグループ

- ・プレイマットを敷けば体操などでも使えると思う。
- ・趣味の活動の場にもなるとよい。
- ・昔遊びを教えてくれる場になるといい。
- ・すぐに空き状況が確認できる方法を作ったり、ルールの明記が必要。

Bグループ

- ・トイレは両方の部屋からいけるようになるとうい。
- ・スポーツの自主訓練（空手など）で利用する場合は大きめの鏡があるとよい。
- ・子育て広場として使えるとうい。
- ・連合自治会の管理になるので、管理人を各自自治会で持ち回りしてもよいのでは。

Cグループ

- ・子育てサークルで使用したいところがあるのではないかなと思う。
- ・SNSやインターネットを利用するなど気軽に使える申込方法やPRを要検討。
- ・自治会館が使えないときに使えるとうい。
- ・大きなイベントのときの一時保管場所としても利用できるとよい。

Dグループ

- ・部屋の移動時にある段差を工夫したい。
- ・健康チェック、体操、子どもを遊ばせる、おやじ団のミーティングに使えそう。
- ・管理運営について誰が主体になるのか検討が必要。
- ・利用料の負担をどうするか。
- ・使用予定の管理や申込方法の検討が必要。

どのグループでも、2号案件について前向きな情報交換ができました。
意見をまとめると今回の会議では次の声が多かった印象です。

- ・インターネットの活用等による便利な申込み方法
- ・使用料について検討が必要
- ・バリアフリー化など設備の改修



今回挙がった意見をもとにして、居場所づくり検討会を中心にしながら、住民全体でよりよい居場所づくりを進めていきましょう！

委員紹介 委員会は下記各団体等の代表者で構成しています。

- 連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●民生委員・児童委員 ●主任児童委員 ●保健活動推進員
- 消費生活推進員 ●青少年指導員 ●スポーツ推進委員 ●老人クラブ連合会 ●防犯指導員 ●少年補導員
- 子ども会 ●ボランティアみほ ●隣友会 ●三保おやじ団 ●友愛活動員 ●三保小学校PTA ●三保小学校

三保地区別計画（平成28～32年度）

- 目標1** 地域でのつながりを大切に、活動を活発にしたい
- 目標2** 落ち着いて活動できる活動拠点を増やしたい
- 目標3** 地域が団結して、防災力を高めたい



<連絡先> 三保地区 地区別計画推進委員会事務局
緑区生活衛生課
TEL：930-2364

山下地区

山下地区別計画推進委員会

地域 西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

緑区の北側に、恩田川と鶴見川に挟まれた形で東西に長く位置し、地区の北西側は青葉区、北側は都筑区に隣接しています。市街化調整区域が多い田園地帯で、丘陵地に市営住宅や戸建の住宅が並んでいます。

山下地域交流センターや山下みどり台小学校コミュニティハウスが活動の拠点となっています。また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの福祉施設が多くあります。

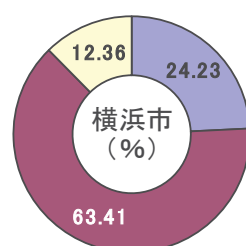
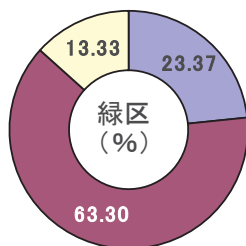
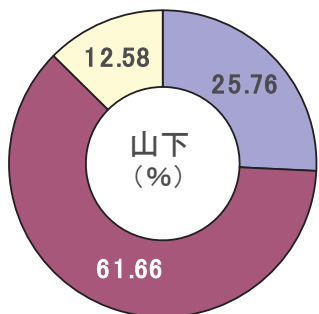
<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）、青葉台駅、藤が丘駅（東急田園都市線）
 震災時避難場所（地域防災拠点）：山下小学校、山下みどり台小学校
 地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ、地域包括支援センターふじ寿か園

<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比



75歳~	2,414人
65~74歳	1,823人
15~64歳	10,143人
6~14歳	1,267人
0~5歳	803人
合計	16,450人

75歳~	20,959人
65~74歳	21,270人
15~64歳	114,390人
6~14歳	15,061人
0~5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳~	454,366人
65~74歳	452,709人
15~64歳	2,374,255人
6~14歳	285,140人
0~5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年8月9日
19:00~21:00

山下地域交流センター

- ・災害時要援護者の取組みについて
- ・山下ネットワークサロンについて

通信No.15 発行

第2回

平成31年1月18日
19:00~21:00

山下地域交流センター

- ・災害時要援護者の取組みについて(防災ささえあいカード更新の進ちょく状況)
- ・山下ネットワークサロンについて

通信No.16 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



山下地区



～安全・安心で住みやすい「山下地区」へ～ 緑区内で進める先進的な取組の数々

安全・安心で住みやすいまちづくりに向けて、災害の視点から「安全安心まちづくり」について話し合いがなされました。

災害発生時に要援護者にどのように手を差し伸べるのか？その第一歩は「要援護者」を把握することから始まります。

二年ぶりに見直しを実施！ 「防災ささえあいカード」の更新



今年度、各自治会で更新を実施、多くの要援護者に”手を挙げて”いただきました。委員会では、各自治会の取組を自治会長から報告・共有し、今後検討すべき課題も把握することができました。意見交換の一部をご紹介します。

- ★カードの更新を行うだけでも、要援護者の状況を把握できる意義を感じた。
- ★情報は民生委員や家庭防犯員とも共有し、災害時に生かす必要がある。
- ★回収率の低さが課題。周知方法についても、回覧のみならず個別訪問を実施する必要があると感じた。

山下地区では、要援護者に優先順位付けを行うなど、より確実に寄り添える体制づくりに努めています。また、民生委員・児童委員協議会と緑区役所との間で

「災害時要援護者名簿」の提供に関する協定を締結しました。（区内初！）

更に一歩進んだ取組として、これからも丁寧に進めていきます。

充実してきた 「山下ネットワークサロン」

今や山下地区の取組の代名詞となっている

「山下ネットワークサロン」。

親子サロン「山下ハイハイオカピ」や、

「Mr. クッキング」など、サロンも16か所に増えました。

山下独自の取組として、ますます充実してきています！



（写真：山下ハイハイオカピ）



（写真：Mr. クッキング）

山下地区別計画推進委員会

山下地区別計画推進委員会

平成30年10月発行 第3期No.5 (通算No.15)



山下地区別計画推進委員会通信



がっちりスクラム 災害に負けないまちへ

平成30年8月9日(木)19時から、猛暑がひと息ついたこの日、山下地域交流センターにおいて、平成30年度第1回「山下地区別計画推進委員会」が開催されました。

今回の委員会では、昨年に引き続き、山下地区別計画目標3「防災・防犯で安心・安全街づくり」をテーマとして、災害時要援護者をどの様に支えていくかの取組と「山下ネットワークサロン」を通して、地域の「つながり」を大切にする活動(目標1)について意見交換を行いました。



▲第1回委員会の様子

★ 昨年度の「みどりのわささえ愛プラン」山下地区別計画の振り返り

第一回委員会では、平成28年度実施した各自治会別の「防災ささえあいカード」の取組の現状と課題を表に纏め、そこから導き出された方向性は、① カード情報の見える化、② 支援者を明確化しネットワークを組み要援護者を支えること、③ 小さな単位での見守り・把握の必要性 となりました。

これを受け、第2回目は要援護者を把握し、平常時あるいは災害時の支援につなげるための支え合いマップについて、4つの自治会の取組が紹介されました。

また、「防災ささえあいカード」については「やさしい日本語」で表現したり、外国語への翻訳についても検討されました。



★ 頼れる「山下ネットワークサロン」(谷井委員)

現時点で15か所が開設されている「山下ネットワークサロン」は、ますます地域の顔の見える関係づくり(つながり)に貢献しています。委員からは、今年度は男性を対象とした料理教室がネットワークに加わったとの報告。高齢者だけでなく幅広い世代間の交流や住民どうしの見守りの輪が大いに広がっているとのことでした。

これからは、参加人数をもっと増やしながらか、より多世代の交流に力を入れ、地域での「つながり」を発展させることができる拠点としての運営を目指したいとのことでした。

サロンマップ最新版は全戸配布されました。

サロンに関するお問い合わせは山下地域交流センター・ふじ寿か園へ



★さらに前進した「災害時要援護者支援の取組」

高齢者の動静は日々変化しています。平成28年度に更新した「防災ささえあいカード」の情報は大きく変わってきており、今年度その更新を計画しています。10月に「防災ささえあいカード」の記載依頼書を皆さんに配布し、今年中に新しい情報を纏める予定です。

昨年に引き続いての災害時要援護者への支援の取組は、新たに2つの自治会がスタートし、山下地区で6つの自治会に支援の活動が広がっています。

以下に、新たな2つの自治会を含め4つの自治会の取組を紹介します。



▲篠崎委員長



各自治会からの取組報告をご紹介します!

●谷津田原住宅自治会（発表者：濱野委員）

要援護者の居住場所をマップに落とすとともに、色付けし見える化を実施。今後は、65歳以上の元気な方にお声掛けして要援護者対策チームを立ち上げ、10名以上を目指してメンバーを募集しているとのこと。



▲濱野委員



▲小柳委員

●谷津田原中央自治会（発表者：小柳委員）

70歳以上の要介護者と乳幼児をそれぞれ一覧にまとめ、要介護者は介護度の色分けも実施。町内のパトロール活動の中で、これらの情報の共有化を図っているとのこと。また、ネットワークサロンの開設を目指したいとの目標が示されました。

●みどり台自治会（発表者：河瀬委員）

要援護者の情報を盛り込んだ「住民ささえあいマップ」を作成・見える化し、要介護度を色分けした一覧も作成。さらに、マップに基づいた情報を強化しているところであり、従来の民生委員と世話人から見守りの担い手を広げていきたいとの発表がありました。



▲河瀬委員



▲篠崎委員長

●小山町自治会（発表者：篠崎委員長）

要援護者と支援者とを結び付けるため、友愛活動推進員、民生委員、自治会担当者として検討し、さらに見える化を進めた“災害時要援護者マップ”を作成。これにより、要援護者と支援者の居場所が把握できるようになり、今後、支援者を推薦していただく道筋がみえてきたとの報告がありました。

【平成30年度 山下地区別計画推進委員 平成30年8月9日現在】（50音順 敬称略）

安部智恵、荒谷孝道、井上和子、小熊富美、落合秀行、口片吉虎之助、小嶋賢治、小柳新一、五島忠八、○篠崎 慧、澁井まどか、菅沼繁晴、鈴木哲生、田中大成、谷井春夫、仲原富士夫、中村忠治、成島昭吾、濱野健次、平山千恵子、口福島信秀、堀内倭文子、中村逸子、宮田文夫、吉浜行彦（○印：委員長、□印：新任）



山下地区別計画推進委員会
平成31年3月発行 第3期No.6 (通算No.16)

山下地区別計画推進委員会通信



「災害時要援護者」に寄り添う確かな歩み

冬本番となった平成31年1月18日(金)19時から、平成30年度2回「山下地区別計画推進委員会」が開催され、会場は熱心な話し合いがなされました。

今年度も各地で大規模災害が発生しており、災害の視点から「安全安心まちづくり」を考えた場合、災害発生時に要援護者にごの様に手を差し伸べるかは一つのテーマです。その第一歩は「要援護者」を把握することから始まります。



▲第2回委員会の様子

《防災ささえあいカードの更新》

平成30年度、「防災ささえあいカード」の更新を2年振りに各自治会で実施し、多くの要援護者に「手を上げ」いただきました。その状況を各自治会長から報告していただきました。



篠崎委員長▶

災害発生時にこれら全ての要援護者を援護することは不可能で、山下地区では日頃の見守りをして頂いている民生委員・児童委員の情報を基に優先順位付けをしており、より確実に寄り添える体制づくりに努めています。これらの情報は、山下地区の二つの地域防災拠点にも提供され管理されたいうで、大規模災害時の要援護避難者の把握と対応に生かそうとしています。

《情報共有方式の締結》

山下地区民生委員・児童委員協議会は区役所と個人情報に関する協定を結び、緑区としては初めて要援護者名簿提供を受けました。更に一歩進んだ要援護者の把握に努め、災害時に役立てようとしています。その進捗状況も報告されました。

《山下ネットワークサロンの充実》

平成28年度から始めた山下ネットワークサロンも三年目が終わろうとしています。サロンの数も16か所となり、地区内にすっかり根付いてきました。その充実した各サロンの状況を報告していただきました。



「情報共有方式」
…って何だろう？

災害時要援護者を把握するために、希望者のみを募る「手上げ方式」(防災ささえあいカード)を活用しています。これらに加え、本年度は緑区役所からも、要援護者名簿の提供を受けることになりました。

この名簿には、区役所からの名簿の提供を「希望しなかった方は登録されない」ことになっており、このような方法が「情報共有方式」とされています。

山下地区では、実際に名簿を取り扱う山下地区の民生委員・児童委員協議会と区役所との間で個人情報に関する協定を結び、さらに一歩踏み込んだ災害時要援護者の把握に努めています。

① 「防災ささえあいカード」活用の広がり

取組報告の一部をご紹介します。

- 分かり易い言葉で「防災ささえあいカード」の提出依頼書を作成、目的・使い方・管理方法を明確にして「手を上げ」いただきました。
- 高齢者の動静は大変早いもので、カードの更新作業を行うだけでも要援護者の状況を把握できる意義を感じる事が出来ました。更新インターバルを短くする必要性も感じました。
- カードにより得られた情報を災害時に生かすためには、自治会役員だけではなく民生委員・児童委員、防災班、家庭防犯員など、必要な方たちとの共有化を図ることが必要です。
- 第一優先、第二優先、第三優先とランク分けを行い、災害時に確実に寄り添える備えをしています。
- 「手を上げ」たとしても個人情報なので、不用意な情報開示はせず、適切な管理を行っていきます。

次のような課題報告もありました。

- 回収率の低さが課題と認識しています。前回提出しているにもかかわらず、今回未提出という世帯もあり、民生委員・児童委員に状況確認をお願いしました。
- 周知方法について反省点があると思います。今回は回覧で提出を依頼しましたが、個別訪問をする必要があったかもしれないと感じています。

区から「災害時要援護者名簿」の提供を受けて(民生委員・児童委員協議会より)

- 「情報共有方式」に基づき、区役所からの名簿の提供を希望しないと意思表示した方々以外を「災害時要援護者」として登録し、12月にマップ化して更なる情報の把握に努めています。
- 名簿提供を尋ねる区役所の通知から民生委員の訪問までの期間が空いており、通知の記憶が薄れているケースがあるため、情報の把握に伴う訪問に際しては丁寧な説明を心がけていきたい。

② 「山下ネットワークサロン」の充実

- サロン数は 16か所となり、地区内にすっかり根付いてきました。
- 赤ちゃんサロン「ハイハイオカピ」では、「少しの時間でも良いから参加したい!」との声があり、活動を継続する意思が固まったという温かいエピソードも披露されました。
- 「オレオレ詐欺」の情報交換がなされ、注意喚起の場としても活用されています。
- 「Mr.クッキング」に参加している方々の料理の腕がめきめきと上がっている! など
・・・どのサロンも、個性がどんどん豊かになってきたようです。

次年度も、全サロンが活動を継続します。皆さまぜひご参加ください!!
サロンに関するお問い合わせは、山下地域交流センター／ふじ寿が園へ。



【平成30年度 山下地区別計画推進委員 平成31年1月18日現在】(50音順 敬称略)

安部智恵、荒谷孝道、井上和子、小熊富美、落合秀行、片吉虎之助、小嶋賢治、小柳新一、五島忠八、
○篠崎 慧、濫井まどか、菅沼繁晴、鈴木哲生、田中大成、谷井春夫、仲原富士夫、中村忠治、成島昭吾、
濱野健次、平山千恵子、福嶋信秀、堀内倭文子、中村逸子、宮田文夫、吉浜行彦 (○印：委員長、□印：新任)

<連絡先> 山下地区別計画推進委員会事務局 TEL：930-2260 (緑区税務課内)

新治西部地区

新治西部地区別計画推進委員会

地域

新治町、十日市場町、長津田みなみ台6・7丁目の一部 (十日市場団地地区を除く)

緑区の西北に位置し、地区の北側は恩田川を境に青葉区に隣接しており、新治町、十日市場町（十日市場団地地区を除く）、長津田みなみ台6丁目の一部（十日市場町自治会）、長津田みなみ台7丁目の一部（後谷地区）で連合自治会を形成しています。

十日市場駅南側を中心に、公共施設、商業施設、医療機関やマンションなどの集合住宅を中心とした住宅が密集している一方、横浜線北側や新治町には農地や新治市民の森などの緑地も多く残されています。

<主な関連施設>

最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）

震災時避難場所（地域防災拠点）：新治小学校、十日市場小学校

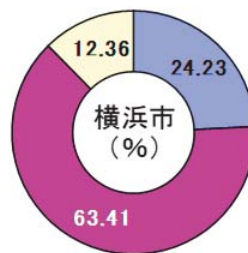
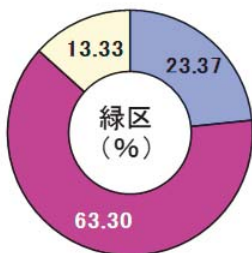
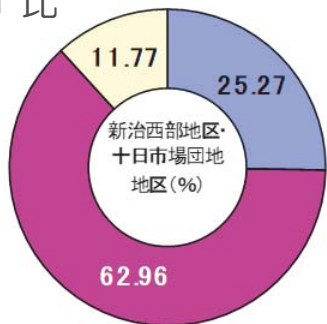
地域ケアプラザ等：横浜市十日市場地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

人口比

平成30年(2018年)9月末

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15~64歳) □年少人口比率(0~14歳)



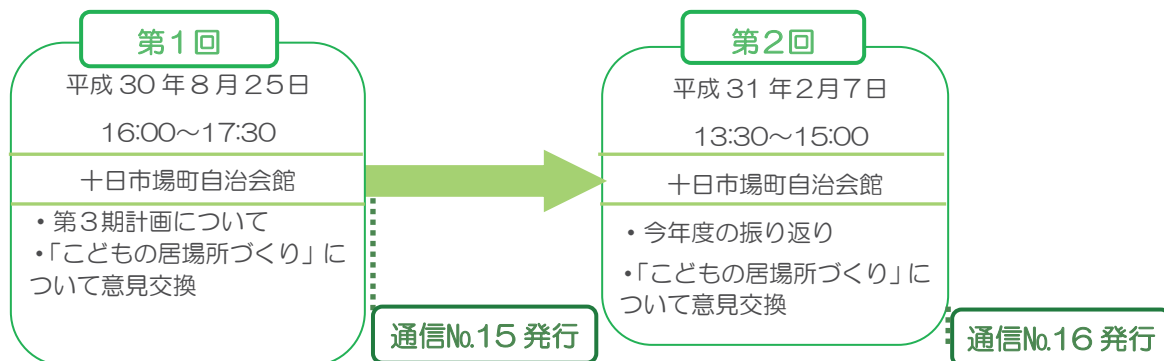
75歳~	2,749人
65~74歳	2,126人
15~64歳	12,149人
6~14歳	1,466人
0~5歳	805人
合計	19,295人

75歳~	20,959人
65~74歳	21,270人
15~64歳	114,390人
6~14歳	15,061人
0~5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳~	454,366人
65~74歳	452,709人
15~64歳	2,374,255人
6~14歳	285,140人
0~5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

注) 上記の人口データには、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。



緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



新治西部地区



地域での「つながり」を深め
顔の見える元気の街を目指して！

新治西部地区では、様々な世代が集い、知り合うきっかけづくりに取り組んでいます。

4回の検討委員会を経て、ついに始動！
「こども村」がオープンしました！！



十日市場団地地区と合同で検討を続けていた、「こどもの居場所」が、十日市場地域ケアプラザで12月にオープン。多世代参加・交流型の居場所としてこどもの居場所づくりだけに留まらず、地域住民の交流の場として検討・整備を続けます。近年、子どもに関する“子どもの生活力低下”“朝食を食べていない児童”“こども食堂”などの話題も多く、地域でも関心が高まってきているところでした。

そのような中で、“子ども”を焦点に、地域の関係者が参加する『十日市場駅周辺「こどもの居場所づくり」検討委員会』が立ち上がり、委員会での検討を経て、ついに12月1日にオープニングを迎えました。当日は十日市場地域ケアプラザを会場とし、こどもが40名超、大人が保護者や関係者等で40名超と大賑わいでした！



(写真：「こども村」の様子)

「農」の取組を通じて、地域でのつながりづくりや
子どもから高齢者までの交流を進めています！

十日市場の『いちば』は、夏と冬の年2回開催し、毎回出品した農産物が完売するなど、他地区からも人が訪れるなど、大変盛況でした。また、小学校での「農業体験」や「後谷菜園」の取組など、農地や空き地を活用し、地域をつながりづくりに取り組んでいます。



(写真：「いちば」の様子)

これからも様々なイベントや世代を超えた交流を通じて、
みんなの顔が見える、元気の街になるような取組を進めます！

新治西部地区別計画推進委員会



新治西部地区 地区別計画推進委員会
平成30年10月発行 第3期 No.5 (通算 No.15)



新治西部地区 地区別計画推進委員会 通信

第1回 みどりのわ・ささえ愛プラン 新治西部地区別計画推進委員会を開催しました！



平成30年8月25日(土)に、十日市場町自治会館において「平成30年度 第1回 みどりのわ・ささえ愛プラン 新治西部地区 地区別計画推進委員会」を開催しました。

当日は、田中委員長のあいさつではじまり、十日市場団地地区と連携し、地区別計画推進委員会の専門委員会として立ち上げされた『十日市場駅周辺「こどもの居場所づくり」検討委員会』の概要について報告がなされた後、「こどもの居場所づくりについて」をテーマに、全員でグループワークを行いました。この通信では、その内容の一部をご紹介します！

「こどもの居場所づくり」検討委員会が立ち上がりました！！

“こども”を焦点に、十日市場団地地区とも連携して、両地区で支援に関わる関係者が会する協議体を作っていくという動きが始まり、この度『十日市場駅周辺「こどもの居場所づくり」検討委員会』が立ち上がりました。

●十日市場駅周辺「こどもの居場所づくり」検討委員会（協議体）のイメージ

メンバー

小・中学校を含む両地区の委員会委員(代表)に加え、地域で子どもの支援に関わる関係者、エリア内の公的機関等の代表者等で構成



本委員会では地域特性を生かした“多世代参加・交流型”の「こどもの居場所」の設置を目指しています。まずは、身近な地域福祉保健の交流拠点である「十日市場地域ケアプラザ」を活用した月数回実施する“居場所”を第一候補としながら、担い手・回数・サービスなど、今後、具体的な検討を進めていきます。



十日市場小学校 佐々木教諭より、教職員向けに行った「こどもの居場所づくり」に関するアンケート結果の報告がありました！！

- 学習と昔遊びをこども達に提供をしてくれる場があったら良い。
- 大学生や地域の方に囲碁や将棋、学習をサポートしてもらい交流する場にもなれば良い。
- 登下校時の見守り、自転車の運転ルールやゲームセンターでの見守り強化。
- 地域のみんなで地域のこどもを育てていく、その意識が大切。
- こども達が地域の人と一緒に清掃活動に参加することも役割を担っていくことになる。



「こどもの居場所づくり」をテーマとした話し合いで出された意見の一部をご紹介します。



・こどもと高齢者が一緒に取り組める場を作るのが一番良いのではないかな。高齢者が戦争の体験談を話してもらったり、折り紙が上手な人に教えてもらったり、高齢者が得意なことをこどもたちに教える場所があればよい。

- ・新しい居場所を立ち上げることは簡単だが、担い手の負担、続けていくことの大変さを考えると、いまある行事を再認識、活用していくことが大事だと考える。
- ・大人同士のつきあいがうまく出来るようになると、こどももそれに付随してくるのではないかな。大人が孤立すると、こどもも孤立する。
- ・今は顔を知らない大人が挨拶しても、こども達が返事をしないこともある。顔と名前を知ってもらい、挨拶が出来る関係になることから関係作りを始めたい。
- ・居場所には「物理的な居場所」、「精神的な居場所」と2つある。昔は親族が近くに多くいたため、相談相手がたくさんいた。今は気軽に話せる信頼出来る人を作るのも大変。日常的に高齢者とこどもが関わって、相談できる、昔の話を聞けるような場所ができることが理想。

最後に、田中委員長からは、

「今ある行事を再認識し、参加してもらうことは基本だが、中学生には行事を手伝ってもらうことも重要。同学年だけではなく、年長、年少者と違う学年のこども立ちが交流していくことが大事。

「こどもの居場所＝こどもと親が自由に集まれる場所」という発想も良い。これからも議論を重ね、具体的に考えていきたい」とまとめられました。



【平成30年度新治西部地区 地区別計画推進委員会】

推進委員会メンバーは、連合自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、地区保健活動推進委員会、消防団、老人会、スポーツ推進委員、青少年指導員、防犯部、十日市場中学校、十日市場小学校、新治小学校などから構成されています。

<連絡先>

新治西部地区 地区別計画推進委員会事務局
緑区区政推進課 (TEL) 930-2218



新治西部地区 地区別計画推進委員会
平成31年2月発行 第3期No.6 (通算No.16)

新治西部地区 地区別計画推進委員会 通信



第2回 みどりのわ・ささえ愛プラン 新治西部地区別計画推進委員会を開催しました！



平成31年2月7日(木)に、十日市場町自治会館において「平成30年度 第2回 みどりのわ・ささえ愛プラン 新治西部地区 地区別計画推進委員会」を開催しました。

当日は、第1回地区別計画推進委員会の振り返りや様々な地域での取組を共有するとともに、新治西部地区の地区別計画に掲げた目標「地域の中での孤立化をなくし、みんなの顔が見える環境を目指します」の推進に向け、昨年12月に十日市場団地地区と共に立ち上げた「こども村」のこれまでの取組報告を受け、「こどもの居場所づくり」の今後について参加者全員で話し合いを行いました。この通信では、その内容の一部をご紹介します！

地域における3つの活動紹介がありました！

1

十日市場の「いちぼ(冬)」の開催について

11月24日と12月1日、8日に「いちぼ」を開催！今回も大繁盛で野菜や米が1時間でほぼ完売となりました。農家では当たり前にある野菜も、売りに出すと「めずらしい」といってくれるものもあり、運営側にも新しい発見がありました。



▲ 当日の様子

2

「にいほる里山秋祭り」の開催について

11月18日、「にいほる里山秋祭り」を開催。前回より参加は4団体増えています。コンサートやボランティアによる和太鼓、ボーイスカウトによるボルダリング、コースターづくり、玉こんにゃくの販売など様々な模擬店が出て、とても盛会となりました。

3

「後谷町民のつどい」の開催について

11月24日に初開催となる「後谷町民のつどい」を開催しました。長寿会の協力も得て、沢山の豚汁を事前に準備したが、茶飯も含めてすべて売り切れるぐらいに多くの人が参加してくれました。会場は大変盛況で、こんなにも大勢の人が集える場を開催できたことは本当によかったと感じています。

この後、十日市場地域ケアプラザで開催されている「こども村」の取組が報告され、前回の地区別計画推進委員会でも議論した「こどもの居場所づくり」について改めて考えるため、参加者全員で話し合いました。

裏面へつづく



話し合いで出されたご意見の一部をご紹介します



- 話が出てから半年あまりで実現に至る地域の力はすごいと感じています。子どもの居場所だけでなく、大人の居場所にもなって、世代間のふれあいの場になると感じました。学校でも、子供たちに宣伝していきたい。
- 中学生はボランティアとしても協力できると思います。ここで育った子が、後々スタッフとして戻ってくるなど、長い目で広がりを見据えて展開していくことを願っています。
- 12月に参加しましたが、子供たちが輝いている姿が印象的でした。必要があれば声をかけるが見守っている姿勢で、これからも長く取組を続けていきたいと思います。
- 最初としては予想外に多くの方が来てくれたという思いです。やっていくうちに色々な課題も出てくるが、ひとつずつ解決していきたい。
- 子どもを取り巻く環境は複雑化しており、地域のつながりも昔より希薄化しています。居場所をつくることのみが、答えかは分かりませんが、参加した子どもが生き生きしているので、そうした安心できる居場所の必要性を感じています。大人とのつながりもよい影響を与えていると思います。
- 地域には様々な分野の専門家もいるため、各自の得意なことを生かしてボランティアできるとよいと感じました。
- 色々な行事の中で、興味のある子に対応できる大人がいるとよいと思います。登録制度でボランティアを募集してみたらどうでしょうか。子どもの居場所が月2回しかないのは、いつ悩みが生じるか分からない中で少ないので、居場所以外に困ったら相談できる場所が日常的にあるとよいと感じました。
- 困ったらまず地域ケアプラザへ足を運んでもらえればと思います。地域ケアプラザは高齢者が多いイメージの施設だが、今回の取り組みで子供がケアプラザに来ることで高齢者も笑顔になれ、地域に開かれた良い施設になりつつあると感じています。



最後に、田中委員長から、「短い準備期間ではあったが、「こども村」の取組がスタートできてよかった。世間では児童虐待関係のニュースが日々報道されていますが、地域においても常に相談に乗ってくれる人や場所があることが大事だと考えています。今後も皆様の協力を得ながら、より一層有意義な取組にしていきたいと思えます。」とまとめられました。



←プランの情報は動画でも紹介中です。



▲ 田中委員長

新治西部地区 地区別計画 2つの目標

- ☆地域の中での孤立化をなくし、みんなの顔の見える環境を目指します。
- ☆地域情報を多くの人に届けるため自治会加入を促進します。

【平成30年度 新治西部地区 地区別計画推進委員会】

- 推進委員会メンバーは、連合自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、地区保健活動推進委員会、消防団、老人会、スポーツ推進委員、青少年指導員、防犯部、十日市場中学校、十日市場小学校、新治小学校などから構成されています。

<連絡先>

新治西部地区 地区別計画推進委員会事務局
緑区市政推進課 (TEL) 930-2218

十日市場団地地区

十日市場団地地区別計画推進委員会

地域 十日市場町（十日市場団地地区）

昭和34年から39年にかけて建てられた市営十日市場住宅を中心とした地区です。建物の老朽化に伴い、十日市場ヒルトンとして平成3年から全面的な建替えを実施し、高層化により人口も増加しました。ヒルトンの名称のとおり、丘陵状の地形に計画的に整備されています。

また、「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の取組の一つとして、民間活力の導入や市有地の有効活用等について検討されています。

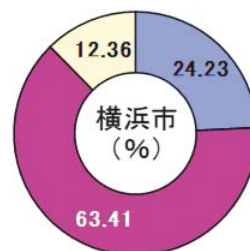
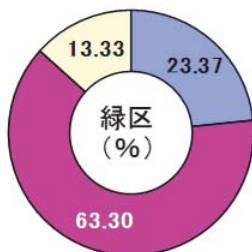
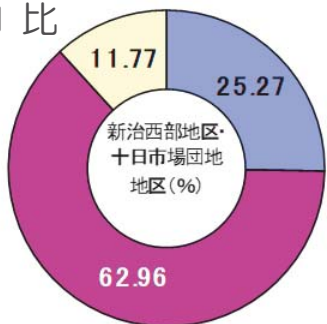
<主な関連施設>

- 最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）
- 震災時避難場所（地域防災拠点）：十日市場中学校
- 地域ケアプラザ等：横浜市十日市場地域ケアプラザ

<年齢区分別人口> 人口比

平成30年(2018年)9月末

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15~64歳) □年少人口比率(0~14歳)



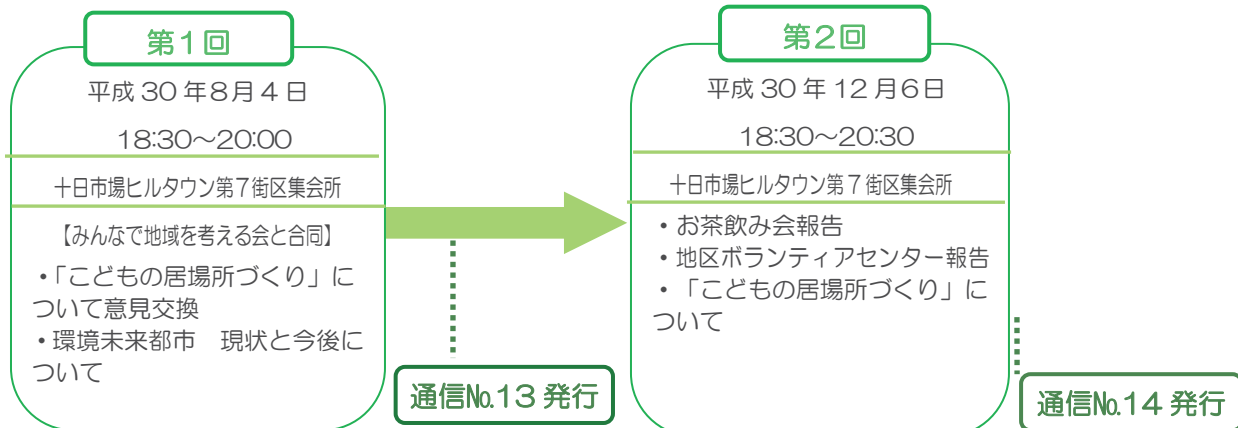
75歳~	2,749人
65~74歳	2,126人
15~64歳	12,149人
6~14歳	1,466人
0~5歳	805人
合計	19,295人

75歳~	20,959人
65~74歳	21,270人
15~64歳	114,390人
6~14歳	15,061人
0~5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳~	454,366人
65~74歳	452,709人
15~64歳	2,374,255人
6~14歳	285,140人
0~5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進策定委員会の開催

注) 上記の人口データには、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。



緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



十日市場団地地区



**地域が団結していつまでも支えあえる
十日市場団地を目指します！**

十日市場団地地区では、『いつまでも支えあえる十日市場団地』を目指してまちづくりに取り組んでいます。

**「十日市場団地 お茶飲み会」
が6周年を迎えました！**



平成30年12月に6周年を迎えた「十日市場団地お茶飲み会」は、『一人ぼっちにさせない』を合言葉に、毎月開催しています。8月・12月には、近隣保育園の園児も歌や踊りを披露し、多世代交流の場にもなっている憩いの会です。



(写真：「お茶飲み会」の様子)



(「お茶飲み会」の貼り紙)

こどもの居場所「こども村」オープン！

新治西部地区と合同で検討を続けていた、「こどもの居場所」が、十日市場地域ケアプラザで12月にオープン。多世代参加・交流型の居場所としてこどもの居場所づくりだけに留まらず、地域住民の交流の場として検討・整備を続けます。近年、子どもに関する“子どもの生活力低下”“朝食を食べていない児童”“こども食堂”などの話題も多く、地域でも関心が高まってきているところでした。

そのような中で、“子ども”を焦点に、地域の関係者が参加する『十日市場駅周辺「こどもの居場所づくり」検討委員会』が立ち上がり、委員会での検討を経て、ついに12月1日にオープニングを迎えました。当日は十日市場地域ケアプラザを会場とし、こどもが40名超、大人が保護者や関係者等で40名超と大賑わいでした！



これからも団結して地域の「つながり」を作っていきます！

十日市場団地地区別計画推進委員会

十日市場団地地区別計画推進委員会
平成30年10月発行 第3期 No.6 (通算No.15)



十日市場団地 地区別計画推進委員会通信



平成30年8月4日(土)十日市場ヒルタウン第7街区集会所において「平成30年度第1回みどりのわ・ささえ愛プラン十日市場団地地区別計画推進委員会」を開催しました。なお今回は、「みんなで地域を考える会」との合同開催となりました。

当日は、橋川委員長のあいさつで始まり、平成28年度から始まった第3期みどりのわ・ささえ愛プランの概要についてあらためて確認しました。そして、十日市場団地地区地区別計画の推進に向けて「子どもたちの見守りの充実」を題材に、4つのグループに分かれて話し合いを行いました。



みどりのわ・ささえ愛プランとは・・・



誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題の解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む、緑区の『地域福祉保健計画』です。



←プランの情報は動画でも紹介中。「みどりのわ 動画」で検索。

第3期 十日市場団地地区 地区別計画

- 目標1：地域が団結して、「つながり」を作り あらゆる世代の交流を広げよう
- 目標2：連携して、「見守り」を進め いつまでも支えあえる地域を目指そう
- 目標3：健康や交流を意識した取組を進め 地域をもっと元気にしよう

【平成30年度 十日市場団地地区別計画推進委員】

○推進委員会メンバーは、民生委員児童委員協議会、連合自治会、保護司会、地区社会福祉協議会、地区老人クラブ連合会、更生保護女性会、環境事業推進委員会、消費生活推進員、十日市場中学校、十日市場小学校 などから構成されています。

★橋川茂子、宮本増穂、百武節代、相田泰喜、古田三郎、川村武子、羽鳥節子、石川多美、大村律子、長崎清美、山内ユミ子、尾崎敏明、堀川智子、鈴木雄二、塙高子、田中正人、笠原紀代子、平良美枝子、古屋紀美代、川隅やす子、金谷エイ子、池袋タツ、白田邦彦、平井仁女、山口等、栗原保恵、本田富男、八木範夫、大木巧、三好真理子、白石武、能登富士子
(敬称略、順不同、★：委員長)

※ 今回は「みんなで地域を考える会」と合同開催のため、単位自治会長・ボランティアセンター関係者の皆さまにもご出席いただきました！

★★ 裏面では、委員会での意見交換の内容についてご紹介いたします！ ★★

★探しています！★

十日市場団地連合自治会の機関紙「住連通信」が、平成29年9月号で500号を迎えました！地域の歴史を知るために貴重な資料ですが、バックナンバーの多くが欠けてしまっています。平成3年3月(No.185)以前の「通信」を保存されている方がいたら、裏面の〈連絡先〉までご連絡ください！

3つの取組の紹介と十日市場小学校 大木校長先生より、教職員向けに行った「こどもの居場所づくり」に関するアンケート結果の報告がありました！

1 お茶飲み会の現状と課題～もっと世代間交流につなげたい 橋川委員長

お茶飲み会も今年の12月で6周年を迎えます。参加者・スタッフ共に楽しんで開催しています。今後は活動の幅を広げ、世代交流の場、こどもの居場所としても活用していきたいと考えています。開催日についても、より幅広い層を取り込むために、9月と10月は試行的に土曜日開催を実施します。



橋川委員長

2 こどもの居場所づくり

十日市場地域ケアプラザ 樋口 地域活動交流コーディネーター

十日市場団地地区・新治西部地区で子どもの支援に関わる関係者が会する協議体として設立された、十日市場駅周辺「こどもの居場所づくり」検討委員会について説明がありました。地域特性を活かした、“多世代参加・交流型”の「こどもの居場所」の設置を目指します。

3 持続可能な住宅地推進プロジェクトについて 建築局住宅再生化粕谷係長

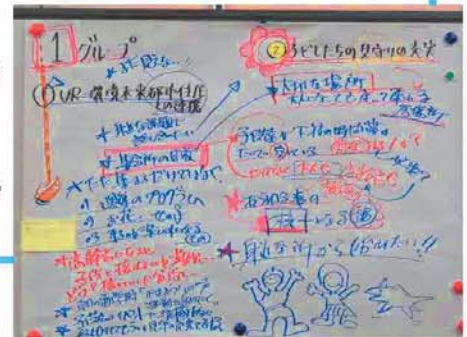
開発の進む20～22街区について進捗等を報告。持続可能な魅力あるまちづくりを目指す取り組みについて説明がありました。周辺の自治会町内会や企業、行政と協力しながら世代間交流や地域交流を図りたいとのことでした。

意見交換で出た意見の一部をご紹介します！



～『こどもの居場所づくり』をテーマに、多くの意見が出されました～

- ・大人でも挨拶する人が減っている。こどもの手本であるべき大人の意識を変えないといけな
いと感じている。身近なところから始めたい！
- ・各自治会の子供会を充実させるために、老人会と合同で開催してはどうか。
- ・子どもが学校から帰る時間から、親が仕事から帰る時間まで、子どもが安心して過ごせる場
所を作ってはどうか。団地の集会場で将棋等ができるようになれば、ゲームセンターに行く
子どもが減るだろうし、地域住民と交流ができる場にもなる。勉強を教える場になればより良いのではないか。
- ・夜間に見かける等、気になる子どもについてもまずは挨拶
から始めたい。挨拶から徐々に良い関係を築きたい。
- ・子どもは叱るだけでなく、優しい関係になることも大事。
また、気になる子については学校に連絡してみるのもいい。
- ・地域全体で子どもを見守りたい。



みんなで力を合わせて
いつでも支えあえる十日市場団地
を目指しましょう！

次回の委員会は
平成30年12月頃開催予定です！



<連絡先>

十日市場団地地区別計画推進委員会
事務局 緑区子ども家庭支援課内
TEL：930-2332



十日市場団地地区別計画推進委員会
平成31年2月発行 第3期No.6 (通算No.16)



十日市場団地 地区別計画推進委員会通信

平成30年12月6日(木)十日市場ヒルトウン第7街区集会所において「平成30年度第2回みどりのわ・ささえ愛プラン十日市場団地地区別計画推進委員会」を開催しました。当日は、橋川委員長のあいさつで始まり、平成28年度から始まった第3期みどりのわ・ささえ愛プランの概要について改めて確認しました。そして、十日市場団地地区地区別計画の推進に向けて「こどもの居場所づくり」をテーマに、4つのグループに分かれて話し合いを行いました。



みどりのわ・ささえ愛プランとは・・・



誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題の解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む、緑区の『地域福祉保健計画』です。



第3期 十日市場団地地区 地区別計画

- 目標1：地域が団結して、「つながり」を作り あらゆる世代の交流を広げよう
- 目標2：連携して、「見守り」を進め いつまでも支えあえる地域を目指そう
- 目標3：健康や交流を意識した取組を進め 地域をもっと元気にしよう

【平成30年度 十日市場団地地区別計画推進委員】

○推進委員会メンバーは、民生委員児童委員協議会、連合自治会、保護司会、地区社会福祉協議会、地区老人クラブ連合会、更生保護女性会、環境事業推進委員会、消費生活推進員、十日市場中学校、十日市場小学校 などから構成されています。

★橋川茂子、宮本増穂、百武節代、相田泰喜、古田三郎、川村武子、羽鳥節子、石川多美、大村律子、長崎清美、山内ユミ子、尾崎敬明、堀川智子、鈴木雄二、埴高子、田中正人、笠原紀代子、平良美枝子、古屋紀美代、川隅やす子、金谷エイ子、池袋タツ、白田邦彦、平井仁女、山口等、栗原保恵、本田富男、八木範夫、大木巧、三好眞理子、白石武、能登富士子
(敬称略、順不同、★：委員長)

☆☆ 裏面では、委員会での意見交換の内容についてご紹介いたします！ ☆☆

★探しています！★

十日市場団地連合自治会の機関紙「住連通信」が、平成29年9月号で500号を迎えました！地域の歴史を知るために貴重な資料ですが、バックナンバーの多くが欠けてしまっています。平成3年3月(No.185)以前の「通信」を保存されている方がいたら、裏面の〈連絡先〉までご連絡ください！

3つの取組報告・紹介がありました！

1

お茶飲み会の現状について 橋川委員長

9月10月は試行的に土曜開催としたが、予想より集客できた。一方で小学生の集客は期待した程ではなかったため、子供会を通じて広報する等の工夫が必要と感じました。昨年ののぼり旗に加え、今年は案内ポスターを新調しました。お茶飲み会は6周年を迎えました。少なくとも30名の参加があり、参加者・スタッフ共に楽しんで開催しています。

2

地区ボランティアセンターの近況について 橋川委員長

4人世話役がいて、交代で電話で相談を受けています。内容はスマホの操作方法から掃除の相談までいろいろです。高齢者のニーズ把握にも一役買っています。

「こども村」の様子▶



3

こどもの居場所づくりについて 健康福祉局生活支援課 東海係長

以前から検討を続けていたこどもの居場所づくりについて、12月1日にオープニングイベントを開催し、名称も「こども村」に決定しました。沢山のこどもが来場し、評判も上々でした。当日の様子はタウンニュースにも掲載されました。今後は更に地域に根差した、多世代参加・交流型のこどもの居場所とするべく、検討を続けます。

意見交換で出た意見の一部をご紹介します！



～『こどもの居場所づくり』をテーマに、多くの意見が出されました～

- ・あやとり、編み物の名人を募集して、名人バンクを設立し、こどもたちに教えるようにしたら、お年寄りもやる気がでて、認知症予防にもなるのではないかな。
- ・中学生が小学生に勉強を教える場を作ってはどうか。中学生側も教えることで勉強になるし、自信もつくのではないかな。
- ・ボランティアへは少額でもいいので謝礼があった方が良い。
- ・こども村内で使える通貨を作ってはどうか。手伝い等をする毎に通貨で謝礼を支払い、駄菓子等に交換できる仕組みを作れば、こどもも積極的に手伝いに参加できる。
- ・ゲームにも工夫が必要。花札はルールが分かる子がいない。百人一首は中学生になると大会があるので、練習が出来ていいかもしれない。UNO等こどもなら誰でも知っている遊びと、メンコ等のように簡単で昔からある遊びの両方があると良い。
- ・定着させるなら、実施回数を増やすと良いのでは。



▲委員会の様子

みんなで力を合わせて

いつでも支えあえる十日市場団地

を目指しましょう！



<連絡先>

十日市場団地地区別計画推進委員会
事務局 緑区こども家庭支援課内
TEL：930-2332

霧が丘地区

霧が丘地区別計画推進委員会

地域 霧が丘1～6丁目

緑区の西方に位置し、地区の南側は旭区に隣接しています。昭和54年から日本住宅公団（現在の霧が丘グリーンタウン）の入居が始まり、昭和56年に十日市場町から区域変更された比較的新しい街です。

街路樹、歩行者専用道路など（通称「赤道」、計画的に整備されていることが特徴的で、緑豊かな公園が点在し、恵まれた自然環境は南側に隣接する新治市民の森に続いています。

平成20年に横浜市初の小学校跡の建物を活用した複合施設「霧の里」が開所し、住民の活動の場として定着してきています。

<主な関連施設>

最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）

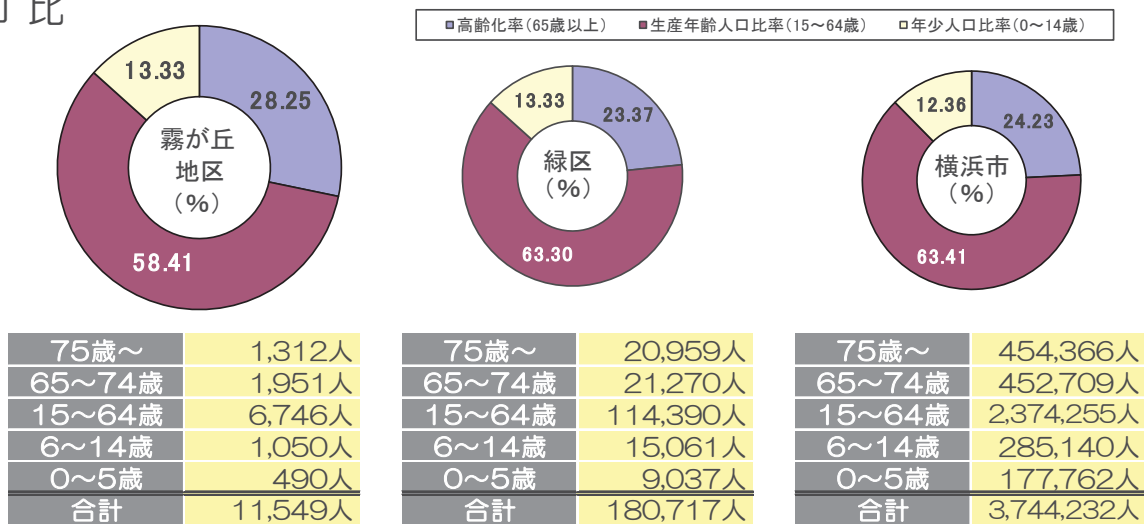
震災時避難場所（地域防災拠点）：霧が丘小学校（旧霧が丘第二小学校）、霧の里（旧霧が丘第三小学校）

地域ケアプラザ等：横浜市霧が丘地域ケアプラザ

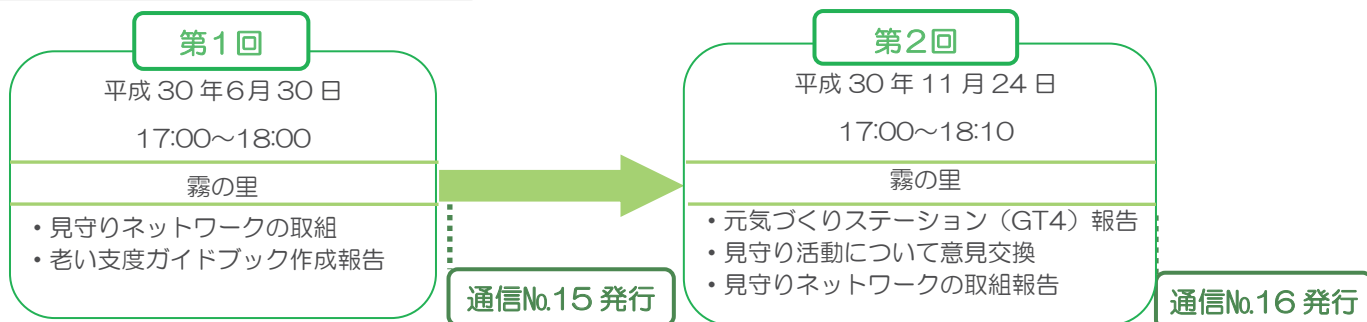
<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比



地区別計画推進委員会の開催状況



緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



霧が丘地区



誰もが安心して暮らしていくために
～地域で見守り・ささえあい～

活動5年目を迎えた『霧が丘見守りネットワーク』は、「みんなで支え合い・助け合いながら安心して暮らせる街をつくりたい!」と願いながら活動を続けています。見守りだけではなく、防犯パトロールや美化活動も併せて行うこともあります。



(左：見守り確認カード、右：見守り活動の様子)

この活動により、近隣に顔見知りが増えて「まちとも（町友）」の輪が広がったり、歩くことにより健康増進につながります。

元気づくりステーション

地域の中で高齢者の健康づくりを進める自主活動グループである「元気づくりステーション」。6丁目（GT2）と4丁目（GT4）で元気に活動しています。

参加することで身近な地域の中で顔見知りが増え、健康や介護についての相談が気軽にできます。

さらに、活動が広がることで、仲間同士の助け合いから見守りにつながっています。



(写真：GT4 活動の様子)

防犯・防災・教育 **日本一** の街 霧が丘を目指して…

霧が丘地区では、盆踊り大会や大運動会、どんど焼き、防災訓練など、子どもから大人まで参加できる行事や、異文化を学び、国際感覚を身に付けることを目的とした中学生のベトナム・カンボジア派遣などを行い、地域でのつながりを大切にするまちづくりに取り組んでいます。

なお、今年は緑区制50周年を記念して、中学生等をインドに派遣します。

霧が丘地区別計画推進委員会



霧が丘地区別計画推進委員会
平成30年9月発行 第3期—第5号 (通算第15号)



霧が丘地区別計画推進委員会通信

平成30年度第1回霧が丘地区別計画推進委員会を開催しました！

平成30年6月30日(土)17時から、「平成30年度第1回みどりのわ・ささえ愛プラン霧が丘地区別計画推進委員会」を霧の里で開催しました。29年度の取組状況を振り返るとともに、30年度の取組について意見交換を行いました。

委員会での主な意見をご紹介します。



第1回霧が丘地区別計画推進委員会の様子



「みどりのわ・ささえ愛プラン霧が丘地区別計画」とは

「みどりのわ・ささえ愛プラン」(第3期計画：平成28年度～32年度)は、誰もが安心して暮らし続けられる緑区を目指して策定された、社会福祉法に基づく計画です。本プランは「区域計画」と、区内11地区の実情を踏まえて策定された「地区別計画」から構成されます。「霧が丘地区別計画」では、今まで行われてきた取組を継続し、よりよいものに発展させていくため、3つの目標掲げて取組を進めています。

- 【目標1】 「地域でのつながり」を大切にするまちづくり
- 【目標2】 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり
- 【目標3】 「安心・安全・健康」のまちづくり



霧が丘地区別計画推進委員会とは

連合自治会の役員、民生委員・児童委員、保健活動推進員などの33人のメンバーで構成されています。「みどりのわ・ささえ愛プラン霧が丘地区別計画」(第3期計画)の推進に向け、地域の取組状況の共有や、目標達成のための具体的取組の検討等をおこなっていくための委員会です。

29年度から、見守り活動を充実させるため、委員会のメンバーが7人増え、33人になりました。委員会では、霧が丘をよりよいまちにしていこうと、活発な意見交換が行われました。

裏面で、委員会での意見交換の内容と関連する取組についてをご紹介します。



委員会での意見交換の内容と 関連する取組についてご紹介します

見守りネットワークの取組について

～誰もが安心して暮らしていくために、
地域みんなで支え合い・助けあいの輪を広げたい！～

平成26年から活動している「霧が丘見守りネットワーク」も5年目を迎えました。今後も活動を継続するために、これまでの取組を振り返り、新たな課題等について意見交換を行いました。

見守りネットワーク
だよりでも活動報告



【主な意見等】

- 地区によっては毎日パトロールを実施しています。また、連合パトロールでは高齢者が詐欺被害に遭わないように、年金振込日などに重点的に行っています。
- 見守り活動を実際にやってみると、外部から状況を見ることだけでよいのかな、と思うことがあります。場合によっては、直接お会いしてお話する機会を持つことも必要かな、と思っています。
- 不安になったときに自分たちも地域で見守ってもらえたらうれしいな、と思って始めました。なかなかパトロールの担い手が増えていかない中、個別に声かけ等をしてお願いしたところ、少しずつではあるものの、新たに参加してくれる人が増えてきました。
- 無理のない範囲で若い人ともつながりを深められると自治会活動も広がっていくのでは。



より安心して暮らせる街を願い、パトロール隊の一員として見守り活動に参加してもらえる仲間を増やしたいので、ご理解とご協力をよろしくお願いします！

若い支度ガイドブックについて

霧が丘地域ケアプラザ
ホームページもご覧ください



★霧が丘若い支度ガイドブック

「明日からのライフデザイン」ができました！★ <http://www.kirigaoka-careplaza.com/>

霧が丘地域ケアプラザより発行の報告がありました。

この冊子は年代別に説明しており、それぞれの関心事から読み進められるようにしてあります。

今後、若い支度に関する講座を開催しますので、ぜひ参加してください！

若い支度に関する
講座の参加者向け
に配布予定です



【作成・発行にあたって】

- 事前に行った住民アンケートによると、認知症、介護予防などに関心が高いことがわかりました。
- 地域での支え合いの仕組みがあっても、自分にはまだ必要がないと考えている高齢者もいました。
- 地域の人、ひとりひとりで備えをして、つながりを作っていくきっかけになればいいと思います。

〈連絡先〉霧が丘地区別計画推進委員会事務局 Tel: 930-2307 (緑区高齢・障害支援課)



霧が丘地区別計画推進委員会
平成31年1月発行 第3期—第6号（通算第16号）



霧が丘地区別計画推進委員会通信

平成30年度第2回霧が丘地区別計画推進委員会を開催しました！

▼第2回霧が丘地区別計画推進委員会の様子

平成30年11月24日（土）17時から、「平成30年度第2回みどりのわ・ささえ愛プラン霧が丘地区別計画推進委員会」を霧の里で開催しました。

前回の振り返りや、30年度の取組についての報告や意見交換を行いました。委員会での主な意見をご紹介します。



塚田委員長▶



「みどりのわ・ささえ愛プラン霧が丘地区別計画」とは

「みどりのわ・ささえ愛プラン」（第3期計画：平成28年度～32年度）は、誰もが安心して暮らし続けられる緑区を目指して策定された、社会福祉法に基づく計画です。本プランは「区域計画」と、区内11地区の実情を踏まえて策定された「地区別計画」から構成されます。「霧が丘地区別計画」では、今まで行われてきた取組を継続し、よりよいものに発展させていくため、3つの目標を掲げて取組を進めています。

- 【目標1】 「地域でのつながり」を大切にすまちづくり
- 【目標2】 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり
- 【目標3】 「安心・安全・健康」のまちづくり



霧が丘地区別計画推進委員会とは

連合自治会の役員、民生委員・児童委員、保健活動推進員などの33人のメンバーで構成されています。「みどりのわ・ささえ愛プラン霧が丘地区別計画」（第3期計画）の推進に向け、地域の取組状況の共有や、目標達成のための具体的取組の検討等をおこなっていくための委員会です。

33人の委員会のメンバーが集まり、霧が丘をよりよいまちにしていこうと、それぞれの立場を代表して活発な意見交換が行われました。

裏面で、委員会での意見交換の内容と関連する取組についてご紹介します。



委員会での意見交換の内容と 関連する取組についてご紹介します

元気づくりステーションについて

～「きりともGT4元気づくりステーション」がスタートしました！～

身近な地域で、介護予防・健康づくりに向けて取組むシニアの自主的な活動です。

参加することで、身近な地域の中で顔見知りが増え、健康や介護についての相談が気軽にできます。さらに、活動が広がることで、仲間同士の助け合いで見守りにつながっています。

今回の委員会において、霧が丘地区の現状報告及び今年度の取組について意見交換しましたので、ご紹介します。

【現状及び主な意見等】

- 霧が丘地区の高齢化率は28.3%。
- 霧が丘地区の単独世帯数と高齢者単独世帯数は増加している。また、3世代同居世帯割合は緑区全体で減少している。今後「孤立死」の危険性がある。
- 元気づくりステーション参加者は女性が多く、全体の2/3を占めている。男性の参加者がもっと増えるといい。
- GT4は第2・4水曜日に開催中。参加者は15人程度。講師による脳トレ体操やストレッチ・筋力アップ体操を実施している。昨年度からGT2で始めた元気づくりステーション「きりとも」では、現在毎週火曜日に実施、イベントを企画して参加者が増えている。



◀▼きりともGT4
元気づくりステーション



地域のまちとも同士、楽しく活動しています。みなさんお誘い合わせの上、ご参加ください！！



エンディングノート「Eノート」

霧が丘地域ケアプラザの
ホームページもご覧ください

★E（エンディング）ノートができました！★

霧が丘地域ケアプラザより発行の報告がありました。

今年度4月に発行した「明日からのライフデザイン」

をもとに、自身の思いを書き留めておくため、

霧が丘版エンディングノートを作成しました。

今後さらにLIFE（ライフ）を充実させるための

L（リビング）、I（アイデンティティ）、

F（ファイナンシャル）を発行する予定ですので、ご期待ください！

書き方講座も開催
していますので、
ご参加をお待ちし
ています！



<連絡先>霧が丘地区別計画推進委員会事務局 Tel：930-2307（緑区高齢・障害支援課）

長津田地区

長津田地区別計画推進委員会

地域

長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野、
長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

緑区の最西端・最北端に位置し、南北に広い地区です。西は東京都町田市、北は青葉区、南は瀬谷区、南東は旭区に隣接しています。区内で最も広く、人口、世帯数ともに最大となっています。

近年、地区の東西を貫いている国道246号線東側、長津田みなみ台の大規模開発に伴い、大型商業施設、大規模マンション等が増加し、転入者が増加しています。また、駅北口地区市街地再開発により、都市型住宅等の整備も進められており、駅周辺に保育施設が多くあります。

<主な関連施設>

最寄駅：長津田駅（JR横浜線・東急田園都市線・こどもの国線）

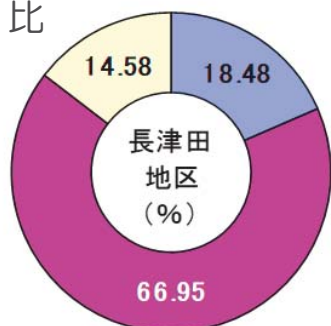
震災時避難場所（地域防災拠点）：いぶき野小学校、長津田小学校、長津田第二小学校、田奈中学校

地域ケアプラザ等：横浜市長津田地域ケアプラザ

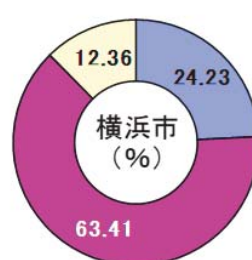
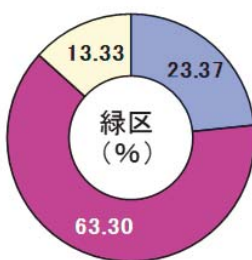
<年齢区分別人口>

平成30年(2018年)9月末

人口比



■ 高齢化率(65歳以上) ■ 生産年齢人口比率(15～64歳) □ 年少人口比率(0～14歳)



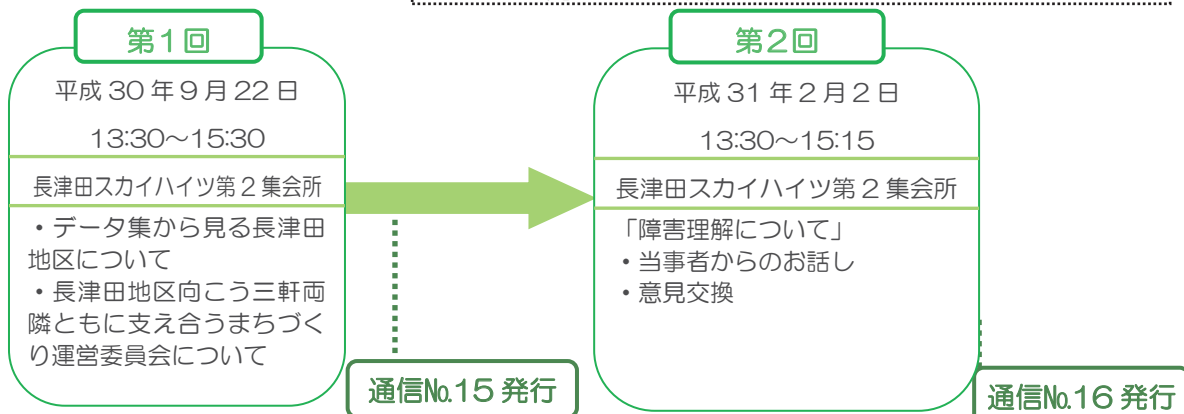
75歳～	3,508人
65～74歳	3,528人
15～64歳	25,496人
6～14歳	3,299人
0～5歳	2,252人
合計	38,083人

75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人

75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

注) 長津田みなみ台7丁目のデータは、新治西部地区・十日市場団地地区に集計しています。



緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



長津田地区



～向こう三軒両隣～ ともにささえあう
福祉の街 長津田 を目指して！

長津田地区では、『地域情報の発信と共有』『若い人も高齢者も活躍できる地域づくり』『日頃の見守りから「いざ」という時の支えあい』『認知症の人も障がいのある人も、その家族も暮らしやすい地域づくり』をすすめることを目標に、活動に取り組んできました。

「障害のある方への理解」の取組み

「障害」についての理解を進めるため、今年度は「発達障害」について学び、当事者から本人の障害についてや日々の過ごし方について話を聞きました。その後、グループワークにて、気づいたことや感想等を共有しました。



(写真：地区別計画推進委員会の様子)

「認知症」に関する取組み



今年度も、長津田地区社会福祉協議会主催の認知症講演会を実施します。

今年度は、「注文をまちがえる料理店のこれまでとこれから」をテーマに、間違えることを受け入れ、間違えることを一緒に楽しむというコンセプトの料理店の取組みから、認知症の方もこれから認知症になるかもしれない私たちも、安心して暮らし続けられるまちづくりを一緒に考えます。

元気づくりステーション誕生！

長津田地区初の元気づくりステーション、『元気じょうずになるサロン』が発足しました。食を通じた元気づくりを目標に、月1回、介護予防普及啓発事業のOBによる「長津田げんき応援隊」がレクリエーションを担当し、地域の方による手作りの介護予防活動が展開されています。

長津田ささえあいネット

認知症になっても
安心して暮らし続けられる

ふくしのまち ながつた

福祉の街 長津田

長津田地区別計画推進委員会



長津田地区別計画推進委員会 平成30年10月発行 第3期 No.5 (通算 No.15)
 <連絡先>長津田地区別計画推進委員会事務局 緑区地域振興課内 TEL: 930-2311

長津田地区別計画推進委員会通信



平成30年9月22日(土) 長津田スカイハイツ第二集会所において、今年度1回目の「みどりのわ・ささえ愛プラン長津田地区別計画推進委員会」を開催しました。

☑ 成長続けるまち・長津田。

- ・人口は増加傾向。今年春には**4万人を突破!**
- ・15歳未満の子どもの数も区内**11地区中最多**。約**5,600人**。
- ・高齢者のいる世帯は全体の**28%**で増加傾向にある。

(横浜市統計ポータル・緑区地区別暮らしのデータ集・平成27年国勢調査より)



☑ 長津田の地域福祉のこれまでの主な取組・成果・課題を確認



向こう三軒両隣共に支え合うまちづくり運営委員会
 ★これまで(H26~)の成果★

- ① **認知症の取組**
 ⇒「認知症講演会」の実施(毎年度、以降継続中)
 ⇒「認知症サポーター養成講座」の学校等での積極的な推進、徘徊模擬訓練検討
- ② **新聞販売店・介護保険事業者との見守り協定締結**
 ⇒地域の見守りネットワーク「**長津田ささえあいネット**」誕生
 ⇒平成28年度には地域の介護保険事業所にも協力を拡大して展開中
 ⇒南長津田団地での出張介護保険講座の開催、認知症講演会のPR協力など、見守りの枠を超えた各種連携した取組も実施
- ③ **「ハツラツ!健康麻雀」事業の実施**⇒登録者100人以上に拡大して展開中
- ④ **災害時における支援の充実**
 ⇒集合住宅向け安否確認用マグネットの作成、黄色いバンダナ掲出訓練
- ⑤ **「住民支え合いマップ」(孤立している人などを確認する手法)を区内初実施**
- ⑥ **他** 南長津田団地の福祉活動拠点(「カフェみなみ」)の整備・運営支援等
 高齢者外出支援事業アンケートの実施 などなど

様々な取組を進める一方、課題も・・・

- ・様々なテーマについて、課題検討から実行までを、いつも同じメンバーで行っているため負担感も大きく、課題感や議論の内容が偏りがちになってしまう。
- ・29の自治会、4万人の人口を抱える長津田において、少し将来のこれからの「長津田」を考えていく中では、**より多くの人々の声を集めながら、関われる様々な機会を増やしていけない**といけない。

そこで、今回はこれまでの取組・成果等を踏まえて、今後どんなテーマや取組を進めていきたいか意見交換を行いました。詳しくは裏面をご覧ください。



地域福祉保健計画とは・・・

「誰もが安心して暮らし続けられる緑区を目指して地域の福祉保健を推進するために区民の皆さま、事業者、行政が協働で取り組む計画」です。

プランの情報は動画でも紹介中⇒
 「みどりのわ 動画」で検索。



委員会で出たご意見の一部をご紹介します～4つのグループで検討・発表しました。



Aグループ/井上さん

健康マージャン、マップ、カフェ等各取組の実績があがっている。例えば、近所の結びつきを強く深めるために「ボランティアカード」を作成・配付し、それを提出すると何か特典がある等の具体的なアイデアが出てくるといいのでは。地域行事等への参加が限られている現状なので、もっと広報に力をいれつつ、参加しやすい取組にしていけたらいい。

課題に感じるのは、①高齢者支援 ②若い転入者の支援 ③自治会加入の3つ。この3つの課題が触れ合える場をつくる。つまり、お祭り、お餅つき大会等、各種イベントを継続・充実・拡充させていくことが大事！！



Bグループ/原田さん



Cグループ/松方さん

特に「子育て」では、赤ちゃん教室卒業後にふれあう場所がないため、そのニーズがある。さらに、自治会単位だと参加できない親子が生じてしまうので、自治会のくくりを外して、いくつかの地域で自治会加入未加入に関係なく一緒に取り組めるといいのではないか。そこから自治会のことも知ってもらえれば。



Dグループ/秋山さん

見守りに必要な人にどう気づけるか。集合住宅と戸建てでは見守り方も変わってくる。誰かとつながっていることが大事。そういったノウハウ等を自治会毎に共有できる、話し合えるような会議になっていくといい。

これまで長津田では特に「認知症」に関して力を入れて取り組んできたが、長津田は子ども・子育て世代もとても多いまち。子育ての悩みの声を聞くこともある。これからは専門部会的な組織を小規模に開いて、より身近な人たちが話し合える場をつくれたら、より具体的な声を反映した現実的な解決策が見つかるのではないか。

魅力的な、力を貸してくれる人はたくさんいると感じている。今後のキーワードは「親子に対する支援」。住民が自治会を知らないのが現実。どんなことをしているのか知ってもらうことが大切。情報発信が大切で、柔軟に対応していく必要がある。高齢者の場作りとともに、親子に対する支援もしていきたい。



井上敏正委員長

【平成30年度長津田地区別計画推進委員】(五十音順、敬称略、○:委員長)

秋山博昌、市木 智子、井上孝男、○井上敏正、井上宏子、大瀧正春、岡部茂男、岡部豊、荻野邦夫、柿崎恒彦、栗山孝子、小泉幸三、小林由美子、近藤光男、櫻澤廣美、佐塚保恵、佐藤英一、志田久男、鈴木和雄、鈴木勝、鈴木正光、沼尾礼子、原田ますみ、疋田文賢、福田幹男、藤野正義、本所敏江、前田寛、松方ひとみ、湯浅政一、横塚寛、横塚靖子、渡口博



長津田地区別計画推進委員会 平成31年3月発行 第3期No.6 (通算No.16)
 <連絡先>長津田地区別計画推進委員会事務局 緑区地域振興課内 TEL: 930-2311

長津田地区別計画推進委員会通信



平成31年2月2日(土) 長津田スカイハイツ第二集会所において、今年度2回目の「みどりのわ・ささえ愛プラン長津田地区別計画推進委員会」を開催しましたので、当日の内容をお伝えします。
 地域のみなさま、ぜひご覧ください!



第2回 テーマは、目標4にある障害についての理解

第3期(平成28年から平成32年の)長津田地区別計画の目

- ◆目標1 地域情報の発信と共有をすすめます
- ◆目標2 若い人も高齢者も活躍できる地域づくりをすすめます
- ◆目標3 口頃の見守りから「いざ」という時の支えあいにつなげます
- ◆目標4 認知症の人も障がいのある人も、その家族も暮らしやすい地域づくりをすすめます



発達障害の特性と理解について

最近耳にすることが多くなった“発達障害”という言葉。今回の地区別推進委員会では、発達障害は、ご本人の性格等ではなく、脳の機能障害であること、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等様々な障害名はあるけれど、発達障害は実はとても身近な障害であること、とても誤解されやすい行動等があるけれどそれ故生活のしづらさを抱えていること、そのため、障害に対する正しい理解と相手への思いやりを周囲の人が持つことで、ご本人の生活や気持ちが変わっていきます。

今回の地区別計画推進委員会では、そのために、地域で何ができるのかを考えてみました。



当事者の方からお話ししていただきました。

障害について意識したきっかけ: テレビで発達障害の特集番組を見ていたとき、自分自身の状態にあてはまるものを感じました。そのため自分で区役所相談に行き、その後医療機関を受診することになりました。

現在の暮らしは・・・: 訪問看護、訪問介護サービスを毎週利用し、掃除や買い物、調理等の支援を受けています。

暮らしの中で困っていること: 包丁が怖くて触れない、整理整頓ができない、知らない場所に行くと歩いている場所がわからなくなりパニックになる。人混みが怖く感じ、騒音で頭痛を起こすこともある。知っている場所でも変化があるとわからなくなる。人の顔を覚えられない。

今後の希望は・・・: ヘアスタイルや服装等を一緒に考えてくれる人がほしい、知り合いを増やし少しでも外に出られるようになりたい、人に必要とされていると感じる機会がほしい。

地域福祉保健計画とは…

「誰もが安心して暮らし続ける緑区を目指して地域の福祉保健を推進するために区民の皆さま、事業者、行政が協働で取り組む計画」です。



プランの情報は動画でも紹介中⇒
 「みどりのわ 動画」で検索。



委員会で出たご意見の一部をご紹介します～4つのグループで検討・発表しました。

当事者の方のお話では、自分で障害を客観的に判断する力があり、また他人とつながりたい思いがあり、この場に出席してくれた勇気に、心より感謝申し上げたい。**こどもにはまんべんなく声をかけ、障害と知っていても皆と同じようにやさしく見守る姿勢が大切**と感じる。



Aグループ/市木さん



本日は非常に貴重な体験ができた。まず、一人一人が当人の声を聞いて少しでも力になれる活動をしていきたいと思う。

Bグループ/疋田さん

こどもについては、気づきとつなぎの支援、民生委員の活動にも重なるが、**障害を持った方々のために場をつくっていただけるとよい**と話し合った。

長津田では**認知症の取組を続けて来て理解が広がってきたように、障害理解も広がっていくとよい**。



Cグループ/佐藤さん



Dグループ/佐塚さん

まずは知ることが大切。直接伺うことでしか理解できないことがある。本日は貴重な時間を持てた。グループワークで、民生委員の中で地域で、取り組みたいことも上がった。こどもの特性が明らかかな子には、学校でも様々な手立てをしているが、中学生になると社会につながっていくので、本人のためになること、できることを学校として今後も考えていきたい。小さな一歩を踏み出すことが大切。



井上敏正委員長

まちづくりのために地域の方々に話を伺うと、社協やケアプラさえない人が多い。**4万人を超える住民の多い長津田地区で、差別なく同じ目線で多様な話ができることが理想**。関係機関よりもまず身近な人に相談できる地域を目指していきたい。そのために、皆様には今後も協力いただきたい。

【平成30年度長津田地区別計画推進委員】(五十音順、敬称略、○:委員長)

秋山博昌、市木智子、井上孝男、○井上敏正、井上宏子、大瀧正春、岡部茂男、岡部豊、荻野邦夫、柿崎恒彦、栗山孝子、小泉幸三、小林由美子、近藤光男、櫻澤廣美、佐塚保恵、佐藤英一、志田久男、鈴木和雄、鈴木勝、鈴木正光、沼尾礼子、原田ますみ、疋田文賢、福田幹男、藤野正義、本所敏江、前田寛、松方ひとみ、湯浅政一、横塚寛、横塚靖子、渡口博

第3章 区域計画

● 「区域計画」の推進について

(1) 「区域計画」の構成と取組主体

区域計画は、「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と、重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」の2つで構成されています

この「地区支援目標」と「重点テーマと目標」の実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザが、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

(2) 地区支援目標

「地区支援目標」は、各地区で展開されている「地区別計画」を中心とした取組について、その充実や実現に向けて、助言等を行うとともに各種助成制度などの活用により、支援を行います。

また、「地区別計画推進策定委員会」や「地区支援チーム」における活動を通じて、各地区の取組を把握し、その手法やノウハウを蓄積して効果的に地域に情報提供することで、他地区にその取組を広げるとともに、取組の支援を行ないます。

目標1	地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！<つながり>
目標2	多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！<人材・担い手>
目標3	より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！<機会・場>
目標4	地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！<情報>
目標5	地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！<安全・安心・健康>

(3) 区域計画の重点テーマと目標

「重点テーマと目標」は、「区民アンケート」、「分野別・団体別グループインタビュー」や、各地区の「地区別計画推進策定委員会」などでの意見を参考に、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」の提言に基づき、区域での取組が必要と考えられる6テーマを選定しました。

また、「目標」や「主な取組」に関しては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザを中心に検討を進め、それぞれのテーマの必要性に関して、「背景と取組の方向性」「これまでの取組」「期待されること・求められていること」などを経て、項目を選定しました。

テーマ1	日常的な見守り体制づくりに関する取組	テーマ4	子ども・子育てに関する取組
テーマ2	認知症に関する取組	テーマ5	災害時に支援が必要な方への取組
テーマ3	障がい児・障がい者に関する取組	テーマ6	健康づくりに関する取組

(4) 「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」について

第1期、第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」が、地区別計画を含めた第3期計画での取組状況の把握や振り返りを行っています。

委員は、学識経験者、福祉保健活動団体等の代表などで構成しています。

<平成30年度の開催状況>

【第1回】平成30年10月9日

(内容)平成30年度上期推進状況、次期計画策定に向けて など

【第2回】平成31年3月20日

(内容)平成30年度下期推進状況・中間振り返りについて など

● 6つの重点テーマの推進状況

(1) 日常的な見守り体制づくりに関する取組

■ 緑区地域ケア会議～地域で安心して暮らしていくために必要な高齢者の見守りについて～

11月27日に区役所で緑区地域ケア会議が開催されました。今年度のテーマは「地域で安心して暮らしていくために必要な高齢者の見守りについて」としました。そのために、緑区が目指す「見守り」のある地域」のあり方、そのような地域をつくるために必要な取組について、現状や課題の共有と検討を進めました。

元気なうちから地域活動に参加して人とのつながりをつくっておくことも見守りにつながる。男性の参加や、介護サービスにつながらない方への支援は区としても課題。小さな変化に周囲が早く気づき、民生委員や地域包括支援センターにつなぐことができれば、適切に支援ができる。自治会、民生委員、地域包括支援センター、医療関係者、警察など、いろいろな人の重層的な見守りのある地域づくりを進めていくことの必要性が確認されました。(自治会、民生委員、老人クラブ、医療関係者、ケアマネジャー、サービス事業所、警察・消防、区社協、地域包括支援センター、区役所 計65名出席)



▲グループごとの意見交換の様子

(2) 認知症に関する取組

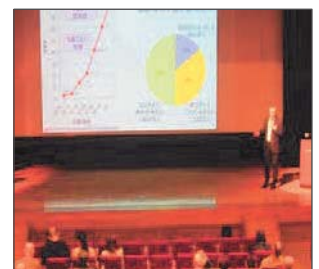
■ 緑区認知症シンポジウム

平成30年度緑区認知症シンポジウムが11月2日に緑公会堂で開催されました(193名参加)。第一部基調講演では、「認知症をポジティブにとらえよう!」をテーマに、認知症介護研究・研修東京センター センター長 山口晴保氏にご講演いただきました。第二部パネルディスカッションでは、同センター研修企画主幹 中村考一氏をコーディネーターに、地域で認知症の方を支援しているパネリストの皆様と、地域での支援者の取組を紹介しながら「認知症の人が安心して暮らせる地域づくり」について意見交換をしました。

認知症は、高齢者が「なりたくない病気の第一位」と言われています。しかし、超高齢社会を迎えた日本では、65歳以上の高齢者の5人に一人は認知症または軽度認知障害(MCI)となり、95歳以上の有病率は8割になると言われています。そのようななか、認知症のネガティブなイメージを減らし、認知症であっても持てる力を発揮して、幸せに生きることができること、それらのことを地域で示していくことで介護うつや負担感を減らし、認知症にやさしい地域づくりをしていくことが「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を進めていくことに欠かせない要素です。

【パネリスト】

- ・認知症初期集中支援チーム員・医師 北島明佳氏／緑区民生委員・児童委員協議会会長 横塚靖子氏
- ・霧が丘地区キャラバン・メイト 安本とよ子氏／緑区ケアマネジャー連絡会 高部篤史氏
- ・緑区グループホーム連絡会 高田朱美氏／横浜市中山地域包括支援センター 諏訪弘美氏



▲講演の様子

■ 横浜市認知症高齢者等 SOS ネットワーク～『見守りシール事業』開始～

外出時に行方不明になった認知症の高齢者等ができるだけ早く自宅に戻れるよう、ご本人の個人情報を守りながらご家族等への連絡につながる「見守りシール事業」を、12月から開始しました。

第3章 区域計画

(対象者)：認知症高齢者等 SOS ネットワーク事前登録及び警察への登録情報提供に同意し、迎えに行ける家族がいる横浜市民

(申込窓口)：区役所高齢・障害支援課、各地域包括支援センター

※迷っていると思われる高齢者等で、衣類や持ち物に貼られたQRコードシールがある場合は、シールをスマートフォンなどの携帯端末で読み取ります。シールに記載された電話番号のコールセンターに、シールに表示されたID番号を伝えると身元が判明し、コールセンターが家族等に連絡します。

(3) 障害児・障害者に関する取組

■障害者週間パネル展&みどりハートフルマーケット拡充

緑区役所では障害者の社会参加や生きがいづくりの支援と、障害理解の普及啓発を行っています。その一環で、12月第1週の障害者週間に合わせたイベントとして、前年に引き続き区役所敷地内で障害者通所施設の自主製品販売会「みどりハートフルマーケット」を、参加施設を増やした拡大版として行いました。また、新たに、障害児者による芸術作品の展示会やハンド



▲自主製品販売会

ベル演奏、ミドリンバッジの手作り体験を行いました(全3日間、24施設が参加、約600名が来場)。また、今年度は、緑区制50周年に合わせた取組として、オリジナル記念グッズの開発を施設と協力して行い、イベントやみどりハートフルマーケットの商品として販売を行っています。引き続き、共同販売の場の設定や販路拡大、共同販売の場を盛り上げるためのグッズ作成などの支援を行っています。

■みどり元気フェスタ～みどり地域活動ホームあおぞら「命の授業」シリーズ第2回

誰もが住みやすい社会を目指して！障害があってもなくてもみんなが楽しめるフェスティバル。みんなで作るフェスティバル。「みどり元気フェスタ」が1月27日緑公会堂で開催されました。

第一部は、神奈川大学特別招聘教授(元 宮城県知事/厚生省障害課長)浅野史郎氏をお迎えし、障害のある方々の地域生活にこだわり続けた浅野氏の熱い想いを伺い、地域生活を考える機会になりました。第二部では、仲良し夫婦ユニット『ケチャップマヨネーズ?』による「うごく!大きな絵があるコンサート」が披露されました。



▲講演会チラシ

(4) 子ども・子育てに関する取組

■みどり子育て支援連絡会と地域活動支援～新たな子育て支援の場の広がり～

区内の子育て環境の現状の共有と子育て支援が目指す姿を検討していく「みどり子育て支援連絡会」を開催しています。子育て支援の活性化を図ることを目的に、「全体連絡会」と「地区別連絡会」を開催しています。子育て支援の拡充の必要性が課題としてあがっていた三保地区・長津田みなみ台地区・白山地区で活動情報を掘り下げながら話し合い、身近なところで親子で集える場所が増えるよう進めてきました。▲「はくさん Happy mama's」



昨年度の「みほどんぐりの会」に続いて、子育て支援の場として白山地区で「はくさん Happy mama's」、長津田みなみ台地区で「よちよちみなみ台」が活動を開始しました。いずれも再開発が進んで子育て世代の転入者が増えている地区であることから、活動を通じて地区を知り、親しむ機会になるよう地区の支援者や関係団体なども協力して準備を進めています。

(5) 災害時に支援が必要な方への取組

■区内初の事例「災害時要援護者支援名簿」を提供 ～山下地区民生委員・児童委員協議会の取組～

地震などの災害発生時に、高齢者や障害者などの自力での避難が困難な方々の安否確認や避難支援などが迅速に行われるためには、日頃からの地域と要援護者との関係づくり、地域での支え合あい重要です。

緑区では、災害対策基本法により災害時要援護者名簿を作成するとともに、同法及び横浜市震災対策条例に基づき、地域の自主防災組織（自治会、地域防災拠点、民生委員児童委員協議会などのこと）と協定を締結したうえで提供できる制度があります。

今回、みどりのわ・ささえ愛プラン山下地区別計画推進委員会での災害時要援護者支援の議論から、山下地区民生委員・児童委員協議会から当該名簿提供協定締結の申請があり、情報共有方式による名簿提供が行われました。山下地区民児協では、提供された名簿をもとに、マップ化や戸別訪問を行い、支援が必要な人の情報把握等を進めながら、顔の見える関係づくりに取り組んでいます。



▲災害時要援護者支援ガイド

■緑区福祉避難所連絡会

横浜市では、大規模災害が発生した時に地域防災拠点や自宅での避難生活が困難な方のため、市内の社会福祉施設などと協定を締結して特別避難場所として位置付けてきました。平成30年4月からは、この名称が全国でも広く使われている「福祉避難所」に改められました。

区内では、特別養護老人ホームや地域ケアプラザ、障害者施設等あわせて25の施設と協定を締結しています。この施設の代表者にお集りいただき、福祉避難所の受け入れ態勢など、各種施設の運用見直し状況、災害時の連絡方法、警察への災害時緊急通行車両の事前届出などについて確認しました。

(6) 健康づくりに関する取組

■疾病の重症化予防事業

横浜市では、健康寿命の延伸のため、「よこはま健康アクション」事業を推進していますが、その一つである「疾病の重症化予防事業」が今年度から全区展開され、緑区でもスタートしました。区民の糖尿病の重症化を予防することで、QOL（生活の質）の向上、健康寿命の延伸を目指しています。

糖尿病などの生活習慣病の可能性のある方、医療機関より案内を受けた方を対象として、栄養士や保健師による定期的・継続的（原則3か月、改善状況を踏まえて判断）な相談支援を行っています。また、その他にも、糖尿病専門医による講演会（講師：横浜新緑総合病院 岡田千穂医師）や生活習慣病講座（2回）を開催しました。

■子育て世代の健康チェック～生活習慣改善事業～

家族の健康の要となる親世代、保護者の方を対象として、自己の健康を振り返り、家族の健康づくりに活かすための機会をつくる目的で、生活習慣病予防のための適切な運動や食事の摂り方を伝える生活習慣改善講座を開催しています。今年度は、子育て支援拠点「いっぽ」や「親子の居場所はなまる」、「山下親子の広場」の3か所で、健康チェックや食生活の見直し、歯の健康チェックなどのミニ講座を開催しました。



▲健康チェックの様子

生活困窮者自立支援制度

生活困窮者支援を通じた地域づくり ～地域ネットワーク構築支援事業～

「生活困窮者自立支援制度」は平成27年4月に開始され、生活保護制度の前段階のいわゆる「第2のセーフティネット」として、生活困窮者の支援に取り組む制度です。

この制度では、「生活困窮者の自立と尊厳の確保」と「生活困窮者支援を通じた地域づくり」を目指す目標と定めていますが、横浜市では「お互いに支え合える地域づくり」に向けて、平成30年度に「地域ネットワーク構築支援事業」(モデル事業)を緑区と栄区で実施しました。

この事業では、生活に困窮し支援を必要とする人の早期把握や地域と連携した支援を促進することを目的として、地域ケアプラザ等を拠点として地域の実情に応じた取組を行うこととなっています。

緑区では、地域ケアプラザ及びふじ寿か園地域包括支援センターと企画段階から調整を行い、役割分担するとともに、地域福祉保健計画で進める地域福祉施策との連動を円滑に進めるため、「地区支援チーム会議」「地区別計画推進委員会」など、庁内外での情報共有を進め、関係機関との連携を図りながら、次の取組を行いました。

＜主な取組内容＞

施設名	主な取組内容
十日市場 地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどもの居場所」に関する検討委員会の開催 ・「こどもの居場所」の設置・運営
長津田 地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅自治会を対象とした総合支援(アンケート調査の実施、生活支援情報の提供)
中山 地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援に関する連絡会の開催(多機関連携の推進) ・高齢者向けの講座(仕事やお金に関する)の開催
東本郷 地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等の買い物支援に向けた検討 ・移動販売等の試行の調整
鴨居 地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援・食支援団体等と地域関係者の意見交換会の開催 ・学習支援・食支援団体等支援
霧が丘 地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・「老い支度」に関する取組での連携 ・ファイナンシャルノートの作成など
ふじ寿か園 地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ネットワークサロンの支援者向け研修 ・自治会と連携した地域内での制度周知



▲買い物支援に向けた意見交換の様子(東本郷地域ケアプラザ)



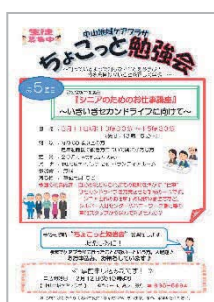
▲こどもの居場所イベントの様子とチラシ(十日市場地域ケアプラザ)



▲老い支度と取組：打ち合わせの様子とFノート(霧が丘地域ケアプラザ)



▲意見交換会「子どもと大人のeee場所づくり」(鴨居地域ケアプラザ)



▲高齢者向けお仕事講座のちらし(中山地域ケアプラザ)



▲住民アンケート用紙(長津田地域ケアプラザ)

●コラム 1ーぬくもりトーク（南長津田団地「カフェみなみ」） 「カフェからはじまる地域のつながり～ここ来れば、誰かに会える～」

南長津田団地のカフェみなみ運営委員会は、住民の高齢化が進んでいる当団地において、多世代交流を促進し、誰もが安全・安心に暮らせる団地を目指して活動しています。

当団地は、築45年以上が経過し、建物の老朽化と住民の高齢化が懸念される中で、地域の自助・共助の取組を活性化させるために平成28年度に地域福祉支援拠点が整備され、この活動が始まりました。

「ここ来れば誰かに会える」をテーマとして、カフェの運営のほか、多世代が交流できる様々な活動に取り組んでいます。平成30年6月からは、日頃のちょっとした困りごとを電話やFAXで相談してもらい、ボランティアがお手伝いをする「お助けマン」のような活動も始めました。

「カフェみなみ」に集まることで、孤立感がなくなったり、住民同士の困りごとなども共有することで、様々な課題の解決にもつながっています。

長津田地区は、高齢化が進んでいる地域や子育て世代が多い地域など環境は様々ですが、こういった多世代交流の場づくりを進め、地域の一層の活性化につなげていきます。

「カフェみなみ」は、木のぬくもりが感じられ、天井が高く開放的な空間になっています。土曜日以外、毎日15時までオープンしています。是非一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。



●コラム 2ー横浜市保健活動推進員制度発足70周年 ～地域に根付く健康づくりを！！～

保健活動推進員は、自治会の推薦を受けて市長から委嘱され、地域の健康づくりの推進役として様々な健康づくりの活動を担っています。昭和23年に保健活動推進員の起源である「横浜市衛生奉仕員」制度が発足し、その後「保健指導員」に名称を改め、戦後の地域の公衆衛生の向上において重要な役割を担ってきました。さらに、平成13年には、名称を「保健活動推進員」に改め、時代の変化に対応し、市民の生涯にわたる健康づくりと福祉保健課題の解決に向けた活動を充実させてきました。そして、平成30年度には発足から70周年を迎えました。

緑区では、平成30年12月現在、216名の保健活動推進員が活躍しています。身近な地域における健康チェックの実施、特定健診・がん検診の啓発等、様々な活動を通して区民の方々が自分の健康に関心を持ち、生活習慣を見直すきっかけとなるよう取り組んでいます。その長年の功績が認められ、平成31年2月に開催された緑区社会福祉大会では、区社会福祉活動に貢献した団体として表彰されました。

このように、保健活動推進員は、長年にわたって地域の健康づくりの推進役として活躍してきました。平成31年度には区制50周年を迎えますが、区民皆様のますますの健康づくりのため、これからもさらに地域に根差した健康づくりの取組を進めていきます。



●第37回 緑区社会福祉大会

平成31年2月26日（火）、第37回緑区社会福祉大会が開催されました。

当日は穏やかな雰囲気の中、日頃から地域で福祉・保健などの活動で活躍されている方々を中心に、433名の皆様にご参加いただきました。

【第1部】

第1部の式典では、緑区において永年にわたり、社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の方40名の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に式典（表彰）が行われました。



<▲表彰者 記念撮影の様子>



<▲式典（表彰）の様子>

また、会場2階ホワイエでは、「みどりのわ・ささえ愛プラン」のパネルと地区別計画推進委員会通信等の展示や、区内6か所の障害者施設・作業所の製品販売も行われ、多くの方でにぎわいました。

<▼緑区社会福祉大会チラシ>

第37回 緑区社会福祉大会
 【日時】平成**31**年**2**月**26**日（火）
 午後**1時30分**から**4時00分**【会場】緑公会堂

☆開場：午後1時00分
 【第一部】式典（午後1時30分～2時20分）
 社会福祉功労者・金品預託者の表彰
 ■区内の社会福祉活動に貢献した個人・団体を表彰します。

【第二部】緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」
 （午後2時30分～4時00分）
 <第3期計画重点テーマ>「健康づくりに関する取組」>
 『健康とほ何か？』
 ～このまちで、心豊かに暮らし続けるために～

■パネルディスカッション
 【パネリスト（予定）】
 ・藤田 隆子 氏（緑区保健活動推進委員会会長）
 ・押山千佳子 氏（緑区産生活動推進委員会会長）
 ・狩野 隼二 氏（健康まちがいつくろアドバイザー）
 【コーディネーター】
 村井 祐一 先生（みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会 委員長 / 田原県立学園大学 人間福祉学部 教授）

※事前申込不要、参加費無料、手話通訳有。
 ※当日会場にて、「みどりのわ・ささえ愛プラン」における各地区の取組紹介のパネルの展示、障害者地域作業所・施設の製品の販売を行います。

【問合せ先】
 緑区社会福祉協議会 電話：931-2478 FAX：934-4355
 緑区社会福祉センター福祉保健課事業企画担当
 電話：930-2304 FAX：930-2355

緑区50周年



<▲販売の様子>

【第2部】

休憩後、第2部がスタートしました。第3期地域福祉保健計画では、区域計画として6つの重点テーマを設けています。今年度はその中から、「健康づくりに関する取組」にスポットをあて、「健康とはなにか?～このまちで、心豊かに暮らし続けるために～」というテーマのもと、コーディネーターには、みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会の座長であり、田園調布学園大学教授の村井祐一氏、パネリストには、地域で活動されている3名の方をお迎えいたしました。



＜▲村井コーディネーター＞

●緑区保健活動推進委員会会長 勝田睦子 氏

今年度、発足70周年を迎え、区内では200名以上が活動しています。活動を通じて、自身の学びや気づきの機会にもなっており、健康意識も自然と高まります。できることをできる人ができる範囲で行うことが長続きの秘訣だと思います。無理した先に、健康はありません。健康づくりを一人で進めるにはエネルギーが必要なので、周りのみんなで助け合っていくことが大切です。



●緑区食生活等改善推進委員会前会長 岩澤鈴子 氏

「私たちの健康は、私たちの手で」をスローガンに活動を続け、今年で50周年。活動は多岐にわたり、分野や世代を越えた交流が、活動のモチベーションや、やりがいにつながっています。皆で楽しく活動することが仲間意識を高め、周りにも伝えたいという思いになり、それが地域活動のきっかけやつながりにつながっていくと思います。



●健康生きがいづくりアドバイザー 狩野陽二 氏



自治会活動をはじめ、地域の中でいろいろな活動をやっている、「社会参加」が健康づくりにつながっていると実感しています。ボランティアは大変だと言われますが、本腰を入れてやるとけっこう楽しいです。

地域活動に必要なのは「5K」、感謝・好奇心・公平・交流、そして健康。楽しさを重視する、皆が役割を持つ、新しい人も入りやすい雰囲気を作る、他グループと積極的に交流をする等が活動を長続きさせるには大切です。



＜▲会場の様子＞

健康づくりは「ひとりよりみんなで！」を共有できたパネルディスカッションでした。

●地域ケアプラザ・地域包括支援センターとの連携

地域ケアプラザは、市民の誰もが住み慣れた地域において健康で安心して暮らせるよう、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉保健サービス等を身近な場所で総合的に提供する施設です。

地域包括支援センターは、介護保険法に定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。横浜市では、地域ケアプラザ及び市が指定する特別養護老人ホーム（緑区では、「特別養護老人ホーム ふじ寿か園」）に、機能の一つとして地域包括支援センターを設置しています。

緑区内の地域ケアプラザ及び地域包括支援センターの紹介や主な取組は、P. 88～94をご覧ください。ここでは、共通の取組を紹介します。

【緑区制50周年記念プレイベント 歌声広場】

地域福祉理解促進と地域ケアプラザ周知、つながりづくりと活躍の場の提供を目的に、区内地域ケアプラザ（6ヶ所）とふじ寿か園地域包括支援センター、緑区社会福祉協議会、緑区役所が連携し、区制50周年プレイベントとして緑公会堂にて実施しました。

それぞれのケアプラザの特徴を生かし、ケアプラザで実施している「歌声広場」に参加されている方々、ケアプラザを活動拠点としているコーラスグループなどにご協力いただき、乳幼児から90歳を超える方までが舞台上に立ち、日頃の活動成果を十分に発揮されました。客席も含め大きな歌声が公会堂に響き、楽しい時となりました。



【地域活動交流コーディネーターハウス】

地域活動交流コーディネーター

地域ケアプラザの地域活動交流コーディネーターの職種を知っていただくことを目的に、区役所一階イベントスペースで「コーディネーターハウス」というイベントをおこないました。横浜市唯一の職種であること、職業として魅力的な職種であることを、地域や世代を越えてアピールする3日間になりました。

今年は2回目であり、昨年決定したマスコットキャラクターの名前を公募しました。キャラクターには地域の「地」、交流の「交」、交流の「流」、をもじってできた「チコル」という名前に決定しました。そのお披露目会もかねて、初日には発表セレモニーも行われました。



キャラクターの名前が「チコル」に決定しました。



コーヒーや紅茶を美味しく入れてくださるボランティアの協力もあり、日替わりメニューも楽しみながら、イベントを行うことができました。

● 東本郷地域ケアプラザ

東本郷地区は、地域の方々がつながりを大切にしながら積極的に活動を展開している地域です。いつまでも住み続けられる町づくりを目指し、高齢者支援、認知症関連、子育て支援、健康づくりの4つの委員会が組織され、自治会や民生委員・児童委員協議会、地区社会福祉協議会などから選出されたメンバーを中心に多くの活動が行われています。

東本郷地域ケアプラザも、委員会に参画するとともに、その他の活動でも地域の関連団体などと連携し、地域課題の解決に向けた支援や地域ニーズに基づいた事業などを展開しています。

【地域活動交流】

○地域の皆さんの活動支援や協働、情報提供の窓口です。

- ・貸 室 地域のグループが積極的に活動されています。夕刻、夜間は、比較的利用しやすい状況です。
- ・活動支援 「こんな活動がしたい。」「活動の講師を紹介して欲しい。」「活動を紹介したい。」などなど、それぞれのニーズに合わせてサポートしています。
- ・相 談 「障がい児・者の活動の場や、支援情報を知りたい。」「子どものことで相談したい。」「ボランティア活動をしてみたい。」「地域のサークルや趣味活動を知りたい。」など、一緒に考え、必要な機関や団体につないでいます。
- ・自主事業 高齢者向けのんびりサロン、子育てサロン、小中学生の体験などの活動を実施しています。



つながりを大切にする地域の象徴的なお祭り「郷まつり」にケアプラザブースを出展。

【地域包括支援センター】

○地域の身近な相談窓口です。

- ・相談支援 看護師、主任ケアマネジャー、社会福祉士の専門職が相談等に対応しています。
- ・権利擁護 誰もが住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けていけるよう権利擁護や成年後見の相談、支援により高齢者の生活(権利)を守ります。
- ・自主事業 コグニサイズを活用した介護予防や健康づくり講座、介護者のつどい、こころの病個別相談会などを定期的を開催しています。

【生活支援体制整備】

○高齢者の方の生活を支援しています。

- ・状況把握 活動参加や聞き取りの中から、地域の高齢者のニーズ把握を行っています。
- ・開発・支援 地域の方々とともに、必要なサービスの開発や支援を行っています。
- ・自主事業 皆さんが楽しみながら元気に過ごせるよう、体操やサロンを実施しています。

事業の紹介

平成 30 年度の取り組みの一部を紹介します！



子育て支援委員会の検討の中で、地域に子育て中の方や子どもたちが気軽に過ごすことのできる場所の必要性が確認され、ケアプラザの情報ラウンジの一角に子育てスペースを設置しました。乳幼児やその保護者の方から中学生まで、それぞれ思い思いに過ごされています。

● 鴨居地域ケアプラザ

案内図 P99

鴨居地域ケアプラザは「鴨居」「竹山」「白山」の3つの地区を担当しています。「鴨居地区」は鴨居駅を中心とした商業地と丘陵の住宅地、「竹山地区」は竹山団地を中心とした住宅地、「白山地区」は幹線道路沿いの産業・商業集積地および計画的な住宅地という特徴を持っています。

これらの地域の特徴や地域ニーズをふまえ、相談や様々な事業に取り組んでいます。

街中をこの「のぼり」でいっぱいになりたい!

「子どもと大人の eee 場所づくり」推進中!
～everyday enjoy egao～

地域包括支援センター・地域活動交流・生活支援体制整備共催(以下略)

地域の方が誰かとどこかでつながり孤立しないように、「子どもと大人の eee(毎日 楽しく 笑顔で)場所づくり」を推進中です。

その一環として、学習支援や食事支援、サロンなど地域の様々な集える場所を皆さんに知ってもらい、多くの方に足を運んでもらえるように。さらに、そんな場所がもっともっと増えるように、「子ども

と大人の eee 場所づくり」のロゴが入った「のぼり」を作成し、希望された団体にお渡ししています。

この「のぼり」が街中にはためき、そこからは楽しい笑いが聞こえる…そんな日を夢見て、皆さんの活動を包括・地域交流・生活支援がお手伝いしていきます。

包括・地域交流共催

ダンディキッチン

野菜の切り方から始まったシニア男性対象のお料理講座は、回を重ねるごとにステップアップ。今では自分たちでメニューを決め買い物をして、お節や天ぷらにも挑戦しています。



包括・地域交流・生活支援共催

プリティウーマン

50歳以上の女性のおしゃれと元気を応援する講座「プリティウーマン」を開催しました。正しい靴の選び方・栄養・口腔について、手や爪の手入れなどを8回にわたり行い、最後は写真撮影にのぞみました。その姿(?)は写真集でお楽しみいただけます。



● 中山地域ケアプラザ

中山地域ケアプラザでは、新治中部地区と三保地区の2地区（地域活動交流は山下地区を含む3地区）を担当しています。中山地域ケアプラザのある「ハーモニーみどり」は、緑区福祉保健活動拠点（緑区社会福祉協議会）、中山福祉機器支援センター、シルバー人材センター緑事務所、中山地区センターが入った複合施設です。複合施設内の関係機関とも連携しながら、より地域に根差した地域ケアプラザを目指します。

地域活動交流

赤ちゃんから高齢者まで、すべての方を対象に、お部屋の貸出しや講座の開催、ボランティア活動の相談・支援を行っています。



愛称「チコル」に決定！

生活支援体制整備

高齢になっても、地域の中で支えあい、自分らしく笑顔で元気に過ごせる地域づくりのお手伝いをしています。

地域包括支援センター

- ・福祉総合相談窓口として、地域の皆様の身近な相談を受け付けています。
- 例えば…
- 介護で困っている…介護保険の申請方法やサービスについてご説明します。
 - ご近所さんが悩んでいる…代わりの相談も受け付けます。
 - 介護予防について…介護保険までは必要ない方に講座等の紹介をします
 - 他には…お金の管理や成年後見制度など様々なお話を伺います。



平成30年度の取り組みの一部を紹介します！

認知症サポーター養成講座

認知症への理解を深め、認知症の方も生活しやすい地域を目指して



小学校やボランティア団体等に講座を実施しました。

きらり★シニアの健康講座

～ロコモを覚えて元気に暮らそう～

身体が十分に動き、自分がやりたいことができるよう、ロコモ（骨・関節・神経・筋肉など運動機能が低下する状態）を防ぐために、地域に出向き、教室を開催しました。

ちょこっと勉強会

普段何気なく耳にしている、知っているようで知らないことを専門家から正しく学ぶ講座を開催し、沢山の方に受講していただきました。

- ① 6月『鵜呑みにすると危険かも!?メディア情報』
- ② 9月『手話って何だろう?』
- ③ 11月『女性の心と体のトリセツ』
- ④ 1月『こころを元気にするストレスケア』
- ⑤ 3月『シニアのためのお仕事講座』



ハーモニーみどりまつり

ハーモニーみどり開設20周年を記念して、オープニングセレモニー、スタンプラリーを5施設で協働しました。ボランティアによるカフェも初出店しました。



福祉カフェボランティア

～H29年度に発足したボランティアグループが地域で大活躍！～

「ティーサロンなかやま（紅茶）」は“あおぞらカフェ”を月1回開催し、地域活動ホームあおぞらさんに美味しい紅茶を振る舞っています。

「珈琲たいむ（コーヒー）」は地域のグループホームを訪問し、入居者の目の前で挽きたての豆を丁寧にハンドドリップして提供しています。毎回とても歓迎してくださっています。また、お祭りやイベントでは、両グループが協力し合い、コラボカフェとして出店しています。

● 地域包括支援センターふじ寿か園

案内図 P99

介護保険法に定められた機関として、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、介護保険やその他のサービスを上手に利用するためのさまざまな支援を行っています。

地域包括支援センター「ふじ寿か園」は、特別養護老人ホーム「ふじ寿か園」に設置されており、山下地区を担当しています。

地域包括支援センター

<1>地域の相談窓口

地域の皆様からの相談を受けて、必要なサービスや機関につなげています。

<2>介護予防支援

体操教室や介護保険の講座などを実施しています。

また、介護度が比較的軽い要支援1・2と認定された人を対象として、介護予防プランを作成します。

<3>権利擁護

悪質な訪問販売の被害や、高齢者の虐待防止、成年後見人などの相談を受けています。また、年1回程度、専門家による相談会を開催しています。

<4>地域と連携した活動

地域の民生委員、保健活動推進員の皆様や、介護保険事業者などとのネットワークづくりにより、きめ細やかなサービスを行っています。また、地域団体の活動支援を行っています。

事業の紹介

■「山下ネットワークサロン」で介護予防講座、認知症サポーター養成講座など実施

「山下ネットワークサロン」は平成28年度緑区チャレンジ事業に採択され、3年がたちました。サロンの時間を借りて、介護予防講座、認知症サポーター養成講座、行政書士による相談会などを実施しました。サロンでは単なる茶話会ではなく、いろいろな情報が欲しいという声があり、サロン世話人、ボランティアの方々から相談を受け、講座に協力をしています。口腔講座や健康チェックなどは保健活動推進委員と協力して実施しています。口腔講座では、Mr.クッキングに協力してもらい、飲み込みの勉強で使用される料理を提供してもらいました。サロンをネットワーク化したことで、お互いに協力、交流が出来るようになりました。調整会議を通して情報の共有化をし、ネットワークが上手く機能していくように支援を行っています。

平成30年度の取り組みの一部を紹介します！

赤ちゃん教室の後に、もうすこしおしゃべりをしたいとの声からサロンに発展しました。毎週火曜日の午後に保健活動推進員、民生児童委員の方々を中心にサロンを開催しています。新米ママさんの情報交換の場、子供達はおもちゃを通して交流をしています。



● 十日市場地域ケアプラザ

十日市場地域ケアプラザでは、新治西部地区と十日市場団地地区の2地区を担当しています。

新治西部地区は、十日市場駅周辺に公共施設や商業施設が集中している一方で、農地や樹林地も多く残っています。十日市場団地地区は、市営住宅を中心とした地区で、丘陵地に計画的に整備されています。

また、十日市場地域ケアプラザは、緑図書館と緑ほのぼの荘（老人福祉センター）が併設された複合施設の中にあります。地域の皆様や複合館内を含めた関係機関と連携し、地域課題を反映した事業を展開しています。

地域活動交流

地域の皆様が福祉保健活動の場として、

幅広くご利用いただける施設です

- ・福祉保健活動の場としてのお部屋の貸出し
- ・ボランティア活動のご紹介
- ・地域の活動団体のご紹介・ご協力
- ・地域の方へ向けたさまざまな事業の開催などを行っています



健康講座

地域包括支援センター

- ・地域の身近な介護と福祉の相談窓口です
- ・地域の介護予防と健康づくりをサポートします
- ・高齢者の生活（権利）を守ります
- ・地域に出向き、相談会や講座を開催します



元気づくりST 『シラン』



びちびち健康教室(ヒルタウン)

生活支援体制整備

- ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるようお手伝いします
- ・いつまでも元気に暮らせるように介護予防などの活動を応援します
- ・趣味活動や地域活動への参加を応援します

事業の紹介

平成 30 年度の取り組みの一部を紹介します！

【こどものいばしょ こども村】

平成30年12月より、『こどものいばしょ こども村』が始まりました。

地域のいばしょの立ち上げに向けて、検討委員会を立ち上げ、地域の“子ども”の状況に関する意見交換や情報共有を進め、地域資源や多機関連携を視野に入れながら、課題解決に向けた何らかの取組に繋げていきたいと考えていました。



親子でつくる楽しい算数あそび

オープニングイベントとして、『親子でつくる楽しい算数あそび』を開催して、今後行ういばしょについての内容周知とネーミングコンテストを行い、子どもたちの投票で『こどものいばしょ こども村』となりました。

毎月第2、4水曜日、15時00分～17時00分に開催しています。

編み物などの手芸や遊び場として行っているのので、気軽にお立ち寄り下さい。



● 霧が丘地域ケアプラザ

案内図 P.99



霧が丘地区は、昭和50年代に大規模開発が行われ、街路樹、歩行者専用道路、公園などが計画的に整備された、緑豊かな街です。

霧が丘地域ケアプラザのある「霧の里」は、学校跡施設として整備された複合施設で、コミュニティハウスや防犯防災センター、地域スポーツ広場、インド系インターナショナルスクールが併設されています。

霧が丘地域ケアプラザは誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせるよう、身近な福祉保健の拠点として様々な取り組みを行っています。

地域包括支援センター

介護や福祉に関することはもちろん、生活に関することなど様々な相談を無料でお受けします。まずは、お気軽にご相談ください。

- ・介護保険に関する相談や講座など
- ・介護（認知症）予防、健康づくりをサポート
- ・成年後見、虐待、消費者被害等について
- ・ケアラー支援

健康づくり事業や介護予防事業として、体操教室、健康チェック、協力医による医療相談（無料）を開催しています。

地域活動交流事業

地域の皆さまへ学習機会の提供や障害者・子育て支援などを行っています。また、地域の方が活躍できる機会の創設や、活動・交流の場の提供、地域のネットワークづくりも実施しています。

- ・講座について
- ・ボランティアに関すること
- ・子育てに関すること
- ・部屋の貸し出しについて

健康づくり事業として地域包括支援センターと協力しながら、様々な講座を開催しています。

生活支援体制整備事業

地域で行われているボランティア活動やサロン、その他趣味サークルなどの紹介や、活動団体の立ち上げ、継続のための相談や支援をしています。

- ・地域の福祉サービス、活動に関する情報収集
- ・地域で活動する団体の支援
- ・住民主体の地域づくりの推進を図る



ケアプラザ協力医と職員

平成30年度『霧が丘まちともプラン』の取り組み

◆霧が丘まちともプラン◆

「いきいきと暮らす」「仲間とつながる」「学んで備える」「安心して暮らす」をテーマに、介護予防・仲間づくり・ボランティア活動支援・生活支援体制整備事業に力を入れ、誰もが住みやすい霧が丘を目指します！

「GT2 きりとも」に続き、今年度は「きりともGT4」元気づくりステーションがスタートしました！
3月からは毎週金曜日に、あかしあ多世代交流サロンにて「まちとも元気づくり教室」を開催します。



地域の方、区役所、区社協、ケアプラザが構成した「MSO 研究部」は、今年度4月に発行した「明日からのライフデザイン」をもとに、自身の思いを書き留めておくため、霧が丘版E（エンディング）ノートを作成し、地域向けのエンディングノート書き方講座を2回開催しました。

今後さらにLIFE（ライフ）を充実させるためのL（リビング）、I（アイデンティティ）、F（ファイナンシャル）を発行する予定です。



横浜市霧が丘地域ケアプラザ



● 長津田地域ケアプラザ

案内図 P99

長津田地区は、人口・世帯数とも緑区内最大の地区です。長津田駅周辺や長津田みなみ台の大規模開発などにより、人口増加が顕著で、若い世代が多いことも特徴です。

長津田地域ケアプラザは、長津田駅北口から300mほどの市営住宅スカイハイツ1階にあります。

地域の関係団体の皆様とともに「福祉の街・長津田」を実現するために、地域活動交流・地域包括支援センター・生活支援体制整備・居宅介護支援（ケアマネジャー）・通所介護（デイサービス）の5部門が連携し、地区内各所の地域ニーズの把握や課題解決に向けた様々な事業を展開しています。

【地域活動交流】

地域活動の相談・情報提供の窓口です。乳児から高齢の方、障がいのある方等を対象とした事業の実施、福祉保健活動の会場貸出、ボランティア活動の支援等を行っています。

【地域包括支援センター】

3人の専門職（主任ケアマネジャー、保健師等、社会福祉士）が、次のような相談をお受けします。

介護保険に関すること	地域の福祉サービス情報
認知症に関すること	権利擁護について

【生活支援体制整備】

地域の関係者や企業・商店等と連携し、高齢の方の社会参加や介護予防につながる取り組みを行っています。

上記のほかに、居宅介護支援事業（自宅での介護支援）、通所介護（デイサービス）の2部門があり、所内全体で連携して業務を行っています。



「知的障がいのある方と一緒に活動するボランティア入門講座」を開催しました



地域と共催で、身近な場所で元気づくり、仲間づくりができる多世代交流型のサロンを開催しました



見守りネットワーク「長津田ささえあいネット」協力事業所の方に地域での介護予防体操にご協力いただきました

事業の紹介



平成30年度の取り組みの一部を紹介します！

1 「長津田げんき応援隊」の活動について

「長津田げんき応援隊」は、体操や脳トレクを通じて、地域の皆様に元気のコツを伝える活動を行う、60代～80代の地域の方々に構成されているグループです。平成29年度に開催した「長津田わがまちボランティアげんきインストラクター講座」の卒業生により「長津田げんき応援隊」と名付けられ、平成30年度から横浜市元気づくりステーション「元気じょうずになるサロン」への協力、地域のサロンでの体操やレクリエーションを担っており、今後ますますの活躍が期待されます。



「長津田げんき応援隊」が地域のサロンで活躍中です

2 ボランティア養成・育成、ネットワーク化の支援について

主に定年後の男性が、地域の様々なボランティア活動や地域活動に参加するきっかけづくりとして、「男のたしなみ講座」を実施しました。また、ボランティアグループや個人で活動しているボランティア同士が、相互に強みを活かした交流が行え、活動の活性化につながる関係づくりを目的として、「つなぐ・つながる講座」「ボランティア交流会」を実施しました。その他、地区別計画の目標にもある、障がいのある人等も暮らしやすい地域づくりを目指して、「知的障がいのある方と一緒に活動するボランティア入門講座」を実施しました。これらのボランティア養成・育成講座の一連の流れを通して、更にボランティアが地域で活躍し、生き生きと活動を継続できるよう、支援していきます。



「男のたしなみ講座」で包丁の研ぎ方等に取り組みました

●区社会福祉協議会の主な取組

緑区社会福祉協議会では「区計画」の推進について、区役所及び地域ケアプラザと共に、全地区での地域課題の解決に向け様々な取組を行っています。平成30年度の取組の一部を紹介します。

ボランティアセンター（災害ボランティア）

●災害ボランティアセンターについての広報と周知

他県等の被災時の状況等を踏まえて、災害ボランティアセンターの役割を整理し、改めてマニュアルの整備を区役所とおこないました。その中で災害ボランティアセンターに繋ぐ役目として期待する区民ボランティアを「地域ナビゲーター」とし、地域のニーズをひろいあげたり、他県などからのボランティアを道案内する等の役割等も担ってほしいことを明記しました。2月には講座「災害ボランティアセンターについて知ろう」を開催し、創英大学の平野先生を講師に迎え、全国で運営された災害ボランティアセンターの事例から「災害ボランティアセンター」の役割と地域ナビゲーターに期待することを知っていただく講座を開催しました。

11月には区役所と災害ボランティアセンター立ち上げ訓練をおこない、テントの設営やデジタル無線の使い方などを点検しました。

今後地域防災拠点等でも広くその役割の説明をし、地域に災害ボランティアセンターを知っていただけるように周知していきます。



地区社協分科会 手引き研修

●地区社協分科会

平成29年度に改訂された「地区社協のてびき」をもとに、地区社協が地域で福祉を推進をしていくことの意義や目的は何かを見直す研修会を行いました。

地区社協分科会では地区社協の強みを活かして、地区の様々な団体が交わることで、活動の可能性を広げたり、自治会単位やご近所での見守り・支えあい活動が推進できるよう検討しています。

研修ではビデオや、カードを用いて「やって欲しいこと」と「できること」の組み合わせを考えることで、地域内での話し合いの重要性や課題などを知ることができました。

地区社協に求められる役割と向き合いながら、地域での解決するための結びつきや意義を再確認しました。



福祉施設等分科会 研修

●講演会「災害時の多様なニーズに応える・備えるための『避難所』運営について」を開催

発災時に施設が地域の中でどのような役割を期待されているか、実際の現場でどのようなことが期待されてきたかを知ること、災害時を含めた今後の施設運営の参考とするための研修会を開催しました。



災害時の現実として、①避難所と想定していない施設が避難施設になる可能性がある。②配慮や手助けの必要な人ほど避難が遅れるために避難所での場所の確保ができない。③直接的な被害では助かった命が、避難生活の中で損なわれることがある。ということから、多様な被災者に配慮・対応する避難所の運営を施設が担う必要が生じる場面があり得るという話がありました。

このような状況を想定し、日頃のつながりづくりから一歩進めて、①災害時には一施設だけで何とかしようと考えない。②外部支援の受け入れや信頼できて「助け」を求められる（同様に被災しない程度に遠い）ところとつながっておく。③避難所生活に日常を取り込むことで避難者の心の安定を促す。避難者を「お客さん」にしない工夫が重要。といった避難所運営時の心構えや取組みのヒントについて、お話しいただきました。

☆平成30年10月25日（木）中山地区センター会議室A/B
参加者49名



移動情報センター

●移動情報センターの取組

移動情報センターとは、横浜市独自の相談窓口であり、障害児・障害者のための移動に関する相談窓口です。



今までは、移動支援に関する専門相談窓口がないということで、移動に関する情報が集約されていないため、利用者自らが事業所を探して、問い合わせをしたり、そもそもどんなサービスを利用することができるかわからないという状況でした。

緑区では平成24年に開設され、様々な相談が寄せられています。

移動に困難を抱える障害者等からの相談に応じて、支援制度のご案内や、サービス事業所等の紹介・コーディネートを行います。

ご紹介する内容は、公的サービスだけでなく、タクシー事業者や地域のボランティアなど、移動に関する情報全般です。また、ボランティア育成として外出の付き添いをしてくださるガイドボランティア講座や事業者の情報交換会も行っています。

● 緑区役所の主な取組

緑区役所では、平成30年度の緑区政運営方針において、「次世代につなぐ みんなにやさしいまち～「ふるさと みどり」」を基本目標とし、その達成に向けた施策として、「安全・安心なまち」、「いきいき暮らせるまち」、「みどりの魅力あふれるまち」の3つの柱を掲げました。また、2019年10月の緑区制50周年に向けて、区民・事業者・関係団体等の皆様とともに、区制50周年を祝う機運を高めていくべく、各種事業に取り組みました。第3期みどりのわ・ささえ愛プランについても、区政運営方針に位置づけて進めています。今年度の主な新規事業を中心に実施状況を紹介します。

詳しくは区役所ホームページでも公表しています。

緑区政運営方針

検索

1 安全・安心なまち

(1) 災害に強いまちづくり

小学生を対象にした減災マップづくりワークショップは、昨年度とあわせ区内16校中14校で実施しました。

また、熊本県益城町へ防災視察を実施。町役場で避難所の運営を担当した職員から、被災後から現在までの避難所における問題点や女性視点での課題などを共有。緑区における今後の防災対策に繋げていきます。

今年度の区防災講演会では、防災システム研究所 山村武彦所長をお招きし、災害現場での共助・ささえあいの取組の重要性について講演いただきました。



▲区防災講演会チラシ

(2) 安全・安心な環境づくり

横浜市では、通学路など生活道路において、ビックデータ（ETC2.0）を活用した安全対策を進めています。今年度、中山町地区で、スムーズ横断歩道等の速度抑制対策の社会実験を実施しました。

梅田川一本橋めだか広場での休憩広場（12月）や北八潮地区尾根道等の歩行者空間（3月）を整備。

緑区の交通事故発生件数は減少傾向にありますが、高齢者の関わる事故の割合は全体の3割を占めていることから、緑区高齢者交通安全・防犯教室（1月・251人参加）等、今後も引き続き様々な機会を捉えて交通安全を呼び掛けていきます。

2 いきいき暮らせるまち

(1) 第3期「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進

第3期計画3年目の中間振り返りとして、関係課ヒアリングや振り返りチェックシートの作成、次年度実施予定の区民アンケートの準備等、次期計画策定に向けた作業を進めました。

広報活動としては、カフェスタイルのプランPRイベント「みどりのわ・Café」を開催（2回（竹山・山下）・計約220人参加）するなど、昨年度に引き続き展開しました。山下地区で開催したときは、現在建設中の横浜北西線やそのトンネル上部に建設予定の山下地域ケアプラザ（仮称：2021年春開所予定）のPRも行いました。



▲ みどりのわ・Café @ 山下ふれあいまつり

(2) 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子ども・子育て支援と次世代育成

引続き、関係団体・団体とのネットワークの活性化を図る「みどり子育て支援連絡会」を4回、児童虐待防止に向けた要保護児童対策地域協議会を、実務者会議1回、地区別連絡会8回（地区別計約200名参加）開催するなど、地域全体で子育てを見守る環境づくりを進めています。

(3) 地域における青少年の育成（子どもたちの地域社会への参画と体験の場づくり）

緑区制50周年に向けて、「夢みどり50プラン」（区制40周年を記念して区内の小中学生が描いた10年後の緑区の姿）の実現をめざすために、区内小中学校の代表児童・生徒が集まる「夢みどりリーダー会議」を開催しました。地域での各種活動・ボランティアとしての参加などに加え、今年度は、子どもたちが魅力的に思う地域のスポットを集めたマップを作成し、まとめたものを区役所ホールで展示しました。

(4) 高齢者・障害者施策の推進

地域包括ケアシステムの構築の検討・推進並びに次期緑区地域福祉保健計画の策定に向けて、昨年度作成した「緑区地区別暮らしのデータ集」に関連して、介護事業者の分布や医療機関情報、各地区の地域活動数などをグラフ・マップ化した別冊版を作成しました。

介護予防活動について、今年度は、霧が丘と長津田地区で新たに元気づくりステーションが立ち上がり、全地域包括支援センター圏域に整備されました。次年度も既に数か所で立ち上げの話があり、元気づくりステーションの取組はますます広がっています。



▲元気づくりステーション
きりともGT4

(5) 生涯にわたる健康づくりの推進

「食」を通じた健康づくりを推進するために、体験型食事診断を区役所で毎月開催している健康チェック「思いやり、健康づくりの日」に導入。新たな企画も取り入れながら、身近な場所で気軽に健康を振り返る機会をつくることにより、区民の健康づくりを継続的に支援していきます。また、若年層生活習慣病セミナーを地域の赤ちゃんサロンや子育て支援拠点等で展開するなど、今後も、新たな対象層へのアプローチとして地域展開を進めていきます。

緑区役所の階段に健康階段が設置されました。階段には地下1階から4階までの消費カロリーが掲示されています。制50周年を記念して、昔の中山駅の様子や、田園風景、緑区遺産等、緑区の魅力が詰まったデザインになっています。



▲緑区役所 健康階段

(6) 暮らしのなかのセーフティネット

生活保護受給世帯など、生活困窮者の自立に向けて、困難を抱える子どもの学習支援や就労支援を行っています。地域の学習支援団体を紹介する冊子も作成しました。活動のPRを進め、支援いただける方を増やしていきます。生活困窮者支援については、広報よこはま緑区版に9月号から連載コラムを掲載。ハローワークと連携した区役所に設置されている就労支援相談窓口「ジョブスポット」についても周知を進めています。ジョブスポット支援者269名のうち200名(74.3%)が就労開始しました。

3 みどりの魅力あふれるまち

(1) 区制50周年プロジェクト

平成31年10月の緑区制50周年に向けて、お祝いの機運を高めるため、PRグッズ作成や駅へのPR横断幕等の掲出等を実施しました。また、1月からは緑区今昔写真展(7か所)や、出生や婚姻の届出時の50周年記念お祝いメッセージカードの配布等の記念事業がスタートしました。実行委員会でも、オリジナルタオルやTシャツ、カレンダーを制作・販売する等、区民の皆様と一緒に様々なPRや関連イベントを実施しています。



▲50周年ラッピングカー

(2) みどりの魅力を活かした地域活性化

今年度新たに、区内に残る歴史的・自然的・文化的地域資源である「緑区遺産」をめぐる「緑区遺産ガイドウォーキング」を地区別3コースで実施。里山ガーデンでは、「50周年記念花壇」に地元自治会から協力を得て花植えや、春のお花講座等を開催しました。



▲緑区遺産ガイドウォーキング

(3) スポーツを通じた地域づくり

「ラグビーワールドカップ2019」、「東京2020オリンピック・パラリンピック」開催に向けた機運を高めるとともに、スポーツを通じた地域づくりを進めるため、オリンピックによるパトミントンレクチャーを開催しました。(池田信太郎選手、藤原大輔選手)

(4) 地域力の現状を踏まえたまちづくり

三保地区では、地域の空き店舗を活用した新たな活動拠点(三保町・集合住宅1階店舗部分)を整備しました。山下地区では、地域の乗り合いバス「ささえあいバス」について、全世帯アンケート等を行いながら実証運行を進め、来年度から本格運行を行うことを決定しました。

緑区内の地域ケアプラザ・地域包括支援センター

誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域をつかっていくための拠点として、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービスを身近な場所で総合的に提供する施設です。



★東本郷地域ケアプラザ

〒226-0002 緑区東本郷5-5-6
☎045-471-0661 ㊟045-471-0678

	<p>アクセス</p> <p>鴨居駅(JR)からバスで。「東本郷地域ケアプラザ前」「東本郷町」「泉谷寺団地前」バス停下車。</p>
--	--

★十日市場地域ケアプラザ

〒226-0025 緑区十日市場町825-1
☎045-985-6321 ㊟045-985-6325

	<p>アクセス</p> <p>十日市場駅(JR)から徒歩3分</p>
--	---

★鴨居地域ケアプラザ

〒226-0003 緑区鴨居5-29-8
☎045-930-1122 ㊟045-931-2203

	<p>アクセス</p> <p>鴨居駅(JR)から ●バスで。 「鴨居町」バス停下車。 ●徒歩で約10分</p>
--	--

★霧が丘地域ケアプラザ

〒226-0016 緑区霧が丘3-23
☎045-920-0666 ㊟045-922-6611

	<p>アクセス</p> <p>十日市場駅(JR)からバスで。「中丸入口」「萱場公園入口」バス停下車。</p>
--	---

★中山地域ケアプラザ

〒226-0019 緑区中山 2-1-1 (ハーモニーみどり内)
☎045-935-5694 ㊟045-935-5695

	<p>アクセス</p> <p>中山駅(JR・市営地下鉄)から徒歩7分</p>
--	---

★長津田地域ケアプラザ

〒226-0027 緑区長津田2-11-2
☎045-981-7755 ㊟045-981-7575

	<p>アクセス</p> <p>長津田駅(JR・東急)北口から徒歩5分</p>
--	---

★地域包括支援センターふじ寿が園

〒226-0024 緑区西八朔町773-2
☎045-931-1187 ㊟045-931-3990

	<p>アクセス</p> <p>中山駅(JR・市営地下鉄)からバスで。「宮前」バス停下車、徒歩10分</p>
--	--

<編集・発行>

横浜市緑区福祉保健センター 福祉保健課 事業企画担当

〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118

電話 045-930-2304 FAX 045-930-2355

電子メール md-fukuhoplan@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会

〒226-0011 横浜市緑区中山 2-1-1 (ハーモニーみどり内)

電話 045-931-2478 FAX 045-934-4355

電子メール info@midori-shakyo.jp

Web <http://www.midori-shakyo.jp/>